

2011

# SYLLABUS



**浦和大学**  
こども学部

# 目次

1. 人間総合科目	
文化・社会 .....	5
生命・自然 .....	19
コミュニケーション .....	29
2. こども専門科目	
こども総合 .....	43
こどもと家族の生活支援 .....	57
こどもと家族の心理 .....	69
子育てと教育の原理 .....	79
こどもの文化と環境 .....	111
保育・福祉・教育の現場に学ぶ .....	131

# 授業科目開講一覽表

★＝必修科目

区分	科目群	授 業 科 目	掲載頁	単位数	開 講 学 期								資格取得科目		
					1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		保育士	幼稚園教諭	
					前	後	前	後	前	後	前	後			
人間社会	文化・社会	コミュニティの社会学	7	2	○		○		○		○				
		法学（日本国憲法を含む）	8	2	○	○	○	○	○	○	○	○			■
		現代人と宗教	9	2		○		○		○		○			
		教育学概論	10	2	○		○		○		○				□
		やさしい経済学	11	2		○		○		○		○			
		歴史入門	12	2	○		○		○		○				
		美と表現	13	2	○		○		○		○				
		歌舞伎入門	14	2		○		○		○		○			
		日本文化	15	2	○	○	○	○	○	○	○	○			
	アジアの社会と文化	16	2		○		○		○		○				
	アメリカの生活と文化	17	2		○		○		○		○				
	生命・自然	自然科学の成立と発展	21	2	○		○		○		○				
		生命の倫理	22	2		○		○		○		○			
		生きる心理学	23	2	○		○		○		○				
		生活と環境	24	2	○		○		○		○				
		生き物の科学	25	2		○		○		○		○			
		健康とスポーツ	26	2	○		○		○		○		●	■	
体育実技		27	1		○							●	■		
コミュニケーション	スタディスキル	31	2		★										
	コミュニケーションスキル	32	1			○	○	○	○	○	○				
	コンピュータリテラシⅠ（基礎）	33	1	★										■	
	コンピュータリテラシⅡ（応用）	34	1		○		○		○		○			■	
	英語コミュニケーションA（こどもの文化）	35	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○		□	
	英語コミュニケーションB（日常会話）	36	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○		□	
	中国語コミュニケーション	37	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○		□	
	韓国語コミュニケーション	38	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○		□	
	キャリアデザインA（就職基礎）	39	1			★									
	キャリアデザインB（就職研究）	40	1					○		○					
	キャリアデザインC（就職実践）	41	1						○		○				
インターンシップ	42	2					○		○						
こども総合	こども理解と観察	45	2		★							○		■	
	こどもと福祉社会	46	2				★					○			
	こどもの人権	47	2			○		○		○		○			
	ジェンダーと家族	48	2			○		○		○		○			
	家族支援の展開	49	1					○		○		○			
	地域支援の展開	50	1						○		○	○			
	地域資源とネットワーク	51	2						○		○	○			
	国際こども福祉	52	2	○		○		○		○		○			
	フィールド演習	53	1		★									■	
	海外セミナー	54	2		○		○		○		○				
	卒業研究	55	2								★				
生活と家族支援の	社会福祉概論	59	2	★								●			
	児童家庭福祉論	60	2		○							●			
	社会的養護論	61	2				○					●			
	社会的養護内容	62	1					○				●			
	相談援助演習	63	1					○				●			
	保育相談支援	64	1						○			●			
	グループダイナミクス	65	1						○		○				
	家庭支援論	66	2				○					●			
	ボランティア・NPO論	67	2			○		○		○					
	こどもと家族の心理	発達心理学	71	2	○								●		□
		保育の心理学演習	72	1		○							●		
教育心理学		73	2				○		○		○			□	
家族の心理学		74	2			○		○		○		○			
こどもの心理療法		75	2					○		○		○			
保育カウンセリング		76	1					○		○		○		■	
子育てと父親		77	2						○		○				
コミュニティの心理学		78	2				○		○		○				

## ★＝必修科目

区分	科目群	授業科目	掲載頁	単位数	開講学期								資格取得科目			
					1年次		2年次		3年次		4年次		保育士	幼稚園教諭		
					前	後	前	後	前	後	前	後				
こども教育専攻	子育ての原理	保育原理	81	2	★								●	■		
		教育原理	82	2			○						●	■		
		こどもの保健Ⅰ	83	2			○						●			
		こどもの保健Ⅱ	84	2				○					●			
		こどもの保健演習	85	1					○				●			
		こどもの食と栄養	86	2			○						●			
		こどもの食と調理	87	1						○		○	○			
		保育内容総論	88	2		○								●	■	
		保育内容（人間関係）	89	2			○							●	■	
		保育内容（環境）	90	2			○							●	■	
		保育内容（健康）	91	2		○								●	■	
		保育内容（ことば）	92	2		○								●	■	
		保育内容（表現）	93	2			○							●	■	
		乳児保育	94	2			○							●		
		障害児保育	95	2				○						●	■	
		障害児保育演習	96	1					○			○		○	□	
		保育方法の研究	97	2					○			○		○	□	
		保育者論	98	2			○							●		
		保育所の運営	99	2			○		○		○					
		多文化と保育	100	2						○		○				
		教育社会学	101	2				○		○		○			□	
		教育の制度と経営	102	2			○		○		○				□	
		カリキュラム論	103	2				○						●	■	
		こどもと学習活動	104	2					○		○				■	
		教育の方法と技術	105	2				○			○				□	
		教職概論	106	2					○		○				■	
		保育・教職実践演習（幼稚園）	107～109	2						○		○		●	■	
		こどもの文化と環境	こどもの文化と環境	こどもと音楽A(理論・ピアノ・こどもの歌)	113	1	○								●	□
				こどもと音楽B(理論・ピアノ・簡易楽器)	114	1		○							●	□
造形表現（図画工作）	115			1		○							●	□		
児童文化	116			1				○			○					
ピアノ応用	117			1			○	○	○	○	○	○	○	□		
ピアノ実践	118			1			○	○	○	○	○	○	○	□		
声とからだ	119			1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	□		
器楽・合奏	120			1			○	○	○	○	○	○	○	□		
絵画制作	121			1			○				○		○	□		
イノセンスアート	122			1			○		○		○		○	□		
絵本と児童文学	123			2			○	○	○	○	○	○		□		
おもちゃ論	124			2			○	○	○	○	○	○				
保育教材演習	125			1	○	○							●	□		
あそびと科学	126	2			○				○			□				
国語	127	2				○	○	○	○	○		□				
算数	128	2					○	○	○	○		□				
幼児体育	129	1			○							●	□			
現場・福祉・学教育の	現場・福祉・学教育の	保育実習指導ⅠA	133	1			○						●			
		保育実習指導ⅠB	134	1				○					●			
		保育実習ⅠA（保育所）	135	2			○						●			
		保育実習ⅠB（福祉施設）	136	2				○					●			
		保育実習指導Ⅱ	137	1						○			○			
		保育実習Ⅱ（保育所）	138	2						○			○			
		保育実習指導Ⅲ	139	1						○			○			
		保育実習Ⅲ（福祉施設）	140	2						○			○			
		幼稚園教育実習指導	141	1				○	○	○	○				■	
		幼稚園教育実習Ⅰ（基礎）	142	2					○						■	
幼稚園教育実習Ⅱ（応用）	143	2							○				■			

●保育士必修科目 ○保育士選択科目  
■幼稚園教諭必修科目 □幼稚園教諭選択科目

# 人間総合科目 (文化・社会)

授業のタイトル（科目名） <b>コミュニティの社会学</b>	授業の種類 <b>(講義)・演習・実習</b>	授業担当者 <b>奥村 育栄</b>	
配当年次・時期 <b>1, 2, 3, 4 年次・前期</b>	単位数 <b>2 単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 本講義では、コミュニティにかかわる現象を、社会的な見方・考え方を用いてとらえ、考察していく。その際、理解したことや考えたことを言葉で表現する力を鍛えていくために、学習活動の一環として読む・書くという活動を組み込んでいく。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 本講義では、まず「コミュニティ」というものがこれまでどのように議論されてきたか、次にコミュニティに関連する人間関係や集団について、最後にコミュニティに関連するより具体的なテーマをとりあげていく。各回の講義の終わりに、講義内容の理解や自分とのかかわりなどを各々の受講生が振り返り、文章化する時間をとっていきたい。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b> コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション——社会的な見方・考え方とは</li> <li>2. コミュニティとは何か①</li> <li>3. コミュニティとは何か②</li> <li>4. 都市と農村①</li> <li>5. 都市と農村②</li> <li>6. ネットワーク</li> <li>7. 社会関係資本</li> <li>8. 住民組織</li> <li>9. NPO/NGO</li> <li>10. 子育てとコミュニティ</li> <li>11. 学校とコミュニティ</li> <li>12. 高齢者とコミュニティ</li> <li>13. エスニック・コミュニティ①</li> <li>14. エスニック・コミュニティ②</li> <li>15. 全体のまとめとふりかえり</li> </ol> <p>レポート／期末試験</p>			
<p><b>【準備学習】</b> 講義中に配布する資料を事前に読んだうえで講義に出席してください。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b> テキスト：テキストは指定しない（必要な資料等は、講義中に随時配布します） 参考文献： 船津衛・浅川達人著（2006年）『現代コミュニティ論』放送大学教育振興会 森岡清志編（2008年）『地域の社会学』有斐閣</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> 出席を含めた授業への取り組み：40% レポート／期末試験：60%</p>	

授業のタイトル(科目名) <b>法学(日本国憲法を含む)</b>	授業の種類 <b>(講義)・演習・実習</b>	授業担当者 <b>横手 逸男</b>	
配当年次・時期 <b>1, 2, 3, 4 年次・前期, 後期</b>	単位数 <b>2 単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	<b>幼稚園教諭必修</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 憲法、民法及び行政法の基礎知識を学ばせるとともに、私たちの生活のどのような場面で法との密接なかわりがあるのかを、具体的な事例を取り上げながら講義し、法の役割や作用を理解させる。社会の一市民として、日常生活を送るに際し必要な憲法及び法律の基礎知識を、具体的な事件・判例、論争の検討により、正しく認識させる。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 法は人間社会を規律する交通信号のようなものである。それゆえ社会生活を営むうえにおいてはこれらの法を正しく認識することが不可欠である。授業では社会のさまざまなきまり、法の目的、法の種類、裁判制度等を概観したうえで、結婚や離婚、交通事故、幼稚園での事故、犯罪と法、社会保障制度、社会福祉、環境問題など社会生活を送るに際し、われわれが直面すると思われる問題にスポットを当て、裁判で争われた具体的な事例をまじえながらわかりやすく講義したい。特に、保育現場における乳幼児の事故については、判例の検討を通じて、その法律上の問題点を詳しく検討する。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b> コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要、法の概念と特色（民法・行政法の基本）</li> <li>2. 憲法の基本原理，平和主義</li> <li>3. 基本的人権の体系、法の下での平等</li> <li>4. 精神的自由権（思想良心の自由・宗教の自由）</li> <li>5. 人身の自由（犯罪と法、罪刑法定主義、犯罪・刑罰、受刑者の処遇）</li> <li>6. 生存権（社会権規定、生活保護法、人間らしい生活とは）</li> <li>7. 社会保障と法（高齢化社会と社会保障、介護保険法）</li> <li>8. 権利擁護の制度（権利擁護の考え方、成年後見制度の知識）</li> <li>9. 家族生活と法（結婚・離婚に関する民法の規定・親権）</li> <li>10. 社会生活と法①交通事故（交通事故と損害賠償、加害者の責任）</li> <li>11. 社会生活と法②保育現場における乳幼児の事故</li> <li>12. 経済生活と法③ネズミ講・マルチ商法 (悪質商法の種類、訪問販売等に関する法律、クーリング・オフ制度)</li> <li>13. 環境破壊をめぐる裁判（環境権、被害者の救済、公害・環境裁判）</li> <li>14. 裁判制度、民事事件・刑事事件(法と強制力、法源、民事事件・刑事事件の進行)</li> <li>15. わが国の政治制度（三権分立、国会と内閣、議院内閣制）</li> </ol> <p>授業到達目標達成度判定の筆記試験</p>			
<p><b>【準備学習】</b> 毎回の授業の終りには、次回の授業予定とテキストの範囲を述べます。テキストの該当ページはあらかじめ一読して授業に臨んで下さい。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b> 新・初めての法学〔第2版〕法律文化社</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> (試験やレポートの評価基準など) 出席・小テスト 30% 期末テスト 70%</p>	

授業のタイトル（科目名） <b>現代人と宗教</b>	授業の種類 ( <b>講義</b> )・演習・実習)	授業担当者 <b>九里秀一郎</b>	
配当年次・時期 <b>1, 2, 3, 4 年次・後期</b>	単位数 <b>2 単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          宗教はもともと人間生活の中から生まれてきたものであり、生と死について、生きることの意味について、人が理解する営みに根ざしている。この授業では、「人がなぜ宗教を必要とするのか」ということをテーマに、身近な生活課題をとおして具体的に宗教を学ぶ。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          世界宗教の一つであるキリスト教と、その経典である「聖書」をもとに、日常生活の具体的なテーマをとおしてキリスト教的な視点を学ぶ。キリスト教の歴史と「聖書」の概要、特長的な考え方理解し、生・死・障害などの倫理的課題、福祉との関係などをテーマに考察する。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>          コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業概要</li> <li>2. 身近なキリスト教(1)</li> <li>3. 身近なキリスト教(2)</li> <li>4. 旧約聖書(1)</li> <li>5. 旧約聖書(2)</li> <li>6. 新約聖書(1)</li> <li>7. 新約聖書(2)</li> <li>8. キリスト教理解</li> <li>9. キリスト教福祉史(1)</li> <li>10. キリスト教福祉史(2)</li> <li>11. 日本のキリスト教福祉(1)</li> <li>12. 日本のキリスト教福祉(2)</li> <li>13. キリスト教福祉の課題(1)</li> <li>14. キリスト教福祉の課題(2)</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>評価</p>			
<p><b>【準備学習】</b>          事前に教会やキリスト教についてインターネット等を使用して情報を収集し、疑問点などを調査する。授業で課題を指示するので調査・検討を行い、レポートにまとめられるよう十分に考察する。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          (テキスト)          授業時にプリント配布          (参考文献)          『聖書』、『社会福祉と聖書』、石居正巳・熊澤義宣          監修、リトン、1998</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          平常点(出席状況・授業態度)：30%          レポート：70%</p>	

授業のタイトル(科目名) <b>教育学概論</b>	授業の種類 ( <b>講義</b> )・演習・実習)	授業担当者 <b>大西 公恵</b>	
配当年次・時期 <b>1, 2, 3, 4 年次・前期</b>	単位数 <b>2 単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	<b>幼稚園教諭選択</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b></p> <p>1. 日本の教育制度の変遷と学校・教員の歴史、大正期の新教育の教育実践、戦後の教育基本法の理念、義務教育、公教育についての概観を学び、そうした知見を通して現代の教育問題を考える視座を得る。</p> <p>2. 戦前の幼稚園創設から、実践の深まり、社会変動に対応した実践の変容を概観し、幼児教育に携わった教育者の理念や生き方から、教育の知見を得る。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b></p> <p>日本の近代学校が開始された明治5年から現代までの教育の理念、教育制度、子どもの学習のあり方、教員、教育方法の研究、子育ての意識等の変遷を中心に講義する。また、幼児教育の創設や実践の展開を担った教師の教育思想にも言及したい。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b></p> <p><b>コマ数</b></p> <p>1. 近代教育のはじまり：近世の子育てから近代的〈教育〉へ</p> <p>2. 近代学校制度の創設と教員1：近代学校の創設から定着まで、教員養成制度</p> <p>3. 近代学校制度の創設と教員2：教師の仕事、教育の目的・内容・方法</p> <p>4. 女子教育と女性教員：「良妻賢母」思想、女性教員の位置づけ</p> <p>5. 保育・幼児教育制度の創設：東京女子師範学校附属幼稚園</p> <p>6. 新教育運動と教育実践1：大正新教育の理念と教育実践の特徴</p> <p>7. 新教育運動と教育実践2：児童の村小学校</p> <p>8. 新教育運動と教育実践3：子どもの村保育園</p> <p>9. 昭和戦前期の保育研究：保育問題研究会</p> <p>10. 戦後教育改革：「戦後新教育」と教育基本法</p> <p>11. 現代の教育改革の動向</p> <p>12. 社会の変化と教育の問題：家族・地域・生活の変容と学校、子ども</p> <p>13. 教師をめぐる議論：教職の専門職性</p> <p>14. 家庭における教育：家族の変容、女性の生き方の変容、子育て観の変容</p> <p>15. 現在の子育ての問題</p> <p>試験</p>			
<p><b>【準備学習】</b></p> <p>講義に関する内容について、参考文献や講義で提示する関係資料の該当部分を事前に読み、質問したいこと、議論したいことを準備して授業に臨むこと。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b></p> <p>テキスト：使用しない</p> <p>参考文献： 木村元ほか著『教育学をつかむ』有斐閣、2009.4 広田照幸・塩崎美穂編著『教育原理—保育実践への教育学的アプローチ』樹書房、2010.3</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b></p> <p>平常点(出席状況・授業への取り組み)：30%</p> <p>レポート提出：30%</p> <p>期末試験：40%</p>	

授業のタイトル（科目名） <b>やさしい経済学</b>	授業の種類 <b>(講義)・演習・実習</b>	授業担当者 <b>中村 泰治</b>	
配当年次・時期 <b>1, 2, 3, 4 年次・後期</b>	単位数 <b>2 単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済と経済学の歴史を知ること。</li> <li>2. 経済の基本原則を理解すること。</li> <li>3. 政府の経済的役割を理解すること。</li> </ol> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b></p> <p>私たちの生活している経済システム（市場経済）を歴史と理論の両面から論じるとともに、現代においてますます重要性を増している政府の経済的役割について説明する。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b></p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済と経済システム</li> <li>2. 市場経済の特徴</li> <li>3. 世界市場の成立</li> <li>4. 産業革命と企業活動</li> <li>5. 企業の目標と形態</li> <li>6. 政府の基本的役割</li> <li>7. 市場と価格</li> <li>8. 資本と生産</li> <li>9. 労働市場と家計</li> <li>10. 競争の意義</li> <li>11. 金融の原理</li> <li>12. 財政の仕組み</li> <li>13. 経済政策(1)</li> <li>14. 経済政策(2)</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>試験</p>			
<p><b>【準備学習】</b></p> <p>テキストは使用しないが、基本的な経済入門書なら何でも参考文献になり得るので、いくつか読んでみるとよい。また、経済や財政に関するニュースに関心をもって見聞きすることも有益な事前学習となる。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b></p> <p>テキストは使用しない。参考文献として伊藤元重『はじめての経済学』（日経新聞出版社）をあげておく。</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b></p> <p>平常点(出席状況・授業態度)：20% 試験：80%</p>	

授業のタイトル (科目名) <b>歴史入門</b>	授業の種類 ( <b>講義</b> ・演習・実習)	授業担当者 <b>岩本 裕子</b>	
配当年次・時期 <b>1, 2, 3, 4 年次・前期</b>	単位数 <b>2 単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 過去を知ることは、現在を考える上で欠かせないことであると同時に、将来への展望を描く上にも欠かすことはできない。「歴史に学ぶ」ことを怠ると、現在に迷い、将来に憂うことになりかねない。真摯な気持ちで歴史に向き合いたい。とかく「暗記物」と敬遠されがちな歴史だが、映画を通して考えることによって受講生にとってより身近な問題として取り組ませたい。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 歴史を学ぶとは「暗記する」ことではなく「考える」ことである。21世紀を迎えた地球の現状（環境問題、民族や宗教紛争、貧困問題など）を見る上で原因究明や解決方法模索のためには歴史を学ぶ必要がある。戦争の世紀といわれた20世紀から平和を志向した21世紀に入ったにも拘わらず起こった「9月11日」以来、合衆国ばかりか世界が変わったと言われる。世界の歴史を考える上で、アメリカ史を通して歴史を学んでいく。「9月11日以降の世界を考える」を主たる目的として、20世紀以来残されたドキュメンタリーを含み、事実に基づいたアメリカ映画や身近な音楽を用いて視聴覚にも訴えながら講義を進める。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b> コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義内容紹介：時事ニュースから始める歴史学習</li> <li>2. 旧約聖書から読み解く中東和平：映画『プリンス・オブ・エジプト』</li> <li>3. ギリシャ神話から知る西洋：映画『トロイ』</li> <li>4. 西洋と東洋の出会いから生まれたヘレニズム文化：映画『アレキサンダー』</li> <li>5. 十字軍が聖地から持ち帰ったものは…：映画『ダ・ヴィンチ・コード』</li> <li>6. ケルト民族の伝説的英雄：映画『キング・アーサー』</li> <li>7. 大航海時代の始まり：映画『1492・コロンブス』</li> <li>8. アメリカ先住民の悲劇の始まり：映画『ポカホンタス』と『ニューワールド』</li> <li>9. アメリカ黒人奴隷貿易の実態：映画『アミスタッド』</li> <li>10. 南北戦争での逃亡奴隷と西方先住民：映画『グローリー』と『ダンス・ウィズ・ウルブス』</li> <li>11. 移民たちの夢「土地獲得レース」：映画『遙かなる大地へ』</li> <li>12. 日米関係を真珠湾攻撃と原爆投下から考える：映画『パール・ハーバー』</li> <li>13. ハリウッドが描くマッカーシイズム：映画『真実の瞬間』</li> <li>14. 「9月11日」以降の世界を考える：映画『ワールド・トレード・センター』</li> <li>15. まとめ（歴史入門を通して学習したことの整理）</li> </ol> <p>最終試験</p>			
<p><b>【準備学習】</b> 毎週予告する予習内容をきちんとこなしてから次週に臨むこと。毎回の復習を終えてから予習することは当然である。努力に期待している。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b> (テキスト) 岩本裕子『スクリーンに投影されるアメリカ』 (メタ・ブレン、2003年)  (参考文献) 随時講義で紹介する。</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> (試験やレポートの評価基準など) 出席重視のため、毎回一問一答のクイズ形式で出席確認用紙を提出する。手書きノート持ち込みの最終試験を主な評価基準とする。 平常点 20% 中間レポート 20% 期末試験 60%</p>	

授業のタイトル（科目名） <b>美と表現</b>	授業の種類 ( <b>講義</b> ・演習・実習)	授業担当者 <b>船木 美佳</b>	
配当年次・時期 <b>1, 2, 3, 4 年次・前期</b>	単位数 <b>2 単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 日常生活において美やその楽しさの発見者となり、またそれを表現することができる感性豊かな人間になることをめざす。受講生は知的好奇心を持ち興味の幅を広げていこうとする態度を望む。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 主に1980年代以降の美術作品やデザインワークをスライドで参照しながら、アイデアや発想の着眼点を探っていく。その多様性を学びながら、制作において「自分もやりたいことをやれる」事を学び、自分の美意識や価値観はいったいどこからやってきたのか考察していく。またそれを個人やグループで制作実験などしながら、実践する。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b> コマ数</p> <p>1. 授業の概要</p> <p>2. ○□△による構成を考える 個人ワークとそのプレゼンテーション(1)</p> <p>3. ○□△による構成を考える 個人ワークとそのプレゼンテーション(2)</p> <p>4. ヴィジュアル・コミュニケーションについて デザインワークから(1)</p> <p>5. ヴィジュアル・コミュニケーションについて デザインワークから(2)</p> <p>6. ヴィジュアル・コミュニケーションについて 1980年代以降の現代美術から(3)</p> <p>7. ヴィジュアル・コミュニケーションについて 1980年代以降の現代美術から(4)</p> <p>8. ヴィジュアル・コミュニケーションについて 本の形態から(5)</p> <p>9. デザインワーク 制作 個人ワークとそのプレゼンテーション(1)</p> <p>10. デザインワーク 制作 個人ワークとそのプレゼンテーション(2)</p> <p>11. グループワーク 制作 企画案提出(1)</p> <p>12. グループワーク 制作(2)</p> <p>13. グループワーク 制作(3)</p> <p>14. グループワーク 発表・発表会</p> <p>15. ヴィジュアル・コミュニケーションの多様化 レポートなど</p>			
<p><b>【準備学習】</b> できればブルーノ・ムナーリの絵本などに触れておくことが望ましい。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b> 参考文献： ブルーノ・ムナーリ著『デザインとヴィジュアルコミュニケーション』みずず書房 ブルーノ・ムナーリ著『ファンタジア』みずず書房 ブルーノ・ムナーリ著『ムナーリの機械』河出書房新社 ブルーノ・ムナーリ著『夜の間に』河出書房新社</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> (試験やレポートの評価基準など) 制作態度：20% 提出物(制作物・レポート)：50% 受講態度：30%</p>	

授業のタイトル（科目名） <b>歌舞伎入門</b>	授業の種類 ( <b>講義</b> )・演習・実習 )	授業担当者 <b>高野実貴雄</b>	
配当年次・時期 <b>1, 2, 3, 4 年次・後期</b>	単位数 <b>2 単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          2005年にユネスコによって世界遺産となった日本の伝統芸能のひとつである歌舞伎に接し、日本の伝統文化を見なおす。そして歌舞伎の諸様式を理解することで歌舞伎を生涯にわたって楽しめるような基本的な知識を獲得する。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          古典で難解だと思われる歌舞伎を、様々な約束事を知ることによって楽しめるようになるよう、そのきっかけをつくることをめざす。歌舞伎には12種類の様式（武智鉄二）があるとされ、現在、もうひとつの様式が加わりつつある。絶えず変化し、進化している演劇である。この講義では歌舞伎の主人公や、それにまつわる人たちやキー・ワードを毎回、取り上げて、歌舞伎の歴史やそこから生まれた諸様式の特徴を説明し、また、歌舞伎の中のいろいろな約束事を解説し、学生が歌舞伎の世界への関心を深められるよう講義を進める。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>          コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歌舞伎の特徴（律動性と絵画性）</li> <li>2. 現代の歌舞伎興行（俳優・裏方・音楽集団・興行会社）</li> <li>3. 出雲のお国（歌舞伎誕生）</li> <li>4. 廓文章と和事（上方歌舞伎）</li> <li>5. 市川団十郎と荒事</li> <li>6. 仮名手本忠臣蔵と義太夫狂言の特徴</li> <li>7. 義太夫狂言の写実化（丸本歌舞伎）</li> <li>8. 歌舞伎の B・G・M</li> <li>9. 京鹿子娘道成寺と歌舞伎舞踊のパターン</li> <li>10. 東海道四谷怪談（四世鶴屋南北の生世話）</li> <li>11. 河竹黙阿弥の世話物と江戸浄瑠璃</li> <li>12. 歓進帳と松羽目物</li> <li>13. 番町皿屋敷と新歌舞伎</li> <li>14. ヤマトタケルとスーパー歌舞伎（現代の歌舞伎）</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>試験</p>			
<p><b>【準備学習】</b>          下記の参考文献を予・復習の時、該当項目ごとに読む。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          （テキスト）          なし、プリントを配布。</p> <p>（参考文献）          『歌舞伎入門』岩波ジュニア新書</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          （試験やレポートの評価基準など）</p> <p>試験 90%          平常点(出席状況・授業態度) 10%</p>	

授業のタイトル (科目名) <b>日本文化</b>	授業の種類 (講義)・演習・実習	授業担当者 <b>高野実貴雄</b>	
配当年次・時期 <b>1, 2, 3, 4 年次・前期, 後期</b>	単位数 <b>2 単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 江戸期の都市（京・大阪・江戸）の消費過程で発生し進化した落語という笑いの文化を理解し日本の社会における人間関係の基層の文化を理解する。その落語がなぜおもしろいのか、歴史的な背景やことばの面からも解き明かすことで、落語を身近に感じ、よりいっそう深く味わえるようになることを目標とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 文化を都市の消費過程で生まれた精神的遺産と定義して江戸期の三都（京・大坂・江戸）で誕生し、進化している笑いの文化としての落語を取り上げる。落語の歴史や江戸の歴史的背景、話芸としての落語の言葉（日本語）の特徴、オチの分類、噺の展開のパターン、下座音楽等を総合的に解説し、落語が何故おもしろいのかを解き明かし、落語をいっそう深く味わうことを目標として講義を進める。また、以上の説明に際して、ビデオ、CD をふんだんに活用するほか、プロの落語家の実演を交えた授業の展開を行う。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b> コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 寄席の興行システムと寄席の符牒</li> <li>2. 実際に落語体験（ゲスト 金原亭馬生師匠）</li> <li>3. 落語の構造（マエオキ・マクラ・本題・オチ）</li> <li>4. 滑稽噺 v.s. 人情噺</li> <li>5. 落語のマエオキ、マクラ</li> <li>6. 落語の本題のパターン</li> <li>7. オチの様々Ⅰ</li> <li>8. オチの様々Ⅱ</li> <li>9. 落語のシグサ（手ぬぐいと扇子の使い方）</li> <li>10. 落語の歴史と亭号</li> <li>11. 正本芝居噺（落語と歌舞伎）</li> <li>12. 上方落語の特質（東京落語との比較を通して）</li> <li>13. 寄席囃子概説（組織と用途）</li> <li>14. 新作落語とは（ゲスト 三遊亭円丈師匠）</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>試験</p>			
<p><b>【準備学習】</b> 下記の参考文献で予・復習すること。（大学の図書情報センターに登録）</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b> （テキスト） なし、プリントを配布。</p> <p>（参考文献） 『落語の言語学』平凡社ライブラリー</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> （試験やレポートの評価基準など）</p> <p>試験 90% 平常点(出席状況・授業態度) 10%</p>	

授業のタイトル(科目名) <b>アジアの社会と文化</b>	授業の種類 ( <b>講義</b> )・演習・実習)	授業担当者 <b>陳 銀玉</b>	
配当年次・時期 <b>1, 2, 3, 4 年次・後期</b>	単位数 <b>2 単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>アジア社会の形成の歴史の多様さや、多民族の特性にもたらされた多種多様な文化や生活スタイルを講義すると共に、一つ一つの国の生活と文化を取り上げ、その類似点と相違点を理解し、アジア共生社会への移行まで目を向けていく。授業の目標としては、アジア社会の急激な変動及び統合の情勢に対応できる能力を身につけることである。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) アジア社会への理解</li> <li>2) アジア文化の特徴と魅力</li> <li>3) 東アジア諸国の生活と福祉文化</li> <li>4) アジアの共生社会の構築</li> </ol>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. アジアとはなにか</li> <li>2. アジア社会の歴史</li> <li>3. アジアの地理と多様な文化</li> <li>4. アジア社会の生活の独自性</li> <li>5. 日本の生活と文化</li> <li>6. 中国の生活と文化 I</li> <li>7. 中国の生活と文化 II</li> <li>8. 韓国の生活と文化</li> <li>9. インドの生活と文化</li> <li>10. フィリピンの生活と文化</li> <li>11. インドネシアの生活と文化</li> <li>12. タイの生活と文化</li> <li>13. マレーシアの生活と文化</li> <li>14. シンガポール</li> <li>15. アジアの共生社会へ</li> </ol> <p>試験</p>			
<p>【準備学習】</p> <p>授業の最後で毎回の準備学習として参考文献や資料調べ等について指示する。</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>(使用テキスト) 毎回プリントを配布 (参考文献)</p> <p>西川長夫『アジアの多文化社会と国民国家』 人文書院 1999</p> <p>沈潔編著『中華圏の高齢者福祉と介護』 ミネルヴァ書房 2008</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>平常点(出席状況・授業態度)：40% 試験：60%</p>	

授業のタイトル(科目名) <b>アメリカの生活と文化</b>	授業の種類 ( <b>講義</b> )・演習・実習)	授業担当者 <b>岩本 裕子</b>	
配当年次・時期 <b>1, 2, 3, 4 年次・後期</b>	単位数 <b>2 単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b> アメリカ文化を学ぶことにより、「アメリカ化」されたかに見える日本文化といかに異なるかを確認していく。異文化をその生活を通して学んでいく。祝日や宗教的な祭事（ハロウィーンやクリスマス、バレンタインデーなど）に表れたアメリカ社会の様相を、映画を通して理解させたい。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b> 日本人の生活がアメリカ化された事実を自覚しないまま我々は日々暮らしている。マクドナルドやコーラ等の表面的なアメリカ文化に留まらず、彼らの生活を知り、アメリカ文化の特殊性を考えていきたい。人種、宗教、民族、ジェンダーといった多文化要因をキーワードにアメリカ社会を考えると、アメリカばかりか世界のありようも見えてくる。アメリカ的生活をする日本人も国民性は大きく異なり、まさに異文化であることが実感されるだろう。ハリウッド映画やヒップ・ホップ等の若者文化を手がかりに日本の次世代に「文化」とは何かを問題提起したい。</p>			
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b> コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義内容紹介：身近なところに見つけるアメリカ文化</li> <li>2. 過ぎ越しの祭：映画『ファミリー・ビジネス』</li> <li>3. 復活祭：映画『イースター・パレード』</li> <li>4. メモリアルデー：映画『めぐり会えたら』</li> <li>5. 独立記念日：映画『7月4日に生まれて』</li> <li>6. ワシントン大行進：ドキュメンタリー『勝利を見すえて』</li> <li>7. レーバーデー：映画『スタンド・バイ・ミー』</li> <li>8. コロンブス・デー：映画『1492・コロンブス』</li> <li>9. ハロウィーン：映画『ET』</li> <li>10. 大統領選挙：映画『パーフェクト・カップル』</li> <li>11. 感謝祭（サンクスギビング・デー）：映画『34丁目の奇跡』</li> <li>12. クリスマス：映画『ホームアローン2』</li> <li>13. キング牧師誕生日：映画『ロング・ウォーク・ホーム』</li> <li>14. セント・パトリック・デー：映画『逃亡者』</li> <li>15. まとめ（アメリカの生活と文化で学習したことの整理）</li> </ol> <p>最終試験</p>			
<p><b>[準備学習]</b> 毎週予告する予習内容をきちんとこなしてから次週に臨むこと。毎回の復習を終えてから予習することは当然である。努力に期待している。</p>			
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b> (テキスト) 岩本裕子『スクリーンで旅するアメリカ』 (メタ・ブレーン、1998年初版2002年重版) (参考文献) 随時講義で紹介する。</p>		<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b> (試験やレポートの評価基準など) 出席重視のため、毎回一問一答のクイズ形式で出席確認用紙を提出する。手書きノート持ち込みの最終試験を主な評価基準とする。 平常点 20% 冬休みレポート 20% 期末試験 60%</p>	

# 人間総合科目

## (生命・自然)

<b>授業のタイトル (科目名)</b> <b>自然科学の成立と発展</b>	<b>授業の種類</b> ( <b>講義</b> )・演習・実習 )	<b>授業担当者</b> <b>田岸 義宏</b>	
<b>配当年次・時期</b> <b>1, 2, 3, 4 年次・前期</b>	<b>単位数</b> <b>2 単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          現代の私たちの便利な生活を可能にした、科学・技術はどのように生まれ、発展してきたかを科学史の視点から眺める。また、科学の発達の影響としての巨大核兵器、地球温暖化等、科学の発展が人間の幸福や倫理と両立するにはどうしたら良いか考える。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          自然科学の成立と発展を科学史の視点から眺め、「科学・技術とは何か」、「科学・技術はどのように生まれ、発展してきたか」、「人間と科学・技術との関わり」、「地球環境、公害、生命の諸問題」、さらにこれからの人類の生存に関する大きな問題として、「巨大核兵器、地球温暖化」等について、わかりやすく解説する。この講義を通して、21世紀の科学・技術の動向に関心を持ち、科学の発展が人間の幸福や倫理と両立し得るようにするにはどうしたらよいか考える。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>  <b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 序論：人間と科学の出会い</li> <li>2. 古典科学入門：ニュートン力学</li> <li>3. 電磁気学の発展</li> <li>4. 近代物理学入門(1)</li> <li>5. 近代物理学入門(2)</li> <li>6. 物質とエネルギー(1)</li> <li>7. 物質とエネルギー(2)</li> <li>8. 宇宙論入門(1)</li> <li>9. 宇宙論入門(2)</li> <li>10. 生命の発展</li> <li>11. 地球環境・公害問題(1)</li> <li>12. 地球環境・公害問題(2)</li> <li>13. 情報の科学・技術</li> <li>14. 21世紀の科学(1)</li> <li>15. 21世紀の科学(2)</li> </ol> <p>期末試験</p>			
<p><b>【準備学習】</b>          高校で学習した自然科学（物理・生物・化学・地学等）の内容をもう一度復習して、自分なりにまとめてみる。そして、これらが、われわれの日常の生活にどのように関わっているか意識的に考えてみる。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          毎回プリントを配布する。</p> <p>(参考文献)          藤城敏幸著『生活の中の物理』東京教学社          八杉龍一著『図解 科学の歴史』東京教学社</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>レポート 30%          期末試験 70%</p>		

授業のタイトル (科目名) <b>生命の倫理</b>	授業の種類 ( <b>講義</b> )・演習・実習 )	授業担当者 <b>奥波 一秀</b>	
配当年次・時期 <b>1, 2, 3, 4 年次・後期</b>	単位数 <b>2 単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          我々は他者との関わりの中ではじめて生きていくことが可能となる社会的・関係的存在である。しかしその関わり方如何によっては、かえって互いに傷つけあうことにもなりうる。特に現代社会においては、他者との関わり方の難しさが、様々なレベルで指摘されている。しかし、そのような時代にあつてこそ、最も根本的なレベルで、他者との関わり方について考えていく必要があるのではないだろうか。このような問題意識に基づき、自己も他者も共に「いのち」を生かしあう関わり方がどのようなものであるかを深く考えることが、この授業の根本的なねらいであり、従って、「いのち」を生かすことについて自分なりに考える姿勢を身につけることが、この授業の到達目標となる。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          人間の生命の取り扱いをめぐって生起している現代社会の諸問題をとりあげ、「いのち」への向き合い方を模索していく。特に、介護問題、人工生殖など、こどもの誕生から老後まで、「いのちのはじまりとおわり」を取り巻く社会的課題に重点を置く。各人が自分なりの「いのち」への向き合い方を模索していくとともに、現代社会に生きる人々、特にこどもの「いのち」を支える「ケア」の姿勢を身につけることを目指す。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>          コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション 生活と「いのち」を活かすこと</li> <li>2. おひとりさまの老後(1) 一家事の社会化の一環としての介護の社会化</li> <li>3. おひとりさまの老後(2) 一介護におけるジェンダー問題</li> <li>4. 代理出産(1) 一向井夫妻のケース</li> <li>5. 代理出産(2) 一法務省の見解</li> <li>6. 代理出産(3) 一野田聖子氏のケース</li> <li>7. 「孤育」の問題 一育児の社会化とその限界</li> <li>8. 体外受精をめぐる倫理的問題(1) 一事実問題／決定問題</li> <li>9. 体外受精をめぐる倫理的問題(2) 一ルール・決定の適切さ</li> <li>10. 体外受精をめぐる倫理的問題(3) 一人間中心主義の批判とその限界</li> <li>11. 体外受精をめぐる倫理的問題(4) 一厳格功利主義の意義とその限界</li> <li>12. 体外受精をめぐる倫理的問題(5) 一人格概念・所有概念の無用さ？</li> <li>13. 体外受精をめぐる倫理的問題(6) 一「すべり坂」論証の意義と限界</li> <li>14. 体外受精をめぐる倫理的問題(7) 一「目的」としての人間というカント的理念</li> <li>15. まとめの会</li> </ol> <p>小テスト</p>			
<p><b>【準備学習】</b>          参考文献の講読、関連する新聞記事の日常的なチェックなどを通して、生命倫理の問題の最新情報について毎週、アップ・デートしておくこと。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          (参考文献)          上野千鶴子『おひとりさまの老後』(法研)</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          (試験やレポートの評価基準など)          平常点(出席状況・授業態度)：15%          授業内小テスト：85%</p>		

授業のタイトル (科目名) <b>生きる心理学</b>	授業の種類 ( <b>講義</b> )・演習・実習 )	授業担当者 <b>菅野 陽子</b>																															
配当年次・時期 <b>1, 2, 3, 4 年次・前期</b>	単位数 <b>2 単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>																															
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          ひとが生まれて死ぬまでの人生を心理学的に考察することがねらいである。ひとというものに対して、多面的にとらえていく方法論を学ぶ基本姿勢を作ることが達成目標である。さらにはこの講義を通じて、受講生みずからの生きる喜びや意味を見出して欲しい。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          心理学はその起源をギリシア哲学に発しており、「こころ」という目に見えない対象を実証的に研究しようという学問である。したがって、その研究方法は、物理学や生物学の方法を応用した自然科学的なものから、哲学や現象学、社会学、歴史学の方法を応用した人文・社会科学的なものまで、さまざまな方法が用いられている。ここでは、そのような立場を網羅して、生物-心理-社会を切り口に、人間がひととして「生きる」ということを考察するのが目的である。そして、人間を暖かく心理学的に見つめる目を養ってもらいたい。そのために、幅広くできるだけわかりやすい「心理学」の概説が中心になる。今日的な話題について、学生とともに討議する参加型の授業も取り入れる。</p>																																	
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>          コマ数</p> <table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>心理学とは？この授業で学ぶ「生きる心理学」の位置づけ</td> </tr> <tr> <td>2. 心理学の歴史</td> <td>心理学、精神医学の歴史、臨床心理学の誕生と発展</td> </tr> <tr> <td>3. 悩み</td> <td>悩みの起こる原因、こころの病とは</td> </tr> <tr> <td>4. 癒し</td> <td>幼児～青年期の事例</td> </tr> <tr> <td>5. こころの発達過程</td> <td>誕生から思春期まで</td> </tr> <tr> <td>6. 悩み苦しむ子どもたち</td> <td>発育と学習面、対人関係、社会場面での行動の問題など</td> </tr> <tr> <td>7. 「生きる」(1)</td> <td>仕事、結婚、家族の誕生</td> </tr> <tr> <td>8. 「生きる」(2)</td> <td>人生の折り返し地点から (中年、老年期)</td> </tr> <tr> <td>9. 「生きる」(3)</td> <td>死を迎える</td> </tr> <tr> <td>10. 意識と無意識</td> <td>フロイトと後継者たち</td> </tr> <tr> <td>11. ストレス</td> <td>ストレスとストレス・マネジメント</td> </tr> <tr> <td>12. PTSD</td> <td>トラウマへの取り組み</td> </tr> <tr> <td>13. 心理療法</td> <td>さまざまな心理療法</td> </tr> <tr> <td>14. カウンセリング</td> <td>理論と技法について学ぶ</td> </tr> <tr> <td>15. まとめ</td> <td></td> </tr> </table> <p>試験</p>				1. オリエンテーション	心理学とは？この授業で学ぶ「生きる心理学」の位置づけ	2. 心理学の歴史	心理学、精神医学の歴史、臨床心理学の誕生と発展	3. 悩み	悩みの起こる原因、こころの病とは	4. 癒し	幼児～青年期の事例	5. こころの発達過程	誕生から思春期まで	6. 悩み苦しむ子どもたち	発育と学習面、対人関係、社会場面での行動の問題など	7. 「生きる」(1)	仕事、結婚、家族の誕生	8. 「生きる」(2)	人生の折り返し地点から (中年、老年期)	9. 「生きる」(3)	死を迎える	10. 意識と無意識	フロイトと後継者たち	11. ストレス	ストレスとストレス・マネジメント	12. PTSD	トラウマへの取り組み	13. 心理療法	さまざまな心理療法	14. カウンセリング	理論と技法について学ぶ	15. まとめ	
1. オリエンテーション	心理学とは？この授業で学ぶ「生きる心理学」の位置づけ																																
2. 心理学の歴史	心理学、精神医学の歴史、臨床心理学の誕生と発展																																
3. 悩み	悩みの起こる原因、こころの病とは																																
4. 癒し	幼児～青年期の事例																																
5. こころの発達過程	誕生から思春期まで																																
6. 悩み苦しむ子どもたち	発育と学習面、対人関係、社会場面での行動の問題など																																
7. 「生きる」(1)	仕事、結婚、家族の誕生																																
8. 「生きる」(2)	人生の折り返し地点から (中年、老年期)																																
9. 「生きる」(3)	死を迎える																																
10. 意識と無意識	フロイトと後継者たち																																
11. ストレス	ストレスとストレス・マネジメント																																
12. PTSD	トラウマへの取り組み																																
13. 心理療法	さまざまな心理療法																																
14. カウンセリング	理論と技法について学ぶ																																
15. まとめ																																	
<p><b>【準備学習】</b>          テキストや参考文献の資料を配布するが、次回の授業までにはかならず目を通して、必要な場合にはキーワードなど下調べをしておくこと。</p>																																	
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          (テキスト)          菅佐和子・高橋浩一・名取琢目・高月玲子・橋本やよい著『臨床心理学の世界』有斐閣 (2002.6)          その他、関連資料をプリントで授業ごとに配布する。          (参考文献)          Richard Gross 1999 “THEMES ISSUES and DEBATES in PSYCHOLOGY” Hodder &amp; Stoughton</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          (試験やレポートの評価基準など)          期末テスト 70%          平常点(出席、授業態度、提出物含む) 30%</p>																																

授業のタイトル (科目名) <b>生活と環境</b>	授業の種類 ( <b>講義</b> )・演習・実習 )	授業担当者 <b>田岸 義宏</b>	
配当年次・時期 <b>1, 2, 3, 4 年次・前期</b>	単位数 <b>2 単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          現代社会を支える高度テクノロジーの基礎である自然科学の基本的な考え方を理解し、科学的な思考方法を学ぶ。また同時に、これらの科学技術が我々の生活環境に及ぼす様々な課題についての認識を深めるとともに、自らの問題として考えられるようにする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          現代社会を支える高度テクノロジーの基盤である自然科学の基本的な考え方を理解し、21世紀に生きる現代人の知恵と技術およびそれらの環境に及ぼす問題点を考える。具体的には日常生活に入り込んでいる、様々なハイテク電子部品、エネルギーとしての原子力、さらに放射線の医療への応用等に関する科学・技術の基本を理解し、これらの環境に及ぼす関連、例えば環境放射能、地球温暖化問題等について具体的かつ科学的に考察し、問題点をあらいだし、その対策を考える。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>          コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の目的と準備</li> <li>2. 自然科学の基礎。力・運動・エネルギー(1)</li> <li>3. 力・運動・エネルギー(2)</li> <li>4. 熱の科学</li> <li>5. 電磁気学の基礎</li> <li>6. 物質とミクロな世界(1)</li> <li>7. 物質とミクロな世界(2)</li> <li>8. 宇宙と地球の科学</li> <li>9. 新しいエネルギー源(1)</li> <li>10. 新しいエネルギー源(2)</li> <li>11. 放射線の医療への応用</li> <li>12. 放射線の人体に及ぼす影響</li> <li>13. 環境放射能</li> <li>14. 地球の温暖化</li> <li>15. 様々な環境問題</li> </ol> <p>期末試験</p>			
<p><b>【準備学習】</b>          科学技術が進歩し生活は大変便利になったが、様々な問題が生じてきた。特に環境問題は全人类的な課題である。各自、身近にあるこれらの問題について、具体的な例を挙げ、事前に考えをまとめておく。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          毎回プリントを配布する。</p> <p>(参考文献)          御代川貴久夫著『環境科学の基礎』培風館</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>レポート 30%          期末試験 70%</p>		

授業のタイトル（科目名） <b>生き物の科学</b>	授業の種類 ( <b>講義</b> )・演習・実習 )	授業担当者 <b>鶴ヶ谷 柊子</b>	
配当年次・時期 <b>1, 2, 3, 4 年次・後期</b>	単位数 <b>2 単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義や観察から、生物の世界を理解する。</li> <li>・ 遺伝子組み換えや生殖医療など、現代のバイオテクノロジーについて情報を収集し、その利点や問題点などについて考える。</li> </ul> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b></p> <p>地球上には様々な生物が存在し、生物であふれている。人間も地球上に存在する生物の一種にすぎない。DNA など生物の体を構成する物質から生物の集団までを講義や観察を通して学び、さらに現代のバイオテクノロジーについても考える。</p>			
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b></p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業概要</li> <li>2. 細胞(1) 概要</li> <li>3. 細胞(2) 観察</li> <li>4. DNA と遺伝子</li> <li>5. アミノ酸とタンパク質</li> <li>6. 代謝</li> <li>7. 免疫</li> <li>8. 受精と発生(1) 概要</li> <li>9. 受精と発生(2) 観察</li> <li>10. 生物の集団と環境</li> <li>11. 生物の分類(1) 観察</li> <li>12. 生物の分類(2) まとめ</li> <li>13. 生物の進化</li> <li>14. バイオテクノロジーとは何か</li> <li>15. バイオテクノロジーについて考える</li> </ol> <p>試験・レポート等</p>			
<p><b>[準備学習]</b></p> <p>講義で扱った内容を復習し、理解しておく。</p>			
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b></p> <p>テキスト：          随時、資料を配布します。</p> <p>参考文献：          新版 生物学と人間 赤坂甲治編 裳華房</p>		<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b></p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>出席を含めた平常点：20%</p> <p>試験：40%</p> <p>レポート：40%</p>	

授業のタイトル (科目名) <b>健康とスポーツ</b>	授業の種類 ( <b>講義</b> )・演習・実習 )	授業担当者 <b>水上 健一</b>	
配当年次・時期 <b>1, 2, 3, 4 年次・前期</b>	単位数 <b>2 単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	<b>保育士必修 幼稚園教諭必修</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          自分の生活を振り返り、生涯を通じて、心身ともに健康であるためには何が必要か、健康な生活に欠かせないものは何かについて学び、討議し、まとめる。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          現在の子どもや大学生の心身に生じている様々な問題（拒食症などダイエットによる弊害、不登校や引きこもりなど心の病、生活様式・環境・遊びの変化による運動能力の低下など）について現状を把握し、要因を探り、考察することにより健康に関する関心を高め、その重要性を知る。また、保育士・幼稚園教諭として、生涯にわたり健康で快適な生活を送るために必要なことを学び、その一つの要因であるスポーツを楽しむことの必要性を認識することを目指した講義を行う。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>          コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス 「健康とは」</li> <li>2. 生活習慣病について(1)</li> <li>3. 生活習慣病について(2)</li> <li>4. 自分の食習慣を検討する</li> <li>5. 健康な食習慣について(1)</li> <li>6. 健康な食習慣について(2)</li> <li>7. 体力診断テスト</li> <li>8. 体力測定結果を考察する</li> <li>9. 自分の運動習慣を検討する</li> <li>10. 運動の重要性について(1)</li> <li>11. 運動の重要性について(2)</li> <li>12. 休暇中の運動プログラム</li> <li>13. 現代の子どもの健康について(1)</li> <li>14. 現代の子どもの健康について(2)</li> <li>15. 運動習慣・食習慣を振り返って (まとめ)</li> </ol> <p>試験・レポート等</p>			
<p><b>【準備学習】</b></p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          授業時に適宜紹介する。</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          (試験やレポートの評価基準など)          出席、授業に取り組む態度、提出課題、期末テストにより総合的に評価。          平常点(出席・授業態度) 30%          提出物 10%          期末テスト 60%</p>		

授業のタイトル (科目名) <b>体育実技</b>	授業の種類 ( 講義・演習・ <b>実習</b> )	授業担当者 <b>水上 健一</b>	
配当年次・時期 <b>1年次・後期</b>	単位数 <b>1 単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	<b>保育士必修 幼稚園教諭必修</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術の向上ではなく、様々な課題に積極的に取り組む姿勢を養う。</li> <li>・仲間と協力して、一つの作品を創り上げる。</li> </ul> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b></p> <p>この授業では、子どもの運動能力の発達段階を知り、それぞれの段階に応じた運動あそびを考え、実践する。また、表現あそびやリズムあそび、ダンス、ゲームなどの様々な活動を通して、動くことの楽しさを知り、積極的に運動に参加できる態度を養う。そして、保育の現場に即した運動あそびや態度を学ぶとともに、将来、安全面に配慮した指導を行うことができるよう、器具・用具などの安全な使用方法を学ぶ。これらの学習を進めながら、保育者として自らに求められる基礎体力に目を向けさせ、それを身につけることができるよう指導する。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b></p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・コミュニケーションゲーム</li> <li>2. 体操・ゲーム・運動あそび(1)</li> <li>3. 体操・ゲーム・運動あそび(2)</li> <li>4. 体操・ゲーム・運動あそび(3)</li> <li>5. 体操・ゲーム・運動あそび(4)</li> <li>6. 器具・用具を使つての運動あそび(1)</li> <li>7. 器具・用具を使つての運動あそび(2)</li> <li>8. 器具・用具を使つての運動あそび(3)</li> <li>9. 器具・用具を使つての運動あそび(4)</li> <li>10. 表現あそび・ダンス(1)</li> <li>11. 表現あそび・ダンス(2)</li> <li>12. 表現あそび・ダンス(3)</li> <li>13. 表現あそび・ダンス(4)</li> <li>14. 表現あそび・ダンス(5)</li> <li>15. 創作ダンスの発表に向けた練習</li> </ol> <p>定期試験、実技試験 (創作ダンスの発表)</p> <div data-bbox="683 1012 1254 1116" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">       マット・平均台・跳箱・鉄棒・ボール・フラフープ・プレイバルーン・縄     </div>			
<p><b>【準備学習】</b></p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b></p> <p>特にテキストは指定しないが、下記参考文献を予習・復習に活用してほしい。</p> <p>(参考文献)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前橋明『0～5歳児の運動あそび指導百科』2004年、ひかりのくに、¥2500</li> <li>・西洋子ほか『子ども・からだ・表現～豊かな保育内容のための理論と演習～』2003年、市村出版、¥2200</li> </ul>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b></p> <p>授業に取り組む態度 (出席状況・提出物・忘れ物含む) 40%</p> <p>定期試験(実技) 60%</p>		

# 人間総合科目 (コミュニケーション)

<b>授業のタイトル (科目名)</b> <b>スタディスキル</b>	<b>授業の種類</b> <b>( 講義・演習・実習 )</b>	<b>授業担当者</b> <b>岩本・高野・船木・五十嵐・柴田・田中</b>							
<b>配当年次・時期</b> <b>1年次・通年</b>	<b>単位数</b> <b>2単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>必修</b>							
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          大学での学びの技術と、社会人としての基礎的能力を身につける。題材は、実生活のさまざまな場面想定して、身近な事柄を取り上げる。人生のさまざまな局面を考えることにより、自分の進むべき方向を見出し、社会人となるために必要である大学時代の学問等に、より真剣に取り組むことができるようになることをめざす。</p> <p>各課題に対して、各自の“ワークブック”を完成させる。実際の作業と練習により、社会人としての基本的な力が身につくであろう。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          大学での学びの技術と、社会人としての基礎的能力を身につける。題材は、実生活のさまざまな場面ならびにこどもに関わるさまざまな場面を想定して、身近な事柄を取り上げる。具体的には、スケジュールの立て方、テーマに沿った文献収集、文献や資料の読み取りとその要約、図表化表現、手紙の書き方、レポート・報告書作成、発表して人に伝える方法等について練習する。特に、文章を読解し、要約し、それを図表化して人に伝えるという作業を、ひとつひとつきめ細かく指導する。</p>									
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>  <b>コマ数</b></p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第1回ステップアップ (学習度合い確認) Who am I? (自分の将来像、子供像) 要約、グラフ</li> <li>2. ノートの取り方 メモの取り方</li> <li>3. スケジュールの立て方 アルバイト、サークル活動、資格取得と学問との両立、提出物の作成予定と期限厳守</li> <li>4. 書き言葉と話し言葉 文語文と口語文、丁寧語・謙讓語・尊敬語・美化語、礼、協調性</li> <li>5. 情報収集一辞書・雑誌・図書・新聞— 図書館の使い方、子供年鑑、厚生労働省資料等の調べ方</li> <li>6. 情報の要約 読解と要約の練習、5W1Hに則り、具体的な文章を書く</li> <li>7. 第2回ステップアップ (学習度合い確認) Who am I? (喜怒哀楽) 要約</li> <li>8. 待遇表現—丁寧語— 日常的な情報の収集、メモの取り方</li> <li>9. 報告書作成 考察を含む実習報告書作成</li> <li>10. 情報の要約—読み物の要約— 読解と要約の練習、5W1Hに則り、具体的な文章を書く</li> <li>11. 情報の要約—論文、論説文の要約 読解と要約の練習、5W1Hに則り、具体的な文章を書く</li> <li>12. 手紙の書き方 実習先への手紙</li> <li>13. 手紙の書き方 保育園の行事のおたより</li> <li>14. レポート作成 考察を含む報告書作成</li> <li>15. 第3回ステップアップ (学習度合い確認) Who am I? 図式化</li> </ol> </td> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>16. 表、グラフの読み方 表、グラフの種類と特徴</li> <li>17. 表、グラフの読み方 傾向、主張を読み取る</li> <li>18. 割合、確率 さまざまな割合や確率の定義</li> <li>19. 統計、グラフの作成 統計結果を表やグラフにまとめる</li> <li>20. 図表化表現 図や表から事柄の関係を読み取る</li> <li>21. 図表化表現 事柄の関係を考えて、図表化する</li> <li>22. 第4回ステップアップ (学習度合い確認)</li> <li>23. 論文作法 体裁、引用、脚注、参考文献について</li> <li>24. 論文作法 テーマ、スケジュール、構想</li> <li>25. 小論文作成 執筆と推敲</li> <li>26. 発表のしかた 客観的事項の報告の練習、言葉遣い</li> <li>27. 発表のしかた 主観的事項の報告の練習、言葉遣い</li> <li>28. 発表 実習報告の練習</li> <li>29. 発表 実習報告の練習</li> <li>30. 第5回ステップアップ (学習度合い確認) スタディスキル振り返り スタディスキル振り返り報告発表</li> </ol> </td> </tr> </table>				<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第1回ステップアップ (学習度合い確認) Who am I? (自分の将来像、子供像) 要約、グラフ</li> <li>2. ノートの取り方 メモの取り方</li> <li>3. スケジュールの立て方 アルバイト、サークル活動、資格取得と学問との両立、提出物の作成予定と期限厳守</li> <li>4. 書き言葉と話し言葉 文語文と口語文、丁寧語・謙讓語・尊敬語・美化語、礼、協調性</li> <li>5. 情報収集一辞書・雑誌・図書・新聞— 図書館の使い方、子供年鑑、厚生労働省資料等の調べ方</li> <li>6. 情報の要約 読解と要約の練習、5W1Hに則り、具体的な文章を書く</li> <li>7. 第2回ステップアップ (学習度合い確認) Who am I? (喜怒哀楽) 要約</li> <li>8. 待遇表現—丁寧語— 日常的な情報の収集、メモの取り方</li> <li>9. 報告書作成 考察を含む実習報告書作成</li> <li>10. 情報の要約—読み物の要約— 読解と要約の練習、5W1Hに則り、具体的な文章を書く</li> <li>11. 情報の要約—論文、論説文の要約 読解と要約の練習、5W1Hに則り、具体的な文章を書く</li> <li>12. 手紙の書き方 実習先への手紙</li> <li>13. 手紙の書き方 保育園の行事のおたより</li> <li>14. レポート作成 考察を含む報告書作成</li> <li>15. 第3回ステップアップ (学習度合い確認) Who am I? 図式化</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>16. 表、グラフの読み方 表、グラフの種類と特徴</li> <li>17. 表、グラフの読み方 傾向、主張を読み取る</li> <li>18. 割合、確率 さまざまな割合や確率の定義</li> <li>19. 統計、グラフの作成 統計結果を表やグラフにまとめる</li> <li>20. 図表化表現 図や表から事柄の関係を読み取る</li> <li>21. 図表化表現 事柄の関係を考えて、図表化する</li> <li>22. 第4回ステップアップ (学習度合い確認)</li> <li>23. 論文作法 体裁、引用、脚注、参考文献について</li> <li>24. 論文作法 テーマ、スケジュール、構想</li> <li>25. 小論文作成 執筆と推敲</li> <li>26. 発表のしかた 客観的事項の報告の練習、言葉遣い</li> <li>27. 発表のしかた 主観的事項の報告の練習、言葉遣い</li> <li>28. 発表 実習報告の練習</li> <li>29. 発表 実習報告の練習</li> <li>30. 第5回ステップアップ (学習度合い確認) スタディスキル振り返り スタディスキル振り返り報告発表</li> </ol>				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第1回ステップアップ (学習度合い確認) Who am I? (自分の将来像、子供像) 要約、グラフ</li> <li>2. ノートの取り方 メモの取り方</li> <li>3. スケジュールの立て方 アルバイト、サークル活動、資格取得と学問との両立、提出物の作成予定と期限厳守</li> <li>4. 書き言葉と話し言葉 文語文と口語文、丁寧語・謙讓語・尊敬語・美化語、礼、協調性</li> <li>5. 情報収集一辞書・雑誌・図書・新聞— 図書館の使い方、子供年鑑、厚生労働省資料等の調べ方</li> <li>6. 情報の要約 読解と要約の練習、5W1Hに則り、具体的な文章を書く</li> <li>7. 第2回ステップアップ (学習度合い確認) Who am I? (喜怒哀楽) 要約</li> <li>8. 待遇表現—丁寧語— 日常的な情報の収集、メモの取り方</li> <li>9. 報告書作成 考察を含む実習報告書作成</li> <li>10. 情報の要約—読み物の要約— 読解と要約の練習、5W1Hに則り、具体的な文章を書く</li> <li>11. 情報の要約—論文、論説文の要約 読解と要約の練習、5W1Hに則り、具体的な文章を書く</li> <li>12. 手紙の書き方 実習先への手紙</li> <li>13. 手紙の書き方 保育園の行事のおたより</li> <li>14. レポート作成 考察を含む報告書作成</li> <li>15. 第3回ステップアップ (学習度合い確認) Who am I? 図式化</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>16. 表、グラフの読み方 表、グラフの種類と特徴</li> <li>17. 表、グラフの読み方 傾向、主張を読み取る</li> <li>18. 割合、確率 さまざまな割合や確率の定義</li> <li>19. 統計、グラフの作成 統計結果を表やグラフにまとめる</li> <li>20. 図表化表現 図や表から事柄の関係を読み取る</li> <li>21. 図表化表現 事柄の関係を考えて、図表化する</li> <li>22. 第4回ステップアップ (学習度合い確認)</li> <li>23. 論文作法 体裁、引用、脚注、参考文献について</li> <li>24. 論文作法 テーマ、スケジュール、構想</li> <li>25. 小論文作成 執筆と推敲</li> <li>26. 発表のしかた 客観的事項の報告の練習、言葉遣い</li> <li>27. 発表のしかた 主観的事項の報告の練習、言葉遣い</li> <li>28. 発表 実習報告の練習</li> <li>29. 発表 実習報告の練習</li> <li>30. 第5回ステップアップ (学習度合い確認) スタディスキル振り返り スタディスキル振り返り報告発表</li> </ol>								
<p><b>【準備学習】</b>          日頃から、新聞を読む習慣をつけておくこと。その他課題は随時、授業時に説明します。</p>									
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          (テキスト)          浦和大学こども学部スタディスキル担当者編著          『浦和大学 こども学部 スタディ・スキル』</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          (試験やレポートの評価基準など)</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>レポート・提出物</td> <td style="text-align: right;">50%</td> </tr> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td style="text-align: right;">30%</td> </tr> <tr> <td>参加態度</td> <td style="text-align: right;">20%</td> </tr> </table>			レポート・提出物	50%	プレゼンテーション	30%	参加態度	20%
レポート・提出物	50%								
プレゼンテーション	30%								
参加態度	20%								

<b>授業のタイトル (科目名)</b> <b>コミュニケーションスキル</b>	<b>授業の種類</b> <b>( 講義・演習・実習 )</b>	<b>授業担当者</b> <b>柴田 崇浩</b>	
<b>配当年次・時期</b> <b>2, 3, 4 年次・前期, 後期</b>	<b>単位数</b> <b>1 単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>	
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b>          対人コミュニケーションの様々な理論を学び、体験的に学習することを通して、社会に通用する対人スキルを獲得する。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b>          社会とは何かと聞かれば、私たちにとって最も身近な社会は関係する“人”たちであり、“人間関係”です。そのため、よりよい人間関係を築くことは、社会でうまくやっていくことに直結することになります。この演習では、よりよい人間関係を築くきっかけを得るべく、五感を最大限に活用して、様々な対人コミュニケーションを体験的に学びます。          授業では、授業内に参加する様々な人たちと共に演習に取り組んでいきますので、自分を表現する勇気を少し持って参加していただけたらと思います。</p>			
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b>  <b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. エクササイズ I</li> <li>2. コミュニケーションと自己理解</li> <li>3. コミュニケーションと他者理解</li> <li>4. パーソナル・スペースと対人関係</li> <li>5. コミュニケーションと対人距離</li> <li>6. 音楽による自己表現</li> <li>7. コミュニケーション演習 1</li> <li>8. コミュニケーション演習 2</li> <li>9. エクササイズ II</li> <li>10. グループワーク I</li> <li>11. グループワーク II</li> <li>12. コミュニケーション演習 3</li> <li>13. コミュニケーション演習 4</li> <li>14. コミュニケーション演習 5</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>レポート</p>			
<p><b>[準備学習]</b>          日常の人間関係において、“意識”してコミュニケーションすることを心がける。</p>			
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b>          (テキスト) 授業内でプリント配布          (参考文献)          渋谷昌三「人と人との快適距離—パーソナル・スペースとは何か」NHK ブックス 1990          國分康孝、縫部義憲「教師と生徒の人間作り エクササイズ実践記録集 第1～5集」瀝々社 1987</p>	<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b>          出席を含めた授業への取り組み：20%          授業内レポート・課題提出：40%          期末レポート：40%</p>		

<b>授業のタイトル (科目名)</b> <b>コンピュータリテラシ I (基礎)</b>	<b>授業の種類</b> <b>( 講義・演習・実習 )</b>	<b>授業担当者</b> <b>鶴ヶ谷 柊子</b>	
<b>配当年次・時期</b> <b>1 年次・前期</b>	<b>単位数</b> <b>1 単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>必修</b>	<b>幼稚園教諭必修</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータを実際に使用することから特徴を把握し、有効性を伝えられるようにする。</li> <li>・コンピュータ操作の基本的な技能 (Word) を身につける</li> </ul> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b></p> <p>現代において、コンピュータの使用は不可欠なものとなっている。そこで、多くの現場で使われている Word を用いて分かりやすい文書を作成する方法を学ぶ。</p> <p>また、情報倫理について理解し、電子メールやインターネットを使うマナーも学ぶ。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b></p> <p><b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業概要、情報倫理について</li> <li>2. 電子メール・インターネットについて</li> <li>3. Windows について・Word (日本語入力)</li> <li>4. Word (書式)</li> <li>5. Word (図の挿入)</li> <li>6. Word (表の挿入)</li> <li>7. Word (フォント・拡張書式)</li> <li>8. Word (ワードアート)</li> <li>9. Word (課題)</li> <li>10. Word (プレゼンテーションとは)</li> <li>11. Word (プレゼンテーション準備)</li> <li>12. Word (プレゼンテーション準備)</li> <li>13. Word (プレゼンテーション)</li> <li>14. Word (プレゼンテーション)</li> <li>15. まとめと入力テスト</li> </ol> <p>試験・レポート等</p>			
<p><b>【準備学習】</b></p> <p>授業で学んだ技術を復習し、身につけておく。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b></p> <p>テキスト：          随時、資料を配布します。</p> <p>参考文献：          Word2003 Excel2003 PowerPoint2003 ステップアップラーニング 基礎マスター編 (技術評論社)</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b></p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>出席を含めた平常点：20%</p> <p>試験：40%</p> <p>提出物：40%</p>	

授業のタイトル(科目名) コンピュータリテラシⅡ(応用)	授業の種類 ( 講義・演習・実習 )	授業担当者 鶴ヶ谷 柊子	
配当年次・時期 1, 2, 3, 4 年次・後期	単位数 1 単位	必修・選択 選択	幼稚園教諭必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータを実際に使用することから特徴を把握し、有効性を伝えられるようにする。</li> <li>・コンピュータ操作の基本的な技能 (Excel・PowerPoint) を身につける。</li> <li>・ホームページの作成ソフトの基本操作を身につける。</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>現代において、コンピュータの使用は不可欠なものとなっている。そこで、多くの現場で使われているソフトを用いて、分かりやすい表やプレゼンテーションを作成する方法、ホームページを作成する方法を学ぶ。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ホームページの作成 (ハイパーリンク)</li> <li>2. ホームページの作成 (ファイルの種類、オブジェクトの挿入)</li> <li>3. ホームページの作成 (フォトアルバム、WEB ページのしくみ)</li> <li>4. Excel (表)</li> <li>5. Excel (計算)</li> <li>6. Excel (関数)</li> <li>7. Excel (棒グラフ、折れ線グラフ)</li> <li>8. Excel (円グラフ、分析)</li> <li>9. Excel (課題)</li> <li>10. PowerPoint の操作方法</li> <li>11. PowerPoint (プレゼンテーション準備)</li> <li>12. PowerPoint (プレゼンテーション準備)</li> <li>13. PowerPoint (プレゼンテーション)</li> <li>14. PowerPoint (プレゼンテーション)</li> <li>15. Excel、PowerPoint 操作のテスト</li> </ol> <p>試験・レポート等</p>			
<p>[準備学習]</p> <p>授業で学んだ技術を復習し、身につけておく。</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>テキスト： 随時、資料を配布します。</p> <p>参考文献： Word2003 Excel2003 PowerPoint2003 ステップアップラーニング 基礎マスター編 (技術評論社)</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>出席を含めた平常点：20%</p> <p>試験：40%</p> <p>提出物：40%</p>	

<b>授業のタイトル (科目名)</b> <b>英語コミュニケーションA(こどもの文化)</b>	<b>授業の種類</b> <b>( 講義・演習・実習 )</b>	<b>授業担当者</b> <b>岩本 裕子</b>							
<b>配当年次・時期</b> <b>1, 2, 3, 4 年次・前期, 後期</b>	<b>単位数</b> <b>1 単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>	<b>保育士選択</b> <b>幼稚園教諭選択</b>						
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>  英語は世界の人々とのコミュニケーションにもっとも使用される言語である。英語が母国語でない国においても、英語はまるで地球共通語のように、コミュニケーションの手段となっている。次世代の初期教育に携わる幼稚園教諭が「英語が苦手」などとは言ってられない。幼児に接する上で、自信を持って教育に携われるような「こどもの文化」に精通した英語コミュニケーション能力修得を目標とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>  現在の日本では幼児教育に英会話を取り入れる傾向が強まり就学前の英語教育プログラムは溢れている。子供に接する場合、読み書きに頼らず聴力だけで英会話を身につけなければならない。「こどもの文化」を中心に「使える英語」を学ぶ。題材は「ドレミの歌」等簡単に覚えられる英語の歌や TV 番組の『セサミストリート』『ライオンたちと English』等を用いて、聴力の向上を図る。『モンスターズ・インク』『ファインディング・ニモ』といったハリウッド映画、古くは『ダンボ』や『ピノキオ』のディズニー映画も幼児との会話には欠かせない教材として活用する。</p>									
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>  <b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語コミュニケーションとは？（講義内容紹介）</li> <li>2. 幼児の時期から英語を勉強する意味をまず考えてみよう</li> <li>3. 歌（音楽）を題材として英語を耳で覚えよう！①</li> <li>4. 歌（音楽）を題材として英語を耳で覚えよう！②</li> <li>5. 歌（音楽）を題材として英語を耳で覚えよう！③</li> <li>6. 歌（音楽）を題材として英語を耳で覚えよう！④</li> <li>7. 映像（映画）を題材として英語を身近に感じよう！①</li> <li>8. 映像（映画）を題材として英語を身近に感じよう！②</li> <li>9. 映像（映画）を題材として英語を身近に感じよう！③</li> <li>10. 映像（映画）を題材として英語を身近に感じよう！④</li> <li>11. 「ディズニー」と「こども」の接点から英語の大切さを知ろう！①</li> <li>12. 「ディズニー」と「こども」の接点から英語の大切さを知ろう！②</li> <li>13. 「ディズニー」と「こども」の接点から英語の大切さを知ろう！③</li> <li>14. 「ディズニー」と「こども」の接点から英語の大切さを知ろう！④</li> <li>15. まとめ（これまでで学習したこどもの文化の整理）</li> </ol> <p>英語コミュニケーション能力達成確認（達成感確認試験）</p>									
<p><b>【準備学習】</b>  毎週予告する予習内容をきちんとこなしてから次週に臨むこと。毎回の復習を終えてから予習することは当然である。努力に期待している。</p>									
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>  テキストは使用せず、教材はその都度配布する。</p> <p>（参考文献）  『ディズニーアニメーション大全集』  集英社、2008年</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>  （試験やレポートの評価基準など）</p> <table border="0"> <tr> <td>平常点</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>ノート提出</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>期末試験</td> <td>60%</td> </tr> </table>			平常点	20%	ノート提出	20%	期末試験	60%
平常点	20%								
ノート提出	20%								
期末試験	60%								

<b>授業のタイトル (科目名)</b> <b>英語コミュニケーションB(日常会話)</b>	<b>授業の種類</b> <b>( 講義・<u>演習</u>・実習 )</b>	<b>授業担当者</b> <b>岩本 裕子</b>							
<b>配当年次・時期</b> <b>1, 2, 3, 4 年次・前期, 後期</b>	<b>単位数</b> <b>1 単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>	<b>保育士選択</b> <b>幼稚園教諭選択</b>						
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>  英語は世界の人々とのコミュニケーションにもっとも使用される言語である。英語が母国語でない国においても英語は、まるで地球共通語のように、コミュニケーションの手段となっている。「日常会話」はどの程度の英語力でこなせるようになるのだろうか。英語の基礎力に自信がある学生もいない学生も、「日常会話」という一見簡単そうに思えるレベルの英語力養成を目標に、英語学習に挑戦しよう！</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>  母国語の如何に関わらず世界共通語となった英語さえ話せれば世界中どこの国でも意思疎通は可能である。「日常会話程度なら話せる」という表現があるが、これがなかなか難しい。ホームステイや語学留学を含む海外旅行も日常会話の集大成である。生活の様々な場面を想定して「生きた英語」を身につける実践練習を積む。中学程度の英語力があれば可能な日常会話の実例を教材に、毎回ロールプレイを行い実践に努める。単語力や文法力は日常会話に欠かせない。実践を通して英語力補強につなげる。音楽や映画一場面も毎回教材として文法力強化に生かしていく。</p>									
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>  <b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語コミュニケーションとは？ (講義内容紹介)</li> <li>2. 自己紹介から始めよう！</li> <li>3. 「とっさのひとこと」国内編①</li> <li>4. 「とっさのひとこと」国内編②</li> <li>5. 「とっさのひとこと」国内編③</li> <li>6. 「とっさのひとこと」国内編④</li> <li>7. 「とっさのひとこと」海外編①</li> <li>8. 「とっさのひとこと」海外編②</li> <li>9. 「とっさのひとこと」海外編③</li> <li>10. 「とっさのひとこと」海外編④</li> <li>11. 映画と音楽で上達する日常会話①</li> <li>12. 映画と音楽で上達する日常会話②</li> <li>13. 映画と音楽で上達する日常会話③</li> <li>14. 映画と音楽で上達する日常会話④</li> <li>15. まとめ (これまでに覚えた日常会話表現の整理)</li> </ol> <p>英語コミュニケーション能力達成確認 (達成感確認試験)</p>									
<p><b>【準備学習】</b>  毎週予告する予習内容をきちんとこなしてから次週に臨むこと。毎回の復習を終えてから予習することは当然である。努力に期待している。</p>									
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>  テキストは使用せず、教材はその都度配布する。  (参考文献)  NHK テキスト『とっさのひとこと』など各種英会話教材</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>  (試験やレポートの評価基準など)</p> <table border="0"> <tr> <td>平常点</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>ノート提出</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>期末試験</td> <td>60%</td> </tr> </table>			平常点	20%	ノート提出	20%	期末試験	60%
平常点	20%								
ノート提出	20%								
期末試験	60%								

<b>授業のタイトル (科目名)</b> <b>中国語コミュニケーション</b>	<b>授業の種類</b> <b>( 講義・演習・実習 )</b>	<b>授業担当者</b> <b>陸 偉榮</b>	
<b>配当年次・時期</b> <b>1, 2, 3, 4 年次・前期, 後期</b>	<b>単位数</b> <b>1 単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>	<b>保育士選択</b> <b>幼稚園教諭選択</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          本講座では、すぐ使える実用的な中国語の習得を目指す。また、中国人の考え方及び中国社会の背景にある文化、習慣、風俗、取引習慣、タブー等を取り上げる。単なる日常会話の習得のみならず、将来中国の友人を作ったり、中国への旅行するときにも役に立つことを目指す。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          世界中の至る所に住んでいる華僑を含めた中国人は約14億人であり、世界人口の約四分の一を占めている。今日、日中両国の関係が益々深まっている状況の下では、中国語の必要性が強く要請される時代になりつつある。中国語は声調言語である。本講座では中国語の正確な発音(子音・母音)や基本文型・語法・例文等をしっかり身につけ、基礎的な運用能力の習得を目指す。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>  <b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中国語の子音の発音要領</li> <li>2. 中国語の母音の発音要領</li> <li>3. 中国語の子音と母音の習得</li> <li>4. お元気ですか？</li> <li>5. 気候に関する表現</li> <li>6. 時間と曜日に関する表現</li> <li>7. 貴方のお名前は？</li> <li>8. これは何ですか？</li> <li>9. 数詞の使い方</li> <li>10. ホテルとレストラン</li> <li>11. タクシーの利用</li> <li>12. 郵便局</li> <li>13. 自己紹介</li> <li>14. 年賀状の書き方</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>試験・レポート等</p>			
<p><b>【準備学習】</b>          初回授業以外、各回の授業に準備学習のための課題を出すので、必ず授業までやっておくこと。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          初回の授業で指示する。参考文献として『現代中国の文化』明石書店、2005年</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          (試験やレポートの評価基準など)          平常点(出席状況・授業態度)：40%          期末試験(レポート)：60%</p>		

<b>授業のタイトル (科目名)</b> <b>韓国語コミュニケーション</b>	<b>授業の種類</b> ( 講義・ <b>演習</b> ・実習 )	<b>授業担当者</b> <b>陳 銀玉</b>																																														
<b>配当年次・時期</b> <b>1, 2, 3, 4 年次・前期, 後期</b>	<b>単位数</b> <b>1 単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>	<b>保育士選択</b> <b>幼稚園教諭選択</b>																																													
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          韓国語の基礎を学び、韓国旅行を楽しめる程度の会話を身につける。授業を通じて韓国にふれ、知識を深める。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          韓国語は、日本語と文法的には類似しているため、日本人にとって馴染みやすい言語である一方、発音が難しいことや、不規則性が多い等、かなり困難も要する。しかしまず、ハングル文字の持つ独創性、合理性、日本語と似ていることばである点に興味を抱くことで、少しでも学びやすくし、話すこと、聞くことを楽しめるような、日常会話の習得を目指したいと思う。また、韓国の生活習慣、文化、国民性等を日本と比較してみると、意外な驚きや興味深いものがあるので、そのような話にもふれながら、韓国という国に親しめるよう、努めたいと思う。</p>																																																
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>  <b>コマ数</b></p> <table border="0"> <tr> <td>1. 韓国語のしくみ</td> <td>ハングル文字とは</td> <td>韓国はどのような国か</td> </tr> <tr> <td>2. 文字と発音 1</td> <td>子音と母音</td> <td>韓国の国民性</td> </tr> <tr> <td>3. 文字と発音 2</td> <td>合成母音とパッチム</td> <td>韓国人の生活、習慣</td> </tr> <tr> <td>4. 文字と発音 3</td> <td>濃音と激音</td> <td>地図で見る韓国</td> </tr> <tr> <td>5. 助詞と動詞</td> <td>辞書のひき方</td> <td>韓国の食べ物</td> </tr> <tr> <td>6. 動詞と形容詞</td> <td>二種類のていねいな言い方</td> <td>ソウル市内の様子</td> </tr> <tr> <td>7. 疑問形 否定形</td> <td></td> <td>韓国の若者</td> </tr> <tr> <td>8. 数詞 今までの復習</td> <td></td> <td>韓国の子供たち、お年寄り</td> </tr> <tr> <td>9. 敬語 動詞、形容詞の連体形</td> <td></td> <td>韓国の歴史、文化</td> </tr> <tr> <td>10. 時間と曜日</td> <td></td> <td>韓国の歌</td> </tr> <tr> <td>11. 過去形 未来形</td> <td></td> <td>韓国の有名人</td> </tr> <tr> <td>12. 願望 命令</td> <td></td> <td>韓国の昔話</td> </tr> <tr> <td>13. 勧誘 継続 進行</td> <td></td> <td>韓国から見た日本</td> </tr> <tr> <td>14. 可能 不可能 義務</td> <td></td> <td>韓国の家族</td> </tr> <tr> <td>15. まとめ 自由会話</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>試験</p>				1. 韓国語のしくみ	ハングル文字とは	韓国はどのような国か	2. 文字と発音 1	子音と母音	韓国の国民性	3. 文字と発音 2	合成母音とパッチム	韓国人の生活、習慣	4. 文字と発音 3	濃音と激音	地図で見る韓国	5. 助詞と動詞	辞書のひき方	韓国の食べ物	6. 動詞と形容詞	二種類のていねいな言い方	ソウル市内の様子	7. 疑問形 否定形		韓国の若者	8. 数詞 今までの復習		韓国の子供たち、お年寄り	9. 敬語 動詞、形容詞の連体形		韓国の歴史、文化	10. 時間と曜日		韓国の歌	11. 過去形 未来形		韓国の有名人	12. 願望 命令		韓国の昔話	13. 勧誘 継続 進行		韓国から見た日本	14. 可能 不可能 義務		韓国の家族	15. まとめ 自由会話		
1. 韓国語のしくみ	ハングル文字とは	韓国はどのような国か																																														
2. 文字と発音 1	子音と母音	韓国の国民性																																														
3. 文字と発音 2	合成母音とパッチム	韓国人の生活、習慣																																														
4. 文字と発音 3	濃音と激音	地図で見る韓国																																														
5. 助詞と動詞	辞書のひき方	韓国の食べ物																																														
6. 動詞と形容詞	二種類のていねいな言い方	ソウル市内の様子																																														
7. 疑問形 否定形		韓国の若者																																														
8. 数詞 今までの復習		韓国の子供たち、お年寄り																																														
9. 敬語 動詞、形容詞の連体形		韓国の歴史、文化																																														
10. 時間と曜日		韓国の歌																																														
11. 過去形 未来形		韓国の有名人																																														
12. 願望 命令		韓国の昔話																																														
13. 勧誘 継続 進行		韓国から見た日本																																														
14. 可能 不可能 義務		韓国の家族																																														
15. まとめ 自由会話																																																
<p><b>【準備学習】</b>          授業の最後で毎回の準備学習としてテキストや資料調べ等について指示する。</p>																																																
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          (使用テキスト)          小倉紀蔵『最もシンプルな韓国語マニュアル』          アルク、2007</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          平常点(出席状況・授業態度)：60%          試験：40%</p>																																															

<b>授業のタイトル (科目名)</b> <b>キャリアデザインA(就職基礎)</b>	<b>授業の種類</b> <b>( 講義・演習・実習 )</b>	<b>授業担当者</b> <b>岩本裕子・高野実貴雄・五十嵐裕子</b>	
<b>配当年次・時期</b> <b>2年次・前期</b>	<b>単位数</b> <b>1単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>必修</b>	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>  1年のスタディスキルで習得したスキルに基づき、自らのキャリア積み上げの第一歩を勉強する。スタディスキルと関連させながら、体系的教育を実施していく。職業意識を確立することを到達目標とし、さらなる段階としてのキャリアデザインBへつなげていきたい。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>  自己にとって働くとはいかなる意味を有し、社会的な視点からはどのようにとらえることができるのかを理解させる。保育や児童福祉、幼児教育の専門職に就く職業人として社会に出るための基礎を会得させる。就業の意義や専門職としての職業観の育成を目的とし、卒業後の進路へイメージ作りをさせる。「働くこと」「就職」に対する意識形成と職業人に求められる人間的な資質形成を主目的として、自己の生き方を具体的に想定させる。礼儀作法、敬語の使い方などの社会人の基本マナーは当然のことながら、社会人としての基礎学力の定着を図る。漢字の読み書きや作文力といった正しい日本語能力を高めるとともに、自己実現の基礎となる自己理解を深めさせる。一般常識や社会情勢にもふれながら、歴史や文化にも着目させる。職業についての社会的視野を広め保育者として出会う、保護者のさまざまな職業への理解を通じて多くの価値観にふれる学習を行う。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>  <b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義内容紹介 (キャリアの第一歩の自己紹介から)</li> <li>2. 「働く」とはどういうことか? 「自分探し」の重要性を考えよう!</li> <li>3. 日本社会の社会人としてのマナーとは (礼儀作法、敬語の使い方など)</li> <li>4. 先輩 (3年生) からのメッセージを聞こう!</li> <li>5. 第1回学習度合確認 (先週の講演から得たものは?)</li> <li>6. 一般常識試験対策指導1 (過去問題を事例にしながら)</li> <li>7. 一般常識試験対策指導2 (過去問題を事例にしながら)</li> <li>8. 先輩 (4年生) からのメッセージを聞こう!</li> <li>9. 第2回学習度合確認 (先週の講演から得たものは?)</li> <li>10. 時事問題試験対策指導1 (過去問題を事例にしながら)</li> <li>11. 時事問題試験対策指導2 (過去問題を事例にしながら)</li> <li>12. 就職活動の具体的な方法を聞こう! (学生・就職課関連)</li> <li>13. 第3回学習度合確認 (先週の講演から得たものは?)</li> <li>14. 最終自己紹介 (自己PR) に挑戦! 初回の自己紹介から「スキル」アップできた?</li> <li>15. まとめ (「就職基礎」で身につけたものの整理)</li> </ol> <p>キャリア意識成長度最終確認試験 (筆記試験で確認・履歴書に初挑戦!)</p>			
<p><b>【準備学習】</b>  毎週予告する予習内容をきちんとこなしてから次週に臨むこと。毎回の復習を終えてから予習することは当然である。努力に期待している。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>  就職試験に関する各種問題集 (具体的には、講義内で説明する)  授業ごとに配布した教材をファイルにしていく。</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>  (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>平常点 20%  ノート 20%  試験 60%</p>		

<b>授業のタイトル (科目名)</b> <b>キャリアデザイン B(就職研究)</b>	<b>授業の種類</b> <b>( 講義 ・ <u>演習</u> ・ 実習 )</b>	<b>授業担当者</b> <b>岩本裕子・高野実貴雄・瓜巢由紀子</b>	
<b>配当年次・時期</b> <b>3, 4 年次・前期</b>	<b>単位数</b> <b>1 単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          キャリアデザイン A を習得した学生の第 2 段階とする。一般的な職業意識から具体的に保育職やこどもに関する仕事への理解を深め、自分の適性を探していく第一歩とする。キャリアデザイン A の学習同様に「自分探し」を続けていながら、もっとも自分が就きたい仕事を見極めていく。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          この授業では、「キャリアデザイン A」において学びとった就労の意義と職業についての理解に関する基本事項をもとに、職業人としての資質をより高めるため、人間的な態度や基礎的な人間関係の形成について学ぶ。そして、職業人としての自覚や態度の形成と自己の形成を行うことにより、職業に就くことへの意欲と関心をより高める。          (岩本裕子・高野実貴雄)          企業、福祉現場を問わず、職業人に共通して求められる常識を身につけることをめざす。礼儀、マナーやモラルをはじめ、社会人として通用するような態度行動をとれるよう、ロールプレイを取り入れた指導を行う。また、適性検査の実施や自己分析シートの作成指導、自己紹介文の作成指導などを行い、自己を見つめ、社会人としての自己の形成を助ける。8 回のうち、4 回程度を自己 PR と自己紹介の作文指導にあてる。          (瓜巢由紀子)          保育、福祉現場の現場で求められる保育者像と、そうした職業の意義や労働条件を含めて総合的に理解することをめざす。また、こどもや親に接するうえで求められる常識や態度を身につけるとともに、特に親（保護者、養育者）との関係形成、職場内のチームワークなどこどもだけではなく、大人との円滑な人間関係の重要性を理解させる。このため現場の園長などによる特別講義を実施して、職業の特質より深く理解できるようにする。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>  <b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義内容紹介 (A 最終回に配布した履歴書は完成しましたか?)</li> <li>2. 「自分探し」は進んでいますか? 書いて確かめる自己 PR</li> <li>3. 自己 PR 1 (履歴書→面接での回答)</li> <li>4. 自己 PR 2 (履歴書→面接での回答)</li> <li>5. 第 1 回学習度合確認</li> <li>6. 保育者像の学習 1</li> <li>7. 保育者像の学習 2</li> <li>8. 保育対象のこどもの保護者や養育者の仕事理解</li> <li>9. 就職適性 (SPI) テスト実施</li> <li>10. 第 2 回学習度合確認</li> <li>11. 「日本社会の社会人としてのマナー」講義の復習：面接指導に向けて</li> <li>12. 就職活動面接模擬指導 1 (保育職を中心に)</li> <li>13. 就職活動面接模擬指導 2 (こどもに関する職業を中心に)</li> <li>14. キャリアデザイン B 終了直前の履歴書披露大会</li> <li>15. まとめ (「就職研究」で身につけたものの整理)</li> </ol> <p>キャリア意識成長度最終確認試験 (筆記試験で確認)</p>			
<p><b>【準備学習】</b>          毎週予告する予習内容をきちんとこなしてから次週に臨むこと。毎回の復習を終えてから予習することは当然である。努力に期待している。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          就職試験に関する各種問題集 (具体的には、講義内で説明する)          授業ごとに配布した教材を各自学生がファイルを作っていく。</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          (試験やレポートの評価基準など)          平常点 20%          ノート 20%          試験 60%</p>		

<b>授業のタイトル (科目名)</b> <b>キャリアデザインC(就職実践)</b>	<b>授業の種類</b> <b>( 講義・演習・実習 )</b>	<b>授業担当者</b> <b>岩本裕子・高野実貴雄・橋本由美子・瓜巢由紀子</b>							
<b>配当年次・時期</b> <b>3, 4 年次・後期</b>	<b>単位数</b> <b>1 単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>							
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          キャリアデザインBを習得した学生のキャリア形成最終段階とする。自らのキャリアの方向が定まったことを確認しながら、本格的な就職活動前段階に行くべきことをすべて会得し、実際の就職活動を自分一人でも開始できるところまで、力を付けさせる。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          「キャリアデザインA」「キャリアデザインB」における学習を踏まえ、自己の進路に対する方針を見定める。そして就職活動を具体的に展開することを念頭に置いた実践的な学習を行う。一般企業希望者、保育・福祉系現場希望者に大別して、それぞれの就職活動に特有に求められる内容を理解させる。</p> <p>履歴書を始めとして就職活動の実際に必要な書類の整え方、具体的な記入法、服装や身のこなし、訪問時のマナー、面接の受け方などを指導し、就職後にも役立つ常識を身につけることをめざす。インターンシップ事前指導も行う。          (岩本裕子・高野実貴雄)</p> <p>就職活動とは何か、どのように進めるのか、留意点は何かといった具体的な講義とともに書類の整え方、具体的な記入法、服装、身のこなし、訪問時のマナーなどに就いて指導する。履歴書作成や自己PRの作成を通じて自己理解を深めることが、就職試験において自己を発揮することを理解させながら、書類作成の指導を行う。          また、一般企業への就職希望者に対する就職指導を担当する。          (橋本由美子・瓜巢由紀子)</p> <p>保育・福祉・幼児教育現場の就職先にはどのようなものがあるか、再確認し、就職試験ではどのようなことが行われるのか、その実際について学ぶ。保育・福祉・幼児教育の現場の面接試験の特徴と、実際の試験場面を想定した指導を行う。また、実技試験に対しては、計画的な準備を行うことによって、自信を持って試験に臨めることから、準備指導を十分に行う。</p>									
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>  <b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義内容紹介 (いよいよ最終段階CをウルトラCに！)</li> <li>2. 就職活動の具体的な戦略を立てよう！</li> <li>3. 保育・福祉・幼児教育現場の就職先説明</li> <li>4. こどもに関する仕事あるいは一般企業の求人情報説明</li> <li>5. 第1回学習度合確認</li> <li>6. 就職適性(SPI)テスト実施(Bより進歩した?)</li> <li>7. 就職模擬試験及び解説指導1(一般常識)</li> <li>8. 就職模擬試験及び解説指導2(時事問題)</li> <li>9. 就職模擬試験及び解説指導3(専門領域)</li> <li>10. 第2回学習度合確認</li> <li>11. 面接指導1(リクルートスーツで最終訓練)</li> <li>12. 面接指導2(リクルートスーツで最終訓練)</li> <li>13. 面接指導3(リクルートスーツで最終訓練)</li> <li>14. インターンシップ直前指導(実社会は目前です。頑張ってください！)</li> <li>15. まとめ(「就職実践」で身につけたものの整理)</li> </ol> <p>キャリア意識成長度最終確認試験(筆記試験で確認)</p>									
<p><b>【準備学習】</b>          毎週予告する予習内容をきちんとこなしてから次週に臨むこと。毎回の復習を終えてから予習することは当然である。努力に期待している。</p>									
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          就職試験に関する各種問題集(具体的には、講義内で説明する)          本学作成のキャリアデザインノート</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          (試験やレポートの評価基準など)</p> <table border="0"> <tr> <td>平常点</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>ノート</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>試験</td> <td>60%</td> </tr> </table>			平常点	20%	ノート	20%	試験	60%
平常点	20%								
ノート	20%								
試験	60%								

授業のタイトル（科目名） <b>インターンシップ</b>	授業の種類 <b>( 講義・演習・<u>実習</u> )</b>	授業担当者 岩本・大久保・菅野・高野・藤井・橋本・久富・船木・五十嵐・田中・朝田・瓜巢・柴田・坪井・鶴ヶ谷	
配当年次・時期 <b>3, 4 年次・前期</b>	単位数 <b>2 単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          企業、NPO 法人、保育実習の実習先とはならない地域の子育てひろばなどへの就労の体験を通じて自らの適性を見つめ、就職への意識を高めるとともに、職場における基本マナー、チームワークの重要性を身につける。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          学生の希望も勘案しながら大学の開拓した企業等への配属を行い、学生就職課との連携のもとで書類作成等事前指導を行った後、10日～2週間のインターンシップを行う。事前指導、巡回指導、終了後報告会を実施する。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>  <b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・配属希望調査</li> <li>2. 配属先決定にもとづく提出書類（履歴書等）作成</li> <li>3. 配属先の企業等研究</li> <li>4. 直前指導</li> <li>5. インターンシップ</li> <li>6. インターンシップ</li> <li>7. インターンシップ</li> <li>8. インターンシップ</li> <li>9. インターンシップ</li> <li>10. インターンシップ</li> <li>11. インターンシップ</li> <li>12. インターンシップ</li> <li>13. インターンシップ</li> <li>14. インターンシップ</li> <li>15. インターンシップ報告会</li> </ol>			
<p><b>【準備学習】</b>          事前指導において課題を示す。インターンシップ開始後は、日々の記録を記載し翌日の課題を明確にすることを準備学習とする。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          テキスト：          インターンシップの手引き</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          記録：30%          評価票：50%          事前学習平常点：20%</p>		

# こども専門科目 (こども総合)

<b>授業のタイトル (科目名)</b> <b>こども理解と観察</b>	<b>授業の種類</b> ( 講義・ <b>演習</b> ・実習 )	<b>授業担当者</b> <b>檀田紋子・菅野陽子・柴田崇浩</b>			
<b>配当年次・時期</b> <b>1年次・通年</b>	<b>単位数</b> <b>2単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>必修</b>	<b>保育士選択</b> <b>幼稚園教諭必修</b>		
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          日々乳幼児と共に在ってこどもの全人格に影響をあたえる保育者として、一人ひとりのこどもの成長・発達を的確に感受し、促進的に関わることのできる専門職としての力が求められる。実践と理論を融合させた学習形態によって主体的な学びを促進させ、実践に際して重要なこども理解に関する基礎知識・技能、態度を培う。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          こどもの心や行動の発達に関する理論と実際のすがたを実践の中で統合的に学ぶために参加型の体験学習や観察学習を多く取り入れる。大学周辺に居住する親子の協力による学内施設における特定の親子との継続的な交流授業を行い、学生がこどもの豊かな感受性や親子の関係性の中での育ちに直接触れ保育者としての感受性や共感性を練磨する機会を提供する。また交流授業の録画・観察記録・フィールドノートなどを基にグループ学習を行い多様な価値観を認め、自己洞察を深める等を通して共感的人間理解と観察力を深めることをめざす。</p>					
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>  <b>コマ数</b></p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">           1. オリエンテーション            2. こどもを理解するとは            3. 親子のひろば「ほっけ」と学内実習            4. こども理解と観察方法(観察意義と目的)            5. こども理解と観察方法(記録方法と視点)            6. 乳幼児期のこども理解を深める(1)            7. 観察対象児についての事前学習①            8. 授業内(保育実習室)での親子観察①            9. グループディスカッション+全体討議①            10. 乳幼児期のこども理解を深める(2)            11. 観察対象児についての事前学習②            12. 授業内(保育実習室)での親子観察②            13. グループディスカッション+全体討議②            14. 乳幼児期のこども理解を深める(3)            15. 前期のまとめと夏季課題提示            ・前期試験         </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">           16. 夏季課題の振返り            (観察記録の検討と分析)            17. 観察対象児についての事前学習③            18. 授業内(保育実習室)での親子観察③            19. グループディスカッション+全体討議③            20. 乳幼児期のこども理解を深める(4)            21. 観察対象児についての事前学習④            22. 授業内(保育実習室)での親子観察④            23. グループディスカッション+全体討議④            24. 乳幼児期のこども理解を深める(5)            25. 親子観察の振返りと自分史作業            26. 観察対象児についての事前学習⑤            27. 授業内(保育実習室)での親子観察⑤            28. グループディスカッション+全体討議⑤            29. 乳幼児期のこども理解を深める(6)            30. 一年間のまとめと課題提示            ・後期試験         </td> </tr> </table>				1. オリエンテーション 2. こどもを理解するとは 3. 親子のひろば「ほっけ」と学内実習 4. こども理解と観察方法(観察意義と目的) 5. こども理解と観察方法(記録方法と視点) 6. 乳幼児期のこども理解を深める(1) 7. 観察対象児についての事前学習① 8. 授業内(保育実習室)での親子観察① 9. グループディスカッション+全体討議① 10. 乳幼児期のこども理解を深める(2) 11. 観察対象児についての事前学習② 12. 授業内(保育実習室)での親子観察② 13. グループディスカッション+全体討議② 14. 乳幼児期のこども理解を深める(3) 15. 前期のまとめと夏季課題提示 ・前期試験	16. 夏季課題の振返り (観察記録の検討と分析) 17. 観察対象児についての事前学習③ 18. 授業内(保育実習室)での親子観察③ 19. グループディスカッション+全体討議③ 20. 乳幼児期のこども理解を深める(4) 21. 観察対象児についての事前学習④ 22. 授業内(保育実習室)での親子観察④ 23. グループディスカッション+全体討議④ 24. 乳幼児期のこども理解を深める(5) 25. 親子観察の振返りと自分史作業 26. 観察対象児についての事前学習⑤ 27. 授業内(保育実習室)での親子観察⑤ 28. グループディスカッション+全体討議⑤ 29. 乳幼児期のこども理解を深める(6) 30. 一年間のまとめと課題提示 ・後期試験
1. オリエンテーション 2. こどもを理解するとは 3. 親子のひろば「ほっけ」と学内実習 4. こども理解と観察方法(観察意義と目的) 5. こども理解と観察方法(記録方法と視点) 6. 乳幼児期のこども理解を深める(1) 7. 観察対象児についての事前学習① 8. 授業内(保育実習室)での親子観察① 9. グループディスカッション+全体討議① 10. 乳幼児期のこども理解を深める(2) 11. 観察対象児についての事前学習② 12. 授業内(保育実習室)での親子観察② 13. グループディスカッション+全体討議② 14. 乳幼児期のこども理解を深める(3) 15. 前期のまとめと夏季課題提示 ・前期試験	16. 夏季課題の振返り (観察記録の検討と分析) 17. 観察対象児についての事前学習③ 18. 授業内(保育実習室)での親子観察③ 19. グループディスカッション+全体討議③ 20. 乳幼児期のこども理解を深める(4) 21. 観察対象児についての事前学習④ 22. 授業内(保育実習室)での親子観察④ 23. グループディスカッション+全体討議④ 24. 乳幼児期のこども理解を深める(5) 25. 親子観察の振返りと自分史作業 26. 観察対象児についての事前学習⑤ 27. 授業内(保育実習室)での親子観察⑤ 28. グループディスカッション+全体討議⑤ 29. 乳幼児期のこども理解を深める(6) 30. 一年間のまとめと課題提示 ・後期試験				
<p><b>【準備学習】</b>          年間の授業計画にあわせて各テーマ毎に提示する学習課題に関する文献・資料等を基に、自らの問題意識をもって臨むこと。とくに交流授業は事前の理論的学習と事後の場面分析をセットにした統合的学習であるので準備学習を十分にすること。</p>					
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          テキスト：          必要により随時、オリジナル教材を配布          参考文献：          岡本依子他「エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学—関係のなかでそだつ子どもたち」新曜社</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          課題レポート：50%          記録ノート・ファイル：30%          参加態度：20%</p>			

授業のタイトル (科目名) <b>こどもと福祉社会</b>	授業の種類 ( <b>講義</b> )・演習・実習)	授業担当者 大久保秀子・五十嵐裕子・瓜巢由紀子	
配当年次・時期 <b>2年次・後期</b>	単位数 <b>2単位</b>	必修・選択 <b>必修</b>	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          多様なこどもの生活のあり方について理解を深め、現代のこどもがおかれている諸課題を理解するため、こどもの貧困や学童保育、児童養護施設退所後の青少年の暮らし、高齢者の介護など、家族の身近にある生活課題をとりあげ、現状の方策を理解し、より良い解決への糸口を見出していく能力を養う。自立援助ホーム、障害児総合医療センター、本学の付属施設である老人ホームの見学も含めながら、福祉社会の担い手としての保育者のあり方について考え、命をケアする保育者との共通点を探りあてる学習を行う。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          こどもと家族にかかわる生活課題を学び、その解決の糸口を知ることができるよう、DVD教材や現場見学を通じて広く学んでいく。福祉国家の限界を知り、なぜ参加型の福祉社会が必要とされるのかを理解することによって、こどもたちに関わる専門職としての視野を広げ、新しい社会を多様な人々と共に生きるこどもたちを育てていく際に求められる理念と実際について理解を深める。学生のグループディスカッションを取り入れ、自らが主体的に考え発言する機会を多く設ける。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>          コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業オリエンテーション (大久保)</li> <li>2. 地域社会におけるこどもと家族の課題1 (五十嵐)</li> <li>3. 地域社会におけるこどもと家族の課題2 (五十嵐)</li> <li>4. 親子のひろば「ぼっけ」の特色と意義 (五十嵐)</li> <li>5. 施設見学準備</li> <li>6. 施設見学</li> <li>7. 見学報告</li> <li>8. 施設で暮らす障害児・者と家族の課題 (瓜巢)</li> <li>9. 地域で暮らす知的障害児・者の家族の課題 (大久保)</li> <li>10. こどもと高齢者の関わりに学ぶ (大久保)</li> <li>11. 施設見学の準備</li> <li>12. 施設見学</li> <li>13. 見学報告</li> <li>14. 福祉社会の支援拠点としての社会福祉施設 (大久保)</li> <li>15. こどもと地域と福祉社会 (大久保)</li> </ol> <p>試験実施</p>			
<p><b>【準備学習】</b>          授業時に指示された課題を次回授業までに取り組む。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          テキスト：毎回の授業時にプリントを配布          参考文献：授業時に紹介する。          大久保秀子著『新 社会福祉とは何か』          (中央法規出版 2010年)          沈潔編著『地域福祉と福祉 NPO の日中比較研究』          (日本僑報社 2005年)</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          試験：70%          平常点(出席状況・取組姿勢)：30%</p>	

<b>授業のタイトル (科目名)</b> <b>こどもの人権</b>	<b>授業の種類</b> <b>(講義)・演習・実習</b>	<b>授業担当者</b> <b>伊志嶺美津子</b>	
<b>配当年次・時期</b> <b>2, 3, 4 年次・前期</b>	<b>単位数</b> <b>2 単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>	<b>保育士選択</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>  人権とは何か、私たちにとっての人権、自分と人権とのかかわりについて考え、その存在の意義を理解した上で子どもの人権とは、なぜ必要なのかを考えてみることから入りたい。子どもの権利条約の精神、子どもにとっての最善の利益についても、日常的社会的できごとや事例をもとに話し合うなど、グループワークを通して考える機会を持つ。海外の子どもたちの人権にかかわる状況についても調べて、日本の子どもの人権の状況、子どもにかかわる大人の役割、特に保育者の役割について考える機会としたい。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>  まず子どもの人権宣言から条約へと発展した子どもの人権の歴史を学ぶ。子どもの権利とはなにか、子どもの権利条約の精神と内容を理解した上で、日本の取り組みや現状について社会的な事例をもとに考えてみる。家庭や保育、教育の日常的場面における子どもの権利がどのように考えられ守られているか、そのために大人がはたす役割について考えてみる。海外の子どもの権利擁護の活動や人権教育について学び、子どもの最善の利益を実現する保育のあり方や保育者の姿勢についても考えてみる。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>  <b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人権とは何か 私たち、私にとっての人権を考える</li> <li>2. 子どもの人権とは 日常に見出す子どもの人権</li> <li>3. 子どもの人権の歴史 子ども権利宣言から子どもの権利条約へ</li> <li>4. 世界人権宣言を学ぶ</li> <li>5. 子どもの権利宣言を学ぶ</li> <li>6. 子どもの権利条約を学ぶ 1 子どもにとって最善の利益とは</li> <li>7. 子どもの権利条約を学ぶ 2 子ども権利条約をめぐる日本の状況</li> <li>8. 子どもの現状と人権 1 家庭・保育における子ども</li> <li>9. 子どもの現状と人権 2 教育・社会における子ども</li> <li>10. 子どもの現状と人権 3 海外・世界における子ども</li> <li>11. 子どもの権利擁護の活動 海外と日本の状況</li> <li>12. 人権にかかわる教育 海外の取り組みに学ぶ</li> <li>13. 子どもにかかわる大人の役割 人権を守るために</li> <li>14. 子どもの人権にかかわる教材を考える</li> <li>15. 子どもの人権を守る保育のあり方を考える</li> </ol> <p>レポート提出</p>			
<p><b>【準備学習】</b>  次回の予定テーマを予告するので、そのテーマについてテキスト等の内容を予習すること。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>  (参考書)  喜多明人他『子どもとマスターする50の権利学習』  合同出版  喜多明人『学習子どもの権利条約』日本評論社  ほか、別途指示</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>  (試験やレポートの評価基準など)  受講およびグループワーク参加態度 (10%)、中間レポート (20%)、期末レポート (70%) による総合評価</p>		

授業のタイトル（科目名） <b>ジェンダーと家族</b>	授業の種類 <b>(講義)・演習・実習</b>	授業担当者 <b>五十嵐裕子</b>	
配当年次・時期 <b>2, 3, 4 年次・前期</b>	単位数 <b>2 単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男性、女性の生き方を固定してきた概念を知り、ジェンダーの視点から状況を判断する姿勢を身につける。</li> <li>・現代の男女と家族を取り巻くさまざまな問題の実相を知るとともに、新たな方途を探る。</li> </ul> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b></p> <p>現代社会では家庭でも社会でも男女平等で、女性も社会に参加し活躍することが可能な状況にあると言われているが、女性も男性も生きやすく、可能性が存分に発揮できる社会になっているだろうか。現代の家族と個人を取り巻くさまざまな問題を取り上げ、その問題の根底にあるものを探り今後のあり方を考える。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b></p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ジェンダーと家族：ライフコース、イクイティ、シチズンシップの視点から</li> <li>2. 結婚、離婚、家族のありかたとジェンダー</li> <li>3. 子育て、介護とジェンダー</li> <li>4. 労働の場におけるジェンダー問題</li> <li>5. 教育の場におけるジェンダー問題</li> <li>6. 女性に対する暴力</li> <li>7. メディアとジェンダー</li> <li>8. 男女共同参画とジェンダー</li> <li>9. こどものジェンダー形成過程</li> <li>10. 生殖技術と家族</li> <li>11. 社会から排除されがちな家族(1)</li> <li>12. 社会から排除されがちな家族(2)</li> <li>13. 家族から抑圧される個人(1)</li> <li>14. 家族から抑圧される個人(2)</li> <li>15. これからの家族を考える</li> </ol> <p>試験・レポート等</p>			
<p><b>【準備学習】</b></p> <p>事前に指示されたテキストの箇所、配布資料に目を通してから授業に臨むこと。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b></p> <p>テキスト： 未定</p> <p>参考文献： 『データで読む家族問題新版』NHK ブックス 『女性のデータブック第4版』有斐閣</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b></p> <p>試験：60% 提出物、授業への取り組み等：40%</p>	

授業のタイトル（科目名） <b>家族支援の展開</b>	授業の種類 ( 講義・ <b>演習</b> ・実習 )	授業担当者 <b>菅野 陽子</b>	
配当年次・時期 <b>3, 4 年次・前期</b>	単位数 <b>1 単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	<b>保育士選択</b>
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>現代の家族を取り巻く社会的状況、人々の生活様式や価値観は変わりつつある。いまや保育者は、こどもの背景にある家族に目を向け、家族や地域と連携して、こどもが豊かに育っていくことを保障することが求められている。そのために、家族の観方や支援のあり方を、さまざまな方向から理解することを目的とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>家族の機能、家族の現状とかかえる課題を理解し、家族を支援する方法や技術、社会的資源について学ぶ。保育や支援センターにおける支援と支援者のあり方について、演習や現場経験を通して学ぶ。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション（保育者と家族支援）</li> <li>2. こどもと家族</li> <li>3. 親であること</li> <li>4. 現代社会と家族の変容</li> <li>5. 家族関係と子育ての諸問題</li> <li>6. 現代の家族とジェンダー</li> <li>7. 児童福祉における家族支援の諸施策</li> <li>8. 家族支援の対象と理解</li> <li>9. 子育て家庭の課題と支援</li> <li>10. 障がいのあるこども家庭の課題と支援</li> <li>11. ひとり親家庭の課題と支援</li> <li>12. 虐待・疾患のある家庭の課題と支援</li> <li>13. 家族支援の理論と活用</li> <li>14. 関係機関・施設における家庭支援</li> <li>15. 保育所における家庭支援 まとめ</li> </ol> <p>試験</p>			
<p>【準備学習】</p> <p>テキストを読んでくること。また、その週の授業で行った箇所の演習問題を、次週に口頭発表あるいは提出する。</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>テキスト： 未定</p> <p>参考文献： 武藤安子・吉川晴美・松永あけみ 共著「家族支援の保育学」</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>（試験やレポートの評価基準など）</p> <p>平常点(授業態度、出席含む)：30%</p> <p>試験：70%</p>	

授業のタイトル(科目名) <b>地域支援の展開</b>	授業の種類 ( 講義・ <b>演習</b> ・実習 )	授業担当者 <b>大久保秀子</b>	
配当年次・時期 <b>3, 4 年次・後期</b>	単位数 <b>1 単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	<b>保育士選択</b>
<p>【授業の目的・ねらい】 地域社会への働きかけによって、既存の社会資源活用や、新たな社会資源の構築を行い、こども・子育て家族を含む地域住民全体の生活を向上させ、地域社会をより良いものとする事が可能である。その展開過程について、具体的事例も用いながら学んでいく。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 地域福祉の枠組み、原理、歴史など基礎知識を学んだ後、身近な地域の生活課題をどのように発見し、解決への支援過程を計画、展開するかについて演習を通じて学ぶ。住民や当事者の力を高めることの重要性、新たな社会資源とネットワークづくりの可能性などを考察し、子育て支援拠点の発展が地域社会にどのような影響を与えてより良い地域社会の創造に結びつくのかを理解し、支援的に行動する力を高める。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業オリエンテーション・地域社会と私たちの生活</li> <li>2. 地域・地域社会・コミュニティの概念</li> <li>3. 日本における地域社会の特色</li> <li>4. 地域支援の理念と歴史</li> <li>5. 地域における生活課題の発見 1</li> <li>6. 地域における生活課題の発見 2</li> <li>7. 地域支援の実際 1</li> <li>8. 地域支援の実際 2</li> <li>9. 当事者型福祉・住民参加型福祉と地域支援</li> <li>10. 地域支援の拠点とネットワークづくり</li> <li>11. 地域支援の計画と行政の役割</li> <li>12. 地域支援の担い手養成</li> <li>13. 地域の経済とコミュニティビジネス</li> <li>14. 地域支援の課題</li> <li>15. 総括</li> </ol> <p>試験・レポート等</p>			
<p>【準備学習】 事前に指示する項目についての下調べならびに教材、文献の該当箇所を読む。</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】 テキスト： 毎回資料配布 参考文献： 川村匡由『地域福祉の理論と方法』久美出版 日本地域福祉学会編『地域福祉事典』中央法規出版</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 試験：70% 平常点：30%</p>	

<b>授業のタイトル (科目名)</b> <b>地域資源とネットワーク</b>	<b>授業の種類</b> ( <b>講義</b> )・演習・実習 )	<b>授業担当者</b> <b>新澤 拓治</b>	
<b>配当年次・時期</b> <b>3, 4 年次・後期</b>	<b>単位数</b> <b>2 単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          まず地域資源とは何か、表面的なメニューにとらわれるのではなく、地域住民や市民団体、公的な制度や施設など複合的な資源という視点をもつこと。そしてそれぞれの力が相互に絡みあいながら、助け合い支えあう文化が形成されていくためにネットワークが必要であることを理解し、その形成過程を学んでいく。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          現代では子ども家庭福祉の推進にあたり、個々の施設内における福祉活動だけでは対応が難しい事例が多くなっており、地域でのネットワーク構築や関連機関と連携した活動が重要になっている。この科目では様々な想定のもと具体的な事例を通しながら具体的な支援策や連携の持ち方などを、地域の現状把握から各機関や行政の組織、制度の理解を深めたり、フィールドワークを通して情報を収集したりしながら、講義、グループワーク、ロールプレイ等を通し学習をすすめる。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>  <b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・授業の内容と進め方について</li> <li>2. 講義：地域資源とは何か その視点の持ち方と理解</li> <li>3. グループ討議：地域資源の実際（フィールドワーク含む）</li> <li>4. グループ演習・討議：想定ケースへの対応を考えるⅠ</li> <li>5. 全体討議：グループ報告と討議</li> <li>6. 講義：ネットワーク形成の実際</li> <li>7. グループ演習・討議：想定ケースへの対応を考えるⅡ</li> <li>8. フィールドワーク報告・討議①</li> <li>9. フィールドワーク報告・討議②</li> <li>10. グループ演習・討議：想定ケースのアセスメント</li> <li>11. グループ演習・討議：支援策の設定</li> <li>12. グループ討議：グループレポート作成</li> <li>13. 全体討議：グループレポート報告と討議</li> <li>14. グループ討議：地域資源の現状とネットワーク形成の課題</li> <li>15. 全体を通してのまとめ</li> </ol> <p>レポート</p>			
<p><b>【準備学習】</b>          自分の居住地域もしくは、調べてみたいと思う地域において、市役所、区役所等へ行き、子育て支援、および暮らしに係わる社会資源についての情報収集を行う。(例：暮らしの便利帳・子育てガイド・保育園入園のしおり等 その他 WEB での情報収集も可)</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          テキスト：          よくわかる 子育て支援・家族援助(ミネルヴァ書房)          大豆生田啓友・太田光洋・森上史朗編</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          出席を含めた授業への取り組み：20%          課題・提出物：20%          レポート：60%</p>		

授業のタイトル (科目名) <b>国際こども福祉</b>	授業の種類 ( <b>講義</b> )・演習・実習)	授業担当者 <b>陳 銀玉</b>	
配当年次・時期 <b>1, 2, 3, 4 年次・前期</b>	単位数 <b>2 単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 世界のさまざまな所でさまざまな子どもたちがさまざまな生活を送っていることを事例や社会的出来事をもとに話し合い、グループワークを通して世界の子どもたちの生活と文化的な背景やその社会との関係性について認識する。これらを通して社会福祉の担い手として国際化の中で多様な文化や社会の中で育つ子どもについての理解力と対応力を高める。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 21世紀は地球を一つの村として考えるほどグローバル化が進む中、保育の現場でもさまざまな文化背景を持つ子どもたちがいるという現状を理解すると共に世界の子どもたちが置かれている現状をテーマごとに考えてみる。社会福祉の担い手としての役割や子どもに対する保育者の姿勢について考えてみる。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b> コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際こども福祉とは何か</li> <li>2. 国際的に子どもが置かれている状況を見る</li> <li>3. 世界の子どもたちの現状(1) 子どもと生存</li> <li>4. 世界の子どもたちの現状(2) 子どもと貧困</li> <li>5. 世界の子どもたちの現状(3) 児童労働</li> <li>6. 世界の子どもたちの現状(4) 子どもと虐待</li> <li>7. 世界の子どもたちの現状(5) こどもの人身売買</li> <li>8. 世界の子どもたちの現状(6) 子どもと武力紛争</li> <li>9. 世界の子どもたちの現状(7) 子どもとエイズ/HIV</li> <li>10. 世界の子どもたちの現状(8) 子どもと教育</li> <li>11. アジアのこども福祉</li> <li>12. アメリカのこども福祉</li> <li>13. ヨーロッパのこども福祉</li> <li>14. 日本の国際化による多文化と子どもを取り巻く状況</li> <li>15. 国際こども福祉における協力支援とありかた</li> </ol> <p>試験</p>			
<p><b>【準備学習】</b> 授業の最後で毎回の準備学習として参考文献の指定や資料調べ等について指示する。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b> (使用テキスト) 毎回プリントを配布 (参考文献) 川村匡由『国際社会福祉論』、ミネルヴァ書房、2004 『世界子供白書 特別版 2010』、ユニセフ</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> 平常点(出席状況・授業態度)：40% 試験：60%</p>	

<b>授業のタイトル (科目名)</b> <b>フィールド演習</b>	<b>授業の種類</b> <b>( 講義・演習・実習 )</b>	<b>授業担当者</b> 大久保・伊志嶺・岩本・菅野・高野・ 櫃田・藤井・橋本・久富・船木・五十嵐・ 田中・朝田・瓜巢・柴田・鶴ヶ谷・坪井	
<b>配当年次・時期</b> <b>1年次・通年</b>	<b>単位数</b> <b>1単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>必修</b>	<b>幼稚園教諭必修</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>                  保育所、幼稚園、学内の親子のひろば「ぼっけ」での体験見学を通じて実際にこどもとふれあうことにより、こどもに関わる現場の様子を学び、「こどもとふれあう自分」に対する新たな気づきをうながす。2年次以降の保育実習や幼稚園教育実習への準備学習を兼ねる演習である。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>                  年間を通じて2回の学外見学とその事前学習ならびにグループ学習を活用した事後学習、親子のひろば「ぼっけ」における指定された回数の体験活動を行うことによって、こどもとのふれあい、それぞれの現場における保育者の役割、こどもの活動の環境などについての理解を深める。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>                  コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業オリエンテーション</li> <li>2. 親子のひろば「ぼっけ」の意義と役割</li> <li>3. 参加のための事前学習</li> <li>4. 体験見学1</li> <li>5. 見学後のグループ学習</li> <li>6. 体験見学2</li> <li>7. 見学後のグループ学習</li> <li>8. 第1回見学事前学習</li> <li>9. 見学1</li> <li>10. 見学記録作成</li> <li>11. 見学報告会</li> <li>12. 第2回見学事前学習</li> <li>13. 見学2</li> <li>14. 見学記録作成</li> <li>15. 見学報告会</li> </ol> <p>レポート提出</p>			
<p><b>【準備学習】</b>                  事前に指示された内容を期日に提出する。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>                  テキスト：                  フィールド演習の手引き</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>                  レポート：70%                  平常点：10%                  取組の姿勢：20%</p>		

授業のタイトル（科目名） <b>海外セミナー</b>	授業の種類 （ 講義 ・ <b>演習</b> ・ 実習 ）	授業担当者 大久保秀子・伊志嶺美津子・菅野陽子・檀田紋子・久富陽子・船木美佳・柴田崇浩・田中泉	
配当年次・時期 <b>1, 2, 3, 4 年次・後期</b>	単位数 <b>2 単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          学術提携関係にあり、家族支援者を養成するカナダのライアソン大学において、カナダの保育や家族支援の実際について学び、国際的視野にふれ、保育者として子育て支援者としての力をつける。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          事前に研修先について学習し、英語のスキルアップを図る。現地ライアソン大学においては、学内での授業参加および学生との交流、学内外の保育施設や家族支援センターなどを見学する。事後に報告会を行い、報告書を作成する。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>          コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション ラリアソン大学、家族支援、日程等について</li> <li>2. 事前学習 カナダの家族支援と保育について</li> <li>3. 英語学習①</li> <li>4. 英語学習②</li> <li>5. 学生交流のためのプレゼンテーション準備</li> <li>6. 現地研修 4日間（7泊8日） ラリアソン大学幼児教育科の授業参加          学生との交流          学内保育所及び学外施設の見学</li> <li>7. 研修報告会</li> <li>8. 報告書作成</li> </ol>			
<p><b>【準備学習】</b>          事前学習、英語学習、プレゼンテーション準備等にあたり、それぞれ課題を提示するので、それぞれの課題に沿って着実に予習し、進めていくこと。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          伊志嶺美津子他「子ども家庭支援プログラムの開発に関する研究」平成15年度・16年度厚生労働科学研究報告書          『浦和大学 国際セミナー2008 資料集』（図書館に蔵書あり）</p> <p><b>【備考】</b>          旅費等の参加費は別途提示する。</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          事前事後授業受講および参加態度：20%          現地研修参加態度：30%          中間レポート：20%          期末レポート：30%</p>		

授業のタイトル (科目名) <b>卒業研究</b>	授業の種類 ( 講義・ <b>演習</b> ・実習 )	授業担当者 大久保・伊志嶺・高野・檀田・藤井・橋本・久富・船木			
配当年次・時期 <b>4年次・通年</b>	単位数 <b>2単位</b>	必修・選択 <b>必修</b>			
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          3年次終了時に学生の希望に沿って授業担当者を決定し、一年間を通じて同一教員による指導を受けるので、詳細は各教員の指導に従う。授業では、3年次までの学内外における学習をふまえて、個々の学生が関心のある課題を発見し、文献やデータ収集、調査、事例研究、教材研究などによって、その課題に関する分析や考察を深め、卒業研究として成果物をまとめる。この一連の学習を通じて、課題発見から課題解決能力へと導く総合的能力を高める。少人数のクラス編成の演習授業として実施する。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          前期においては、各自の課題発見と研究の意義と方法について焦点化することを目的として、関心のあるテーマに関して調べて報告し、ディスカッションを行うなどの演習と、分析、考察の深め方、研究方法に関する指導を中心に行う。夏休みに各自が研究を進め、後期においては成果物へとまとめていくための個別指導と中間発表を中心に行う。          総まとめとしての成果物を作成し、最後に研究発表を行う。</p>					
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>          コマ数</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">           1. ガイダンス            2. 研究計画の立て方と研究の進め方            3. 学生による課題の発表とディスカッション(1)            4. 学生による課題の発表とディスカッション(2)            5. 資料収集と分析、考察の進め方            6. 研究方法指導①            7. 研究課題設定と研究計画作成指導                &lt;個別指導①&gt;            8. 研究課題設定と研究計画作成指導                &lt;個別指導②&gt;            9. 研究計画発表とディスカッション            10. 研究方法指導②            11. 研究成果のまとめ方            12. 研究計画の修正、発表と指導(1)            13. 研究計画の修正、発表と指導(2)            14. 今後の研究の進め方について中間発表            15. 研究計画書提出、夏休み中の進め方         </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">           16. 研究成果中間発表(1)            17. 論文指導演習 &lt;個別指導①&gt;            18. 論文指導演習 &lt;個別指導②&gt;            19. 論文指導演習 &lt;個別指導③&gt;            20. 論文指導演習 &lt;個別指導④&gt;            21. 論文指導演習 &lt;個別指導⑤&gt;            22. 研究成果中間発表(2)            23. 論文指導演習 &lt;個別指導⑥&gt;            24. 論文指導演習 &lt;個別指導⑦&gt;            25. 論文指導演習 &lt;個別指導⑧&gt;            26. 論文指導演習 &lt;個別指導⑨&gt;            27. 論文指導演習 &lt;個別指導⑩&gt;            28. 論文指導演習 &lt;個別指導⑪&gt;            29. 研究発表会準備            30. 研究発表会         </td> </tr> </table>				1. ガイダンス 2. 研究計画の立て方と研究の進め方 3. 学生による課題の発表とディスカッション(1) 4. 学生による課題の発表とディスカッション(2) 5. 資料収集と分析、考察の進め方 6. 研究方法指導① 7. 研究課題設定と研究計画作成指導 <個別指導①> 8. 研究課題設定と研究計画作成指導 <個別指導②> 9. 研究計画発表とディスカッション 10. 研究方法指導② 11. 研究成果のまとめ方 12. 研究計画の修正、発表と指導(1) 13. 研究計画の修正、発表と指導(2) 14. 今後の研究の進め方について中間発表 15. 研究計画書提出、夏休み中の進め方	16. 研究成果中間発表(1) 17. 論文指導演習 <個別指導①> 18. 論文指導演習 <個別指導②> 19. 論文指導演習 <個別指導③> 20. 論文指導演習 <個別指導④> 21. 論文指導演習 <個別指導⑤> 22. 研究成果中間発表(2) 23. 論文指導演習 <個別指導⑥> 24. 論文指導演習 <個別指導⑦> 25. 論文指導演習 <個別指導⑧> 26. 論文指導演習 <個別指導⑨> 27. 論文指導演習 <個別指導⑩> 28. 論文指導演習 <個別指導⑪> 29. 研究発表会準備 30. 研究発表会
1. ガイダンス 2. 研究計画の立て方と研究の進め方 3. 学生による課題の発表とディスカッション(1) 4. 学生による課題の発表とディスカッション(2) 5. 資料収集と分析、考察の進め方 6. 研究方法指導① 7. 研究課題設定と研究計画作成指導 <個別指導①> 8. 研究課題設定と研究計画作成指導 <個別指導②> 9. 研究計画発表とディスカッション 10. 研究方法指導② 11. 研究成果のまとめ方 12. 研究計画の修正、発表と指導(1) 13. 研究計画の修正、発表と指導(2) 14. 今後の研究の進め方について中間発表 15. 研究計画書提出、夏休み中の進め方	16. 研究成果中間発表(1) 17. 論文指導演習 <個別指導①> 18. 論文指導演習 <個別指導②> 19. 論文指導演習 <個別指導③> 20. 論文指導演習 <個別指導④> 21. 論文指導演習 <個別指導⑤> 22. 研究成果中間発表(2) 23. 論文指導演習 <個別指導⑥> 24. 論文指導演習 <個別指導⑦> 25. 論文指導演習 <個別指導⑧> 26. 論文指導演習 <個別指導⑨> 27. 論文指導演習 <個別指導⑩> 28. 論文指導演習 <個別指導⑪> 29. 研究発表会準備 30. 研究発表会				
<p><b>【準備学習】</b></p>					
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          各教員の指示による</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          (試験やレポートの評価基準など)          卒業研究への取り組み、出席状況ならびに卒業研究としての成果物の状況、発表等を総合的に評価する。          平常点・出席 30%      最終提出物 70%</p>				

# こども専門科目

## (こどもと家族の生活支援)

授業のタイトル（科目名） <b>社会福祉概論</b>	授業の種類 （ <b>講義</b> ・演習・実習）	授業担当者 <b>大久保秀子</b>	
配当年次・時期 <b>1年次・前期</b>	単位数 <b>2単位</b>	必修・選択 <b>必修</b>	<b>保育士必修</b>
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>①社会福祉の基本理念ならびに現代社会において求められる役割を理解する。          ②社会福祉の基本的仕組み、法行財政、分野ごとの課題について理解する。          ③社会福祉の歴史的展開と現代の動向と展開方向について考察を深める。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>社会福祉の基本理念を正しく理解し、現代社会における社会福祉の意義や役割を学ぶことを通じ、保育士が広く社会福祉を担う役割を果たすことへの気づきを促す。また、社会福祉の法行財政、日本における社会福祉の歴史、社会福祉の援助の実際がどのような場でどのような考え方や方法で行われているのか、といった援助の体系、社会福祉専門職の役割など、社会福祉の基礎的な知識を学習する。この講義を通じて、多様な人々がより良く生きることができるよう支援するための、さまざまな方策が社会福祉であることを理解させる。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業オリエンテーション・現代社会と社会福祉</li> <li>2. 人権の歴史と社会福祉の生成</li> <li>3. 社会福祉の理念 (小課題①)</li> <li>4. 社会福祉の仕組み：法行財政①</li> <li>5. 社会福祉の仕組み：法行財政②</li> <li>6. 社会福祉の施設と機関 (小課題②)</li> <li>7. 社会福祉援助技術の体系</li> <li>8. 社会福祉の分野① 障害者の生活と自立を支援する社会福祉</li> <li>9. 社会福祉の分野② 高齢者の生活問題の深化と社会福祉</li> <li>10. 社会福祉の分野③ 高齢者の生活問題としての介護と介護保険制度</li> <li>11. 社会福祉の歴史① イギリスにおける福祉国家形成を中心に</li> <li>12. 社会福祉の歴史② 日本の社会福祉史概観</li> <li>13. 社会福祉の動向 社会福祉基礎構造改革と地域福祉の批判的検討 (小課題③)</li> <li>14. 社会福祉を担う人々 専門職制度と職業倫理</li> <li>15. 総括——学習のまとめ——</li> </ol> <p>筆記試験を実施</p>			
<p>【準備学習】</p> <p>教科書の該当箇所を事前に読んでから授業に臨むこと。</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>テキスト：          大久保秀子著『新 社会福祉とは何か』          (中央法規出版)          『コンパクト社会福祉小六法』（ミネルヴァ書房）          参考文献：授業時に紹介する。</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】</p> <p>試験：70%          平常点(出席状況・授業態度)：30%</p>	

授業のタイトル（科目名） <b>児童家庭福祉論</b>	授業の種類 ( <b>講義</b> )・演習・実習)	授業担当者 <b>五十嵐裕子</b>	
配当年次・時期 <b>1年次・後期</b>	単位数 <b>2単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	<b>保育士必修</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童家庭福祉の意義を歴史や子どもの人権を通して理解するとともに、制度や実施体制について知る。</li> <li>・子どもと家族をめぐる福祉の問題と、それへの児童家庭福祉サービスの実際と課題について学ぶ。</li> </ul> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b></p> <p>児童家庭福祉の意義と歴史、子どもの人権と児童家庭福祉問題の現代的背景、児童家庭福祉の制度と体系についての理解を図るとともに、子どもを巡って現在おきているさまざまな問題を取り上げ、その背景や動向、対応、課題などについて具体的に考える。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b></p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童家庭福祉の理念と概念</li> <li>2. 児童家庭福祉の歴史（イギリス）</li> <li>3. 児童家庭福祉の歴史（日本）</li> <li>4. 子どもの権利・子どもと家族</li> <li>5. 児童家庭福祉の制度と法体系</li> <li>6. 児童家庭福祉の行財政と実施機関</li> <li>7. 児童福祉施設の種類と概要</li> <li>8. 児童家庭福祉の専門職</li> <li>9. 児童家庭福祉の現状と課題(1) 要保護児童への対応</li> <li>10. 児童家庭福祉の現状と課題(2) 少年非行への対応</li> <li>11. 児童家庭福祉の現状と課題(3) 障害のある児童への対応</li> <li>12. 児童家庭福祉の現状と課題(4) 児童虐待とドメスティックバイオレンス</li> <li>13. 児童家庭福祉の現状と課題(5) 単親家庭への対応</li> <li>14. 児童家庭福祉の現状と課題(6) 多様な保育ニーズと子育て支援サービス</li> <li>15. 世界の子どもたちの状況</li> </ol> <p>試験・レポート等</p>			
<p><b>【準備学習】</b></p> <p>指定されたテキストの箇所、あるいは配布プリントを読んでから授業に臨むこと。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b></p> <p>テキスト： 未定</p> <p>参考文献： 『保育白書』ひとなる書房 『子ども白書』草土文化</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b></p> <p>試験：60% 平常点：40% (提出物、授業への取り組み等)</p>	

の子どもと家族  
生活支援

<b>授業のタイトル（科目名）</b> <b>社会的養護論</b>	<b>授業の種類</b> <b>(講義)・演習・実習</b>	<b>授業担当者</b> <b>瓜巢由紀子</b>	
<b>配当年次・時期</b> <b>2年次・後期</b>	<b>単位数</b> <b>2単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>	<b>保育士必修</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>  社会的養護とは何かということを理解し、社会的養護の法制度、実施体系などを理解する。社会的養護の今日的意義と児童福祉の専門職としての基礎的な知識等を習得できるようにする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>  社会的養護の歴史の変遷、現状と課題を把握する。家庭養護の環境変化と社会的養護の役割、社会的養護の法制度や体系、従事者の役割を解説する。これらをふまえ、児童福祉施設の従事者として備えるべき支援の理念や内容を学習する。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>  <b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会的養護とは何か</li> <li>2. 社会的養護の歴史の変遷と今日的意義</li> <li>3. 児童の権利擁護と自立支援</li> <li>4. 社会的養護の法制度と体系</li> <li>5. 社会的養護の専門職①</li> <li>6. 社会的養護の専門職②</li> <li>7. 施設養護の運営管理</li> <li>8. 家庭的養護と支援、施設養護と支援①</li> <li>9. 施設養護と支援②</li> <li>10. 施設養護と支援③</li> <li>11. 施設養護と支援④</li> <li>12. 施設養護と支援⑤</li> <li>13. 施設養護と家庭支援・地域とのかかわり</li> <li>14. 社会的養護と危機管理</li> <li>15. 社会的養護まとめ</li> </ol> <p>試験</p>			
<p><b>【準備学習】</b>  「社会福祉概論」や「児童家庭福祉論」を復習しておくこと。また新聞等で児童福祉の現状を把握しておくこと。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>  テキスト：  未定  参考文献：  『養護原理の基礎と実際』 米山岳廣他／文化書房博文社</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>  平常点(出席状況・授業態度)：40%  試験：60%</p>		

授業のタイトル(科目名) <b>社会的養護内容</b>	授業の種類 ( 講義・ <b>演習</b> ・実習 )	授業担当者 <b>瓜巢由紀子</b>	
配当年次・時期 <b>3年次・前期</b>	単位数 <b>1単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	<b>保育士必修</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 社会的養護の実際と支援の方法を学び、児童福祉従事者の役割を理解する。児童福祉の現場で活かせる知識を習得する。 個人ワークやグループワークを通して、児童福祉の専門職として必要な基礎的技能を習得する。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 社会的養護の基礎的知識を活かし、児童の権利擁護と児童福祉専門職としての知識・技能を高める。そして各事例について個人ワークならびにグループワークを行い、支援の多様性や考え方の多様性を体得できるようにする。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b> コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家庭養護と社会的養護の役割</li> <li>2. 社会的養護の体系と支援事業</li> <li>3. 児童の権利擁護と自立支援の実際</li> <li>4. 児童福祉専門職としての役割と倫理</li> <li>5. 自立支援事例①における個人ワーク</li> <li>6. 事例のグループワークと発表、まとめ</li> <li>7. 自立支援事例②における個人ワーク</li> <li>8. 事例のグループワークと発表、まとめ</li> <li>9. 被虐待児事例における個人ワーク</li> <li>10. 事例のグループワークと発表、まとめ</li> <li>11. 親子関係調整事例における個人ワーク</li> <li>12. 事例のグループワークと発表、まとめ</li> <li>13. 保護者支援事例における個人ワーク</li> <li>14. 事例のグループワークと発表、まとめ</li> <li>15. 社会的養護内容のまとめ</li> </ol> <p>試験</p>			
<p><b>【準備学習】</b> 「社会的養護論」を復習しておくこと。また現場実習の振り返りもあるので、実習で得た資料等を復習しておくこと。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b> テキスト： 未定 参考文献： 『養護内容の基礎と実際』 米山岳廣他／文化書房博文社ほか</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> 平常点(出席状況・授業態度)：40% 試験：60%</p>	

<b>授業のタイトル（科目名）</b> <b>相談援助演習</b>	<b>授業の種類</b> <b>（ 講義・演習・実習 ）</b>	<b>授業担当者</b> <b>大久保秀子・五十嵐裕子・瓜巢由紀子</b>	
<b>配当年次・時期</b> <b>3年次・前期</b>	<b>単位数</b> <b>1単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>	<b>保育士必修</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士にとっての相談援助の意義、保育活動と相談援助の関係について理解する。</li> <li>・相談援助の方法と技術についての理解を図る。</li> </ul> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b></p> <p>保育、児童福祉の場において相談援助がどのように活用されているのか、その必要性と意義について理解を図った上で、相談援助の理念と歴史、原理原則、過程、記録と評価について学ぶ。さらに事例を通して、相談援助活動の展開、関係機関や他専門職との協働、社会資源の活用等について学ぶ。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b></p> <p><b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 相談援助の概要(1) 保育と相談援助</li> <li>2. 相談援助の概要(2) 相談援助とソーシャルワーク</li> <li>3. 相談援助の概要(3) 相談援助の理論と歴史</li> <li>4. 相談援助の概要(4) 相談援助の機能</li> <li>5. 相談援助の方法(1) 相談援助の対象</li> <li>6. 相談援助の方法(2) 相談援助の原理・原則</li> <li>7. 相談援助の方法(3) 相談援助の過程</li> <li>8. 相談援助の方法(4) 相談援助の記録・評価</li> <li>9. 相談援助の方法(5) 相談援助の技法</li> <li>10. ソーシャルワークの方法(1) グループワーク</li> <li>11. ソーシャルワークの方法(2) コミュニティワーク</li> <li>12. ソーシャルワークの方法(3) その他のソーシャルワークの方法</li> <li>13. 相談援助の具体的展開(1) 事例分析</li> <li>14. 相談援助の具体的展開(2) 事例分析</li> <li>15. 相談援助の具体的展開(3) 事例分析</li> </ol> <p>試験・レポート等</p>			
<p><b>【準備学習】</b></p> <p>指定されたテキストの箇所、あるいは配布プリントを読んでから授業に臨むこと。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b></p> <p>テキスト： 会田元明『子どもとむかいあうための相談援助演習』ミネルヴァ書房（予定）</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b></p> <p>試験：60% 平常点：40% （提出物、授業への取り組み）</p>	

<b>授業のタイトル（科目名）</b> <b>保育相談支援</b>	<b>授業の種類</b> <b>（ 講義・演習・実習 ）</b>	<b>授業担当者</b> <b>坪井 瞳</b>	
<b>配当年次・時期</b> <b>3年次・後期</b>	<b>単位数</b> <b>1 単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>	<b>保育士必修</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育相談支援の意義、原則について理解する。</li> <li>・ 保育所、児童養護施設、障がい児施設等における保育相談支援の実際について理解を図る。</li> </ul> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b></p> <p>「保育」の場、保育士の専門性である「保育指導技術」を活かした保育相談支援の意義について理解を図る。事例研究やロールプレイングを通して保育相談支援を行う際の基本的姿勢、保育所やその他児童福祉施設で展開される保育相談支援の実際について学ぶ。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b></p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保護者支援の意義(1) 保護者支援の意義と必要性</li> <li>2. 保護者支援の意義(2) 保育士の専門性を活かした支援の意義</li> <li>3. 保育相談支援の基本姿勢(1) 子どもの権利と子どもの最善の利益の重視</li> <li>4. 保育相談支援の基本姿勢(2) 子どもの成長の喜びを保護者と共有する</li> <li>5. 保育相談支援の基本姿勢(3) 保護者の養育の向上を支援する</li> <li>6. 保育相談支援の原理原則(1) 信頼関係、受容、自己決定、秘密保持等</li> <li>7. 保育相談支援の原理原則(2) 地域資源の活用と関係機関との連携</li> <li>8. 保育相談支援の展開(1) 保育に関する保護者への指導</li> <li>9. 保育相談支援の展開(2) 保護者支援の内容</li> <li>10. 保育相談支援の展開(3) 保護者支援の方法</li> <li>11. 保育相談支援の展開(4) 保護者支援の計画、記録、評価</li> <li>12. 保育相談支援の実際(1) 保育所における事例</li> <li>13. 保育相談支援の実際(2) 子育て家庭における事例</li> <li>14. 保育相談支援の実際(3) 乳児院、児童養護施設等における事例</li> <li>15. 保育相談支援の実際(4) 障がい児施設、母子生活支援施設等における事例</li> </ol> <p>試験・レポート等</p>			
<p><b>【準備学習】</b></p> <p>指定されたテキストの箇所、あるいは配布プリントを読んでから授業に臨むこと。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b></p> <p>テキスト：          柏女霊峰・橋本真紀編『保育相談支援』          ミネルヴァ書房</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b></p> <p>試験：60%          平常点：40%          （提出物、授業への取り組み等）</p>	

<b>授業のタイトル (科目名)</b> <b>グループダイナミクス</b>	<b>授業の種類</b> <b>( 講義・演習・実習 )</b>	<b>授業担当者</b> <b>檀田 紋子</b>							
<b>配当年次・時期</b> <b>3, 4 年次・後期</b>	<b>単位数</b> <b>1 単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>							
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          保育者は子ども一人ひとり、子ども全体（の雰囲気）、そして自分自身を観察しながら子どもに促進的に関与し、また子どもを巡る人間関係、家庭、地域等の周囲の状況も正しく把握して関与する人でもある。まさにグループ・ファシリテーター（促進者）的な役割を担っているといえる。本授業ではグループダイナミクスの基礎理論を背景に、方法論や実践の場において展開できるような基礎的知識と技法を学習する。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          人間の成長には集団との関わりが不可欠であるが、集団という視点から人間理解をすすめる心理学がグループダイナミクスである。対人援助や地域活動など、さまざまな集団との関わりの中かで多用される集団援助技術（グループワーク）の基礎理論としてグループワークの原理・原則を理解し、クラス集団の中でのグループ・プロセスの観察や分析を通してグループ・リーダーシップやグループアプローチの技法を習得する。また参加型のグループ学習の中かで、自己理解・他者理解を深めながら自らの対人コミュニケーション・スキルの向上をめざすものである。</p>									
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>  <b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間理解とグループダイナミクス</li> <li>2. グループアプローチの歴史的背景・今日的な課題</li> <li>3. グループダイナミクスの基礎理論(1)</li> <li>4. グループダイナミクスの基礎理論(2)</li> <li>5. グループの機能・グループの心理学的特性</li> <li>6. ファシリテーション技法・関連するその他の技法</li> <li>7. ファシリテーター（コ・ファシリテーター）の資質と役割</li> <li>8. グループプロセスの観察と記録</li> <li>9. グループワーク(1)事例検討</li> <li>10. グループワーク(2)ファシリテーション</li> <li>11. グループワーク(3)ファシリテーション</li> <li>12. セルフヘルプグループ・ピアサポートグループ</li> <li>13. 子育て支援へのグループアプローチ</li> <li>14. グループワークを通しての自己理解</li> <li>15. ふり返りとまとめ</li> </ol> <p>筆記試験</p>									
<p><b>【準備学習】</b>          本授業は参加型学習を多くとりいれているので楽しく学べるように、各セッションごとの事前の学習課題に十分に時間をかけて準備し意欲をもって参加してほしい。</p>									
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          必要により随時、資料を配布          （参考文献）          R.W.トーズランド著 野村豊子監訳          『グループワーク入門』中央法規</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          （試験やレポートの評価基準など）</p> <table border="0"> <tr> <td>筆記試験</td> <td style="text-align: right;">60%</td> </tr> <tr> <td>グループワークへの参加姿勢</td> <td style="text-align: right;">30%</td> </tr> <tr> <td>提出物</td> <td style="text-align: right;">10%</td> </tr> </table>			筆記試験	60%	グループワークへの参加姿勢	30%	提出物	10%
筆記試験	60%								
グループワークへの参加姿勢	30%								
提出物	10%								

<b>授業のタイトル (科目名)</b> <b>家庭支援論</b>	<b>授業の種類</b> <b>(講義・演習・実習)</b>	<b>授業担当者</b> <b>坪井 瞳</b>	
<b>配当年次・時期</b> <b>2年次・後期</b>	<b>単位数</b> <b>2単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>	<b>保育士必修</b>
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b>  現代の家族がおかれている状況や抱えている問題について、就労と子育て、地域社会の変容、家族観や子育て観の変遷などから理解する。子育て支援施策、次世代育成支援施策のもと、近年展開されている多様な支援の在り方について学び、支援者としての視点と力量を身につける。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b>  家族や家庭に対する人々の関心は高く、マスメディアなどにおいてもさまざまな言説が溢れている。しかし、それらはしばしば単なる印象論であったり、個人的価値観の表明であったりすることもあり、目の前の子どもの状況や必要とすることがらからかけ離れていることもある。また、「家庭や家族とは、子どもが育つうえで成長に必要な関係や資源の基盤である」とされているが、それは一義的でもなく所与のものでもないことが近年の家族・家庭・子どもの実態や研究から明らかとなってきた。さらに、子どもを産み育てるという行為を家族頼みにしてきた日本型雇用社会の歴史は、いま転換点にあるといえる。</p> <p>現代の家族をとりまく多様な価値観の中にある現在、本講義ではデータや言説に即し、改めて家族の果たしてきた機能・意義・歴史を振り返る。そして、現在の子どもと子育て家庭の置かれた社会状況を踏まえた上で、現在の子どもと子育て家庭にとって必要な支援を保育の観点から立脚した上で理解し、身につけることとする。</p>			
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b>  <b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 戦略としての家族—機能・意義の歴史、子ども中心主義の誕生</li> <li>2. 子を持つことの意味—世代から見る価値観の相違</li> <li>3. 子育てという困難—育児相談の内容の変遷から</li> <li>4. 母親という存在—「良妻賢母」／「母性愛」とは</li> <li>5. 「子どもが減って何が悪いか？」という言説—少子社会からまなざす子育て家族の存在</li> <li>6. 変わる家族・変わる食卓—食から見る家族・家庭</li> <li>7. 子どもの貧困—子どもにもひろがる格差</li> <li>8. 要保護児童およびその家族に対する支援①—児童虐待</li> <li>9. 要保護児童およびその家族に対する支援②—社会的養護のなかの子ども</li> <li>10. 子育て支援施策・次世代育成支援施策の概要—かかわる法・制度</li> <li>11. 相談体制・社会資源の概要—子どもと家族を支える機関・人</li> <li>12. 地域での子育て支援の実際—地域で育つとは</li> <li>13. 保育における相談援助—連携をキーワードに</li> <li>14. 家族依存型社会からの脱却—子どもの意見表明権</li> <li>15. おわりに—授業の振り返りとこれからの家庭支援に向けて  試験・レポート等</li> </ol>			
<p><b>[準備学習]</b>  家族に関するニュースや情報を積極的に収集しておいてください。  次回の授業に向けて準備課題を適宜出し、その課題を用いて次回の授業を行うこともあります。</p>			
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b>  (使用テキスト) 橋本真紀・山縣文治 2007『よくわかる家族援助論 (第2版)』ミネルヴァ書房  (参考文献) 落合恵美子 2004『21世紀家族へ：家族の戦後体制の見かた・超えかた (第3版)』有斐閣  広田照幸 1999『日本人のしつけは衰退したか：教育する家族のゆくえ』講談社新書  内閣府 2010『平成22年度版 子ども・子育て白書』  ほか、適宜講義内で紹介する</p>	<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b>  出欠状況・講義への参加度：20%  各回終了時のレスポンスカード提出状況：10%  試験・レポート：70% (形式については未定、講義内で指示する)</p>		

**こどもと家族  
生活支援**

授業のタイトル (科目名) <b>ボランティア・NPO 論</b>	授業の種類 ( <b>講義</b> )・演習・実習)	授業担当者 <b>大久保秀子</b>	
配当年次・時期 <b>2, 3, 4 年次・前期</b>	単位数 <b>2 単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> ボランティア活動の原理や考え方の基本について、演習を交えて学ぶとともに、保育者としてボランティアとより良い関係を築くための原則を理解していく。そして、近年、急速に盛んになった多様な NPO 活動の社会的意義や今後の展開方向について理解を深める。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> ボランティア活動ならびに NPO 組織と活動についての基礎知識について理解を深めるため、必要に応じてグループ学習も取り入れながらボランティア活動と組織について学ぶ、保育現場でどのような役割を果たせるか、ボランティアコーディネートの役割と重要性について学ぶ。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b> コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ボランティアとは何か</li> <li>2. ボランティア活動の原理① 自発性</li> <li>3. ボランティア活動の原理② 非営利—無償の意義</li> <li>4. ボランティア活動の原理③ 社会性・社会貢献性</li> <li>5. ボランティア活動の原理④ 創造性の発揮</li> <li>6. 日本におけるボランティアの歴史的展開 1</li> <li>7. 日本におけるボランティアの歴史的展開 2</li> <li>8. NPO 法の背景と意義</li> <li>9. NPO 法人の組織的活動の実際と課題</li> <li>10. NPO 法人の組織と運営</li> <li>11. NPO・市民活動・ボランティア活動</li> <li>12. 保育・福祉施設におけるボランティアとの協働</li> <li>13. 地域社会とボランティア</li> <li>14. ボランティアコーディネートの役割と重要性</li> <li>15. ボランティア・NPO・市民活動の今後</li> </ol> <p>試験・レポート等</p>			
<p><b>【準備学習】</b> 事前に配布したプリントの該当箇所を読む等授業時に指示。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b> テキスト： 米山岳広編著『ボランティア活動の理論と実際』 (文化書房)</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> 試験：70% 平常点：30%</p>	

# こども専門科目

## (こどもと家族の心理)

<b>授業のタイトル (科目名)</b> <b>発達心理学</b>	<b>授業の種類</b> ( <b>講義</b> )・演習・実習 )	<b>授業担当者</b> <b>柴田 崇浩</b>	
<b>配当年次・時期</b> <b>1年次・前期</b>	<b>単位数</b> <b>2単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>	<b>保育士必修</b> <b>幼稚園教諭選択</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          子どもの発達を中心に、生涯発達の視点から、心理的、生理的、社会的側面に関する発達心理学の知見を学び、より深い人間理解を目指す。子どもから大人までの各発達段階の変化を詳細に理解することにより、日常生活の人間行動の諸現象への洞察を深め、保育・教育現場で活かせる基礎力の獲得と向上に取り組む。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          子どもの発達における運動、知覚、言語、思考、情動等の、精神のおよび身体的な機能および構造の発達の要因や変化の条件を理解する。そして、具体的な発達に関する事例や現象について、映像等を観察し、考察することをとおして、発達段階によって生じる様々な心理的問題や障害について体験的に理解する。発達の変化を予測する力を養い、適切な発達の理解と援助を可能とする知識とスキルを学ぶ。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>  <b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達心理学の視点、研究法</li> <li>2. 発達心理とライフサイクル</li> <li>3. 発達の生物学的側面</li> <li>4. 発達の心理・社会的側面</li> <li>5. こころの発達の時期と段階説</li> <li>6. 出生前から幼児期までの発達</li> <li>7. 児童期から青年期までの発達</li> <li>8. 成人期から高齢期までの発達</li> <li>9. 学習と言語の発達</li> <li>10. 社会性の発達</li> <li>11. パーソナリティの発達</li> <li>12. 発達に関する問題の理解と心理学的援助(1)</li> <li>13. 発達に関する問題の理解と心理学的援助(2)</li> <li>14. 発達と保育、教育、創造性</li> <li>15. 総括</li> </ol> <p>筆記試験</p>			
<p><b>【準備学習】</b>          使用するテキストの中から、毎回の講義に関連する内容を事前に読んでおくこと</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          (テキスト)          藤崎真知代他 共著「保育のための発達心理学」</p> <p>(参考文献)          高橋 道子他 共著「子どもの発達心理学」</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          出席を含めた授業への取り組み：20%          授業内レポート・課題提出：20%          筆記試験：60%</p>	

授業のタイトル (科目名) <b>保育の心理学演習</b>	授業の種類 ( 講義・ <b>演習</b> ・実習 )	授業担当者 <b>菅野 陽子</b>	
配当年次・時期 <b>1年次・後期</b>	単位数 <b>1単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	<b>保育士必修</b>
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b>          こどもの心身の発達を、生活と遊びを通して学ぶこどもの経験や学習の過程から理解する。そして、どのように保育を進めていけばよいのか、心理学的な原則を保育場面における実際に照らしあわせていくことが授業の目的であり、さらには、保育における発達援助についての学びをねらいとする。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b>          保育実践においてはこどもの心身の発達にかかわる心理学的理解が不可欠であることを知ると同時に、心理学的理解をいかに具体的な保育実践に生かしていくか考える。生活や遊びを通して学ぶこどもの経験や学習の過程を理解し、それぞれの過程、場面における発達援助のあり方について学ぶ。</p>			
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b>          コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「しなやかな」こころとからだ</li> <li>2. こどものストレス</li> <li>3. こどもの葛藤</li> <li>4. 仲間と集団</li> <li>5. こころの理論</li> <li>6. こどもの自我</li> <li>7. もののしくみ</li> <li>8. 自然環境とふれあう</li> <li>9. こどもの数理解と保育</li> <li>10. 遊びとコミュニケーション</li> <li>11. やりとりと学び</li> <li>12. 遊びと概念獲得</li> <li>13. 「生きる力」の基礎</li> <li>14. 発達の課題に応じた援助</li> <li>15. 就学へのつなぎ</li> </ol> <p>試験</p>			
<p><b>[準備学習]</b>          授業で行う範囲を、必ず読んでくる。よく理解できない箇所をチェックしておくこと。用語調べ。</p>			
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b>          テキスト：無藤 隆・清水益治 編著「保育心理学」          新保育ライブラリ 子どもを知る 北大路書店          参考文献：適宜配布する。          鯨岡 峻・鯨岡和子 著「よくわかる保育心理学」          ミネルヴァ書房 他</p>		<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b>          期末試験：60%          授業態度：40%（出席含む）</p>	

<b>授業のタイトル (科目名)</b> <b>教育心理学</b>	<b>授業の種類</b> <b>(講義・演習・実習)</b>	<b>授業担当者</b> <b>藤井 和枝</b>	
<b>配当年次・時期</b> <b>2, 3, 4 年次・後期</b>	<b>単位数</b> <b>2 単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>	<b>保育士選択</b> <b>幼稚園教諭選択</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>  幼児期から児童期の子どもに焦点を当て、保育や教育を通して、学ぶこと、学ぶことへの動機付け、条件付けと学習、記憶のメカニズムと記憶の発達、知能観、知能を規定する要因と知的機能の測定方法、集団における人間関係、評価について、心理学的側面から基礎的な理論を理解する。さらに、障害のある幼児、児童、生徒の心身の発達と学習過程について理解し、特に、記憶、学習、知能、動機付けについては障害児の発達とその特性を知る。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>  保育所、幼稚園、小中学校で学ぶ幼児、児童の発達と学習および教育評価について、心理学的側面から基本的知識を習得し理解を深める。子どもの発達と子どもが学ぶこと、学ぶことへの動機づけ、条件付けと学習、記憶のメカニズムと記憶の発達、知能観、知能を規定する要因と知能の測定、集団の中で子ども同士の関係、保育者や教師の子ども理解や評価と子どもの発達や行動との相互関係、保育や教育における評価について、心理学的側面から基礎的な理論を学習する。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>  <b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>子ども理解のために教育心理学の果たす役割など、科目内容の意義を理解する。</li> <li>記憶のメカニズム、短期記憶と長期記憶、リハーサルとの関係について、日常経験や心理実験から理解する。</li> <li>乳幼児期からの記憶の発達と知的障害児、自閉症児の記憶の発達と特性について理解する。</li> <li>古典的条件づけと道具的条件づけによる学習の理論について心理実験から理解する。</li> <li>道具的条件付けの障害のある幼児・児童・生徒に対する治療的かわりへの応用について理解する。</li> <li>社会的学習理論とその応用について、日常経験や心理実験から理解する。</li> <li>知能観についての諸説、知的機能の発達、知的障害児の知能の発達について理解する。</li> <li>知的機能の測定に関する理論と方法について、個別式知能検査から理解する。</li> <li>知的機能の変動要因、遺伝と環境が知能におよぼす影響について理解する。</li> <li>学習に対する達成動機、期待と価値、学習意欲等について理解する。</li> <li>学習における内発的動機付けと外的報酬との関係について理解する。</li> <li>障害のある幼児・児童・生徒の心身の発達と学習過程について理解する。</li> <li>クラス集団の子ども同士の関係、教師の役割、教師と子どもの関係について理解する。</li> <li>教育における評価の意義と目的、評価基準と方法について理解する。</li> <li>まとめ</li> </ol> <p>試験</p>			
<p><b>【準備学習】</b>  毎回の授業で次回の学習内容とテキストの箇所を示すので、前もってテキストを読んでおく。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>  (テキスト)  鎌原雅彦・竹網誠一郎著  『やさしい教育心理学改訂版』有斐閣 2005</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>  テスト(中間・期末) 70%  平常点(出席状況、授業態度) 30%</p>	

授業のタイトル (科目名) <b>家族の心理学</b>	授業の種類 ( <b>講義</b> )・演習・実習 )	授業担当者 <b>菅野 陽子</b>	
配当年次・時期 <b>2, 3, 4 年次・前期</b>	単位数 <b>2 単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	<b>保育士選択</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          親子・同胞などの家族関係、結婚や離婚に関する心理—社会的な事象、家族の形成・発達・崩壊などの家族プロセスを学び、今日のわが国の家族問題について受講生が主体的に学ぶことを目的とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          まず、「家族とは何か」を考える。次に家族の起源、進化・発達というものを歴史や異文化社会から見渡す。          そして、恋愛と配偶者の選択、結婚生活と夫婦関係、親子の関係といった家族の諸相を日本のみならず諸外国のデータと比較しながら、わが国の家族問題を学ぶ。最後に受講生各自の家族に対する価値観や幸福度の再考を促す。テキスト中心の講義ではあるが、ディベート式ロールプレイを用いるなど、参加型の体験学習を多く取り入れていく。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>          コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション (家族心理学で学ぶこと)</li> <li>2. 家族とは? (「家族」とは誰か、家族の定義、家族の機能)</li> <li>3. 歴史と異文化・社会にみる家族</li> <li>4. 人間家族の進化 (社会変動と家族、社会変化と個人の発達)</li> <li>5. 結婚の態度と行動 (結婚についての意見、結婚の実態、晩婚化の要因)</li> <li>6. 恋愛と配偶者選択 (結婚の形態、配偶者選択のプロセス)</li> <li>7. 結婚生活と夫婦関係 (夫婦関係のコミュニケーション、「非法律関係」、離婚)</li> <li>8. 親子の関係(1) (1. ヒトの発達の特殊性—親子関係や子育ての文化)</li> <li>9. 親子の関係(2) (親の発達—育児・こどもをめぐる葛藤)</li> <li>10. 親子の関係(3) (父親と母親—心理学における父親不在と父親発見)</li> <li>11. 親子の関係(4) (親にとってのこども、こどもの価値)</li> <li>12. 家族関係と闘病(1) (HIV 感染患者と家族、そしてその背景システム)</li> <li>13. 家族関係と闘病(2) (ガンの末期患者に対する心理的サポートやホスピス)</li> <li>14. 家族とは? 家族に対する価値観や幸福度の再考</li> <li>15. まとめ (授業の振り返り)</li> </ol> <p>試験</p>			
<p><b>【準備学習】</b>          次の講義内容にそってテキストを事前に読んでくる。キーワードを調べるなど課題を出す。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          テキスト：          柏木恵子著「家族心理学」東京大学出版会          参考文献：          適宜、資料を配布          その他、映像 (DVD)、マンガ、新聞記事など</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          (試験やレポートの評価基準など)          平常点(授業態度、提出物、出席含む)：30%          試験：70%</p>	

<b>授業のタイトル (科目名)</b> <b>こどもの心理療法</b>	<b>授業の種類</b> <b>(講義・演習・実習)</b>	<b>授業担当者</b> <b>檀田 紋子</b>							
<b>配当年次・時期</b> <b>3, 4 年次・後期</b>	<b>単位数</b> <b>2 単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>							
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          こどもと接する保育者として、日々のこどもの成長・変化を的確に感受し、こども自身のもつ潜在的な成長力を最大限に活性化できることが望まれる。こどもの内的表現を汲みとり、促進的に働きかけることができるためには、心理療法におけるこどもとセラピストとの治療的援助関係に学ぶものが多い。本授業を通してこどもの心の問題に関わる援助者としての基本的な態度と技法を身につけることをめざすものである。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          乳幼児の生活は遊びそのものであり遊びを通して、こどもは自己を表現し、人と関わり、学習体験をかさね、個性を形成する。したがって保育者はこどもの全人格に接するためには遊びを共にし、こどもの表出するさまざまな行動から、こどもの内的世界を深く理解することができる資質・技能が欠かせない。本講では、幼児の心理療法の技法としてわが国で最も認知されている子ども中心療法の立場から、「遊び」を媒体として展開するこどもの心理療法の理論と技法について臨床事例を多くとりあげながら実践的に学んでいく。</p>									
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>  <b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. こどものための心理療法</li> <li>2. こどもの臨床的理解—問題の「行動の意味」を理解する</li> <li>3. こどもの心と出会う—初回面接・ラポールの形成</li> <li>4. 様々な心理的援助技法(1) 精神分析的な心理療法</li> <li>5. 様々な心理的援助技法(2) ユング派の心理療法</li> <li>6. 様々な心理的援助技法(3) ロジャース派の心理療法</li> <li>7. その他の心理援助技法</li> <li>8. こどもの心理テストと心理アセスメント</li> <li>9. 臨床事例を通じたこども理解(1)           <ul style="list-style-type: none"> <li>* 発達段階に生じやすい「こどもの問題」をとりあげ、心理療法の過程におけるこどもとセラピストの関係のあり方や情緒的相互作用に着目する。</li> <li>* 遊戯療法や箱庭療法、描画療法などの技法についての解説も併せて行なう。</li> </ul> </li> <li>10. 臨床事例を通じたこども理解(2)</li> <li>11. 臨床事例を通じたこども理解(3)</li> <li>12. 臨床事例を通じたこども理解(4)</li> <li>13. 臨床事例を通じたこども理解(5)</li> <li>14. 心理療法の可能性と限界</li> <li>15. 保育者・援助者としての自己理解</li> </ol> <p>筆記試験</p>									
<p><b>【準備学習】</b>          授業の前提として、各テーマにそった臨床事例やミニレポート課題等を提示するので、関連する文献・資料を調べて、授業では新たな気づきや問題を発見し自らの学びを深めてほしい。</p>									
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          必要により随時、資料を配布</p> <p>(参考文献)          アクスライン.V.M 小林治夫訳『遊戯療法』          岩崎書店</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          (試験やレポートの評価基準など)</p> <table border="0"> <tr> <td>筆記試験</td> <td>60%</td> </tr> <tr> <td>授業課題への取り組み方</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>提出物</td> <td>10%</td> </tr> </table>			筆記試験	60%	授業課題への取り組み方	30%	提出物	10%
筆記試験	60%								
授業課題への取り組み方	30%								
提出物	10%								

授業のタイトル (科目名) <b>保育カウンセリング</b>	授業の種類 ( 講義・ <b>演習</b> ・実習 )	授業担当者 <b>藤井 和枝</b>							
配当年次・時期 <b>3, 4 年次・前期</b>	単位数 <b>1 単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	<b>保育士選択 幼稚園教諭必修</b>						
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b>          幼稚園や保育所において、発達遅滞や発達障害のある子ども、障害とは言えないが気になる子どもやかかわりの難しい子ども、虐待の疑われる子どもなど、特別な配慮や支援を必要とする子どもの理解とその対応について、事例を通して、基礎的な知識を理解する。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b>          幼稚園や保育所において、発達遅滞や発達障害のある子どもとそのリスクのある子ども、障害とは言えないが気になる子どもやかかわりの難しい子ども、虐待の疑われる子どもなど、特別な配慮を要する子どもに対する保育者の関わりと保護者への対応について、臨床心理学的な視点から学習する。特別な配慮を必要とする子どもの事例を通して、保育者としての基本的な心構えや保育者間のチームワーク、保護者対応で求められるカウンセリングマインド、外部の関連機関との連携の仕方などについても学習する。</p>									
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b>          コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼稚園や保育所において、特別な配慮や支援を必要とする子どもやその保護者に対して、教師や保育者にはその子どもと親を理解し、適切な対応が求められることを理解する。</li> <li>2. 発達遅滞児に対する発達援助や健常児との関係づくりについて理解する。</li> <li>3. 軽度発達障害児に対する対応、発達援助、他児との関係づくりについて理解する。</li> <li>4. 親から離れられない子どもの心理を理解し、その対応について学習する。</li> <li>5. 園でことばや音声が出ない子どもの心理について理解し、その対応について学習する。</li> <li>6. 集団生活への適応が難しい子どもの心理について理解し、その対応について学習する。</li> <li>7. 他児との関係作りが難しい子どもの心理について理解し、その対応について学習する。</li> <li>8. 癇癪を起こしたり、苛立つ子どもの心理について理解し、その対応について学習する。</li> <li>9. 自傷行為をする子どもの心理について理解し、その対応について学習する。</li> <li>10. 他児に手を出すなど困る行動をする子どもの心理について理解し、その対応を学習する。</li> <li>11. 特別な支援が必要な子どもの保護者の気持を理解し、その対応について学習する。</li> <li>12. 被虐待の疑われる子どもを発見する手掛かり、心理特性、対応の際の配慮事項を理解する。</li> <li>13. 子どもへの虐待が疑われる保護者を見出す手掛かり、対応の際の配慮事項を理解する。</li> <li>14. 虐待が疑われる事例に対応する際の園でのチームワークと関連機関との連携を理解する。</li> <li>15. 担当者があげる特別な配慮や支援を必要とする子どもの事例について、履修者がその対応等をまとめる。</li> </ol> <p>試験</p>									
<p><b>[準備学習]</b>          授業時に次回の学習内容と関連する文献等を示すので、予習しておく。</p>									
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b>          (テキスト)          青木久子他著『子ども理解とカウンセリングマインド』          萌文書林、2001          (参考文献)          現代と保育編集部編『保育こんなときどうする!? 3.          人のかかわりで「気になる」子』ひとなる書房 1999</p>	<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b>          (試験やレポートの評価基準など)</p> <table border="0"> <tr> <td>試験</td> <td>60%</td> </tr> <tr> <td>平常点(出席状況、授業態度)</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>課題への取り組み</td> <td>25%</td> </tr> </table>			試験	60%	平常点(出席状況、授業態度)	15%	課題への取り組み	25%
試験	60%								
平常点(出席状況、授業態度)	15%								
課題への取り組み	25%								

授業のタイトル (科目名) <b>子育てと父親</b>	授業の種類 ( <b>講義</b> )・演習・実習 )	授業担当者 <b>伊志嶺美津子</b>	
配当年次・時期 <b>3, 4 年次・後期</b>	単位数 <b>2 単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          子育てに携わるのは圧倒的に母親、というのが現状である。父親が子育てにかかわるには、社会的・物理的・精神的にもさまざまな困難が伴う。子育て自体が困難で少子化という課題をかかえた状況で、父親の子育ては社会的要請でもある。現代の子育ての状況を学び、両親ともに安心して子育てのできる環境を作るために必要で、役立つ実践に繋げる姿勢を育成したい。実際の子育て家庭との接触、赤ちゃんとの出会いなども体験しながら、課題を考え、将来のよき保育者、親になっていく姿勢を醸成することを目標とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          現代の子育ての実態と子どものいる家族を理解し、親の立場や子どもを育てる視点をもって考えていく。赤ちゃんとのふれあいの機会を持ち、命、親子や家族、育てるということ、そして育てられた自分自身についても考える機会とする。母親・父親になるとはどういうことか、母親について、父親についてその現代的役割を考え、実際の子育て家族からも聞き取りをして学ぶ。妊娠の疑似体験、育児書の検討、父親の育児、母親の就労など、子育てに関する課題を検討し、そのあり方を考えていく。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>          コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代の子育てと父親の位置</li> <li>2. かつての父親と現在の父親 自分たちの周辺から考える</li> <li>3. 父親の子育ての現状 聞き取りや観察を持ちよって考える</li> <li>4. 赤ちゃんから学ぶ 1 妊娠の疑似体験 父親になることとは</li> <li>5. 赤ちゃんから学ぶ 2 父親から学ぶ</li> <li>6. 赤ちゃんから学ぶ 3 育児と父親の役割について考える</li> <li>7. 父親の存在 父親の意義</li> <li>8. 海外の父親のための育児支援策</li> <li>9. 父親の子どもとのかかわり</li> <li>10. 両親のチームワーク・離婚</li> <li>11. 父親・母親の働き方 企業における育児支援</li> <li>12. 子育て支援における父親 1 父親参加の現状</li> <li>13. 子育て支援における父親 2 子どもとの遊び</li> <li>14. 子育て支援における父親 3 父親支援のためのプログラム</li> <li>15. 父親支援プログラムを作成する</li> </ol> <p>レポート提出</p>			
<p><b>【準備学習】</b>          今回の予定テーマを予告するので、そのテーマについて、テキスト等の内容を予習すること。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          (テキスト)          子ども家庭リソースセンター編・発行          『育児するお父さん』          (参考文献)          伊志嶺美津子編向田久美子訳『父親』ドメス出版</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          (試験やレポートの評価基準など)          受講態度およびグループへの参加態度 (10%)、          中間レポート (20%)、レポート (70%) 総合評価</p>		

<b>授業のタイトル (科目名)</b> <b>コミュニティの心理学</b>	<b>授業の種類</b> <b>(講義・演習・実習)</b>	<b>授業担当者</b> <b>柴田 崇浩</b>	
<b>配当年次・時期</b> <b>2, 3, 4 年次・後期</b>	<b>単位数</b> <b>2 単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>	
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b>  臨床心理学的地域援助の定義・理念・独自性・方法について包括的に学習し、臨床心理学的地域援助を  実践するために必要なコミュニティ心理学的発想の獲得を目指す。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b>  コミュニティ心理学は人と環境の適合を目標とする実践的な学問である。人は場面や状況に影響を与え、  逆に、状況は人に影響を与えるという社会的相互作用の視点は重要である。コミュニティ心理学は、個人  が環境に適応することだけでなく、個人を取り巻く環境が個人に適合するように両者に働きかけを行うこ  とで、心理社会的問題の解決を目指す。本講義では、コミュニティ心理学の定義、歴史、理論と展開につ  いて概論的な解説を行い、臨床心理学的地域援助について実践的に学習する。</p>			
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b>  <b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会と心の問題：コミュニティ心理学の視座</li> <li>2. コミュニティ心理学とは：定義・理念・独自性</li> <li>3. コミュニティ心理学の歴史・理論的背景</li> <li>4. コミュニティ心理学の基本発想Ⅰ：伝統的心理臨床モデルとコミュニティ・モデル</li> <li>5. コミュニティ心理学の基本発想Ⅱ：サービス提供のあり方／地域臨床の活動方針</li> <li>6. コミュニティ心理学の実践領域</li> <li>7. 臨床心理学的地域援助の方法Ⅰ～予防的介入の方法</li> <li>8. 臨床心理学的地域援助の方法Ⅱ～危機理論と危機介入・その1</li> <li>9. 臨床心理学的地域援助の方法Ⅲ～危機理論と危機介入・その2</li> <li>10. 臨床心理学的地域援助の方法Ⅳ～コンサルテーション・その1</li> <li>11. 臨床心理学的地域援助の方法Ⅴ～コンサルテーション・その2</li> <li>12. 臨床心理学的地域援助の方法Ⅵ～サポートネットワーク／ 非専門家との連携・協働</li> <li>13. さまざまな領域におけるコミュニティ心理学的アプローチの実際①</li> <li>14. さまざまな領域におけるコミュニティ心理学的アプローチの実際②</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>筆記試験</p>			
<p><b>[準備学習]</b>  参考文献及び新聞を用いて、子ども・保育者、家族の心理社会的な諸問題について調べる。</p>			
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b>  (テキスト) 授業内でプリント配布  (参考文献)  植村勝彦ら「よくわかるコミュニティ心理学」  ミネルヴァ書房 2006  山本和郎「コミュニティ心理学―地域臨床の理論と実践」  東京大学出版会 1986  金沢吉展「臨床心理的コミュニティ援助論」誠信書房 2004</p>		<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b>  出席を含めた授業への取り組み：20%  授業内レポート・課題提出：30%  筆記試験：50%</p>	

こどもと  
家族の心理

# こども専門科目

## (子育てと教育の原理)

<b>授業のタイトル (科目名)</b> <b>保育原理</b>	<b>授業の種類</b> <b>(講義)・演習・実習</b>	<b>授業担当者</b> <b>藤井 和枝</b>	
<b>配当年次・時期</b> <b>1年次・前期</b>	<b>単位数</b> <b>2単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>必修</b>	<b>保育士必修</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          子どもの見方、保育の考え方、保育の思想・歴史など、保育に関する基礎知識を身につけることをめざす。具体的には、保育の専門性、保育観、子ども観、子ども理解、保育における環境の意味、保育内容・方法の原理や保育計画のあり方、保育の歴史と思想、保育の制度等を学習し、子どもと保育についての理解を深め、今日の『幼稚園教育要領』や『保育所保育指針』で基本とされている、乳幼児の特性に即した「子どもから出発する保育」を、自ら創造するための手だてを考える糸口をつかむことを目標とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          保育の基礎的な理論について学習する。保育の定義、保育の歴史や思想、保育の制度について学習する。さらに、幼稚園と保育所における養護と教育を一体化した保育のあり方、幼稚園と保育所の共通点と相違点など、保育に関する基本的な原理について学習する。さらに、乳児・幼児に対する保育の意義、子どもの発達を支える保育のあり方、保育内容と保育方法や保育の形態、子ども観・保育観と保育計画に基づいた具体的な指導計画について、基礎的な事項を学習する。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>  <b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「保育」とは何か(1) —保育の基本・定義—</li> <li>2. 「保育」とは何か(2) —幼稚園教育要領と保育所保育指針について—</li> <li>3. 保育のなかの子ども理解(1) —子どもを見る目・子どもの見る目—</li> <li>4. 保育のなかの子ども理解(2) —保育における環境・環境を通しての保育—</li> <li>5. 子どもが育つ「環境」の理解(1) —子どもの身近な環境—</li> <li>6. 子どもが育つ「環境」の理解(2) —保育における環境・環境を通しての保育—</li> <li>7. 保育内容・方法の原理(1)</li> <li>8. 保育内容・方法の原理(2)</li> <li>9. 保育の歴史と思想(1) —外国の保育の歴史と思想—</li> <li>10. 保育の歴史と思想(2) —わが国の保育の歴史と思想—</li> <li>11. わが国の保育の現状と課題 —わが国の保育制度の概要と今日的課題—</li> <li>12. 保育の計画と実践の原理(1)</li> <li>13. 保育の計画と実践の原理(2)</li> <li>14. 保育者に求められるもの —保育の専門性—</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>試験・レポート等</p>			
<p><b>【準備学習】</b>          毎回の授業で次回の学習内容とテキストの箇所を示すので、前もって学習しておく。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          森上史朗・大豆生田啓友編『よくわかる保育原理』          ミネルヴァ書房 2009          文科省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 2008          フレーベル館編『保育所保育指針解説書』          フレーベル館 2008</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          テスト 60%          小レポートなど提出物 20%          平常点(出席状況、授業態度) 20%</p>	

授業のタイトル (科目名) <b>教育原理</b>	授業の種類 ( <b>講義</b> )・演習・実習 )	授業担当者 <b>大西 公恵</b>	
配当年次・時期 <b>2年次・後期</b>	単位数 <b>2単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	<b>保育士必修 幼稚園教諭必修</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先人の教育理論を通して、人間にとって教育とは何か、教育の目的、教育制度、教育の内容や方法を学び、理解を深める。</li> <li>2. 現代の子どもを取りまく問題状況について、グループや全員で現代の転換期の教育問題、教育改革の導入による学校等の動向を検討し、それらについての理解ができると同時に、他の意見から触発され今後の教育の課題やあり方について、自ら考察を深めさせたい。</li> </ol> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b></p> <p>教育学の入門として、先人の教育思想から人間にとって教育とは何か、教育の目的、教育制度、教育内容や方法、子どもの発達等を学ぶ。また、転換期の現代の学校や子ども等を取りまく問題状況（文献や新聞の教育関係記事を使用）について、グループまたは個人で課題研究の検討を交え、現代の教育問題や教育改革の動向等を概観する。以上から教育の本質や制度、現代の教育の動向を認識させ、今後の教育はどうあるべきか考察できるようにしたい。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b></p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育の意義と課題：教育とは何か</li> <li>2. 子ども観の変遷：文化・人口・家族</li> <li>3. 子どもの発達と教育：発達と能力</li> <li>4. 教育思想の歴史1：ルソーからペスタロッチへ</li> <li>5. 教育思想の歴史2：フレーベル、エレン・ケイ、デューイ</li> <li>6. 日本の教育の歴史1：近代学校教育制度の創設</li> <li>7. 日本の教育の歴史2：大正期から昭和戦前期にかけて</li> <li>8. 日本の教育の歴史3：戦後教育改革と教育基本法、学校教育法</li> <li>9. 現代の子どもを取りまく問題状況1：様々な教育問題の整理（新聞記事の分析）、グループ討議</li> <li>10. 現代の子どもを取りまく問題状況2：教育言説の検討（様々なメディアで論じられる教育言説の分析）、グループ討議</li> <li>11. 現代の子どもを取りまく問題状況3：グループ発表、議論</li> <li>12. 現代の子どもを取りまく問題状況4：グループ発表、議論</li> <li>13. 日本の教育内容と方法1：新教育運動</li> <li>14. 日本の教育内容と方法2：学習指導要領</li> <li>15. 現代の教育改革、教育問題を考える視座</li> </ol> <p>試験</p>			
<p><b>【準備学習】</b></p> <p>新聞の教育関係記事に目を通して、現在どのようなテーマが取り上げられているか、またどのような議論がなされているかを把握するように努めること。また、講義に関する内容について参考文献や講義で提示する資料などを読み、質問したいこと、議論したいことを準備して講義に臨むこと。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b></p> <p>テキスト：使用しない</p> <p>参考文献：          田嶋一ほか著『やさしい教育原理〔新版〕』          有斐閣、2009.10          木村元ほか著『教育学をつかむ』有斐閣、2009.4          久富善之ほか編『図説教育の論点』旬報社、2010.12</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b></p> <p>平常点(出席状況・授業への取り組み)：30%</p> <p>レポート提出：30%</p> <p>期末試験：40%</p>	

<b>授業のタイトル (科目名)</b> <b>こどもの保健 I</b>	<b>授業の種類</b> (講義)・演習・実習	<b>授業担当者</b> <b>関山 達也・目澤 憲一</b>							
<b>配当年次・時期</b> <b>2年次・前期</b>	<b>単位数</b> <b>2単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>	<b>保育士必修</b>						
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          子ども自身が持っている発育発達する能力を保育士として援助できるようにする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          小児の心身の健全な育成、また、起こりやすい疾病、異常、傷害などについて理解を深め、保育を担当するものとして、その予防、取扱いの正しい方法について医学的知識を中心に習得する。乳幼児の発育・発達を理解し、現代の乳幼児の生活状況やその環境を知る。健康診査や保健指導、予防接種、マスクリーニングなどの母子保健システムを理解する。小児がかかりうる各種の病気の種類、その治療法や予防法を学ぶ。安全管理と安全教育による事故防止対策を習得する。また、主な小児保健統計を知る。</p>									
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>  <b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの特徴と小児保健 子どもの特徴である発育を神経系等より理解する</li> <li>2. 身体発育の正常と異常 発育値の評価と共に病的な場合を学ぶ</li> <li>3. 乳幼児の発達 運動発達、精神発達、情緒・社会性の発達</li> <li>4. 子どもの生活と環境 健康増進と疾病予防のための乳幼児の生活</li> <li>5. 小児栄養の特徴 母乳栄養などの小児栄養の重要性を知る</li> <li>6. 母子保健システム 乳幼児健康調査、予防接種などを学ぶ</li> <li>7. 発達障害 統合保育、また個別の疾患について学ぶ</li> <li>8. 小児の心身医学 心身症、不登校、いじめなどについて学ぶ</li> <li>9. 子どもに多い症状の考え方 ささまざまな疾患の症状を理解し、対処方法を学ぶ</li> <li>10. 先天異常 原因と予防、遺伝子異常、染色体異常を学ぶ</li> <li>11. 感染症 感染症予防、また個別の感染症について学ぶ</li> <li>12. アレルギー疾患 気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーなど</li> <li>13. 慢性疾患 慢性疾患児の保育上の注意点を理解する</li> <li>14. 生活習慣病の予防 子ども時代からの予防の大切さを理解する</li> <li>15. 不慮の事故と安全教育 事故防止のための安全管理と安全教育</li> </ol> <p>試験・レポート等</p>									
<p><b>【準備学習】</b>          今回の授業内容をシラバスで確認し、該当する部分を教科書等で確認しておく。</p>									
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          加藤忠明、岩田力編著          『図表で学ぶ小児保健』建帛社</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          (試験やレポートの評価基準など)</p> <table border="0"> <tr> <td>試験</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>平常点(出席・授業態度)</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>提出物</td> <td>10%</td> </tr> </table>			試験	80%	平常点(出席・授業態度)	10%	提出物	10%
試験	80%								
平常点(出席・授業態度)	10%								
提出物	10%								

授業のタイトル (科目名) <b>こどもの保健Ⅱ</b>	授業の種類 ( <b>講義</b> )・演習・実習)	授業担当者 <b>林 文子</b>	
配当年次・時期 <b>2年次・後期</b>	単位数 <b>2単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	<b>保育士必修</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          子どもの心身の健康維持・増進を図る保健活動の意義、また、子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する。子どもの成長発達、子どもの事故防止、母子保健対策について学修する。子どもの健康上のニーズや問題点を把握し、保育に必要な保健指導、保育における安全管理について理解する。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          「こどもの保健Ⅰ」で習得した知識を基に、子どもの心身の発達を促すために必要な保健活動や環境について学ぶ。また、疾病や事故とその予防に対する適切な対応や、家庭・地域、他職種との連携の必要性も含めて学ぶ。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>          コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの健康と保健</li> <li>2. 子どもの成長・発達・発育</li> <li>3. 生理機能の発達</li> <li>4. 運動機能・精神機能の発達</li> <li>5. 子どもの成長発達の評価</li> <li>6. 子どもの健康状態の把握</li> <li>7. 子どもの疾病予防と適切な対応</li> <li>8. 子どもの病気と保育</li> <li>9. 子どもの生活環境と精神保健</li> <li>10. 子どもの心の健康</li> <li>11. 保育環境整備と保健</li> <li>12. 保育現場における事故防止及び安全対策</li> <li>13. 保育の現場における衛生管理</li> <li>14. 母子保健対策と保育</li> <li>15. 家庭・地域・専門機関との連携</li> </ol> <p>試験・レポート</p>			
<p><b>【準備学習】</b>          レジメ・配布資料はファイルに整理して、授業に持参する。          テキストは、毎回、授業に持参する。          課題レポートは、授業で発表する。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          テキスト：          巷野悟郎他編著『子どもの保健』同文書院 2011          参考文献：          『小児看護学』医学書院 2011          平山宗宏編『小児保健』日本小児医事出版 2011          市江和子編『小児看護学』オーム社出版局 2011</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          (試験やレポートの評価基準など)          出席を含めた授業への取り組み：10%          レポート：10%          期末試験：80%</p>	

<b>授業のタイトル（科目名）</b> <b>こどもの保健演習</b>	<b>授業の種類</b> <b>（ 講義・演習・実習 ）</b>	<b>授業担当者</b> <b>林 文子</b>	
<b>配当年次・時期</b> <b>3年次・前期</b>	<b>単位数</b> <b>1 単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>	<b>保育士必修</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画及び評価、子どもの健康増進及び適切な対応について、また、救急時の対応や事故防止・安全管理について具体的に学ぶ。現代社会における心の問題や地域保健活動等について考える。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          子どもの健康や安全に係る保健活動の計画・評価に、緊急時の対応や事故防止、安全管理について具体的に学ぶ。また、現代社会における心の問題や地域保健活動について学習を深める。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>  <b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健活動の計画及び評価</li> <li>2. 子どもの保健に係る健康と安全・衛生管理</li> <li>3. 子どもの保健における養護と教育</li> <li>4. 子どもの健康増進と保育の環境</li> <li>5. 子どもの生活習慣と心身の健康</li> <li>6. 子どもの発達援助と保健活動</li> <li>7. 体調不良や傷害が発生した場合の対応</li> <li>8. 感染症予防と対策</li> <li>9. 個別的な配慮を必要とする子どもへの対応</li> <li>10. 事故防止及び安全管理</li> <li>11. 保育における健康管理・健康教育</li> <li>12. 保育における看護と応急処置</li> <li>13. 災害への備えと危機管理</li> <li>14. 子どもの養育環境と心の健康問題</li> <li>15. 心とからだの健康づくりと地域保健活動</li> </ol> <p>レポート・試験</p>			
<p><b>【準備学習】</b>          動きやすい服装で出席する。          配布資料はファイルに整理して授業に持参する。          事前に提示するレポート・演習計画は、授業に持参する。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          テキスト：          兼松百合子他編著『小児保健実習』同文書院 2011          参考文献：          氏家幸子監修『小児看護技術』廣川書店 2011          鯉坂二夫『小児保健実習』保育出版社 2011          山元恵子監修『小児看護技術』インターメディカ 2010</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          （試験やレポートの評価基準など）          出席を含めた授業への取り組み：10%          レポート：30%          期末試験：60%</p>		

<b>授業のタイトル (科目名)</b> <b>こどもの食と栄養</b>	<b>授業の種類</b> <b>( 講義・演習・実習 )</b>	<b>授業担当者</b> <b>小川 朋子</b>	
<b>配当年次・時期</b> <b>2年次・前期</b>	<b>単位数</b> <b>2単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>	<b>保育士必修</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>  これからの保育士には、園児の身近な存在として、子どもに「食べること」を通して望ましい食生活を教えるばかりでなく、食を通じた保護者への支援や地域との連携も期待されています。いつ、誰と、どう食べるかを考え、子どもが楽しく安心して食事ができ、心身ともに健やかに成長できるように、子ども(特別な配慮を要する子どもを含む)の食生活や栄養に関する基礎的知識の習得を目的とします。</p> <p><b>【授業全体の内容と概要】</b>  小児期の各発育・発達の特徴と、それに対応する栄養と食生活について基礎的知識を理解します。家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題を、食育の必要性和関連して学びます。また、特別な配慮を必要とする子どもへの理解と対応をも含みます。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>  <b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの健康と食生活の意義</li> <li>2. 子どもの食生活と現状</li> <li>3. 栄養に関する基礎的知識① 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能</li> <li>4. 栄養に関する基礎的知識② 食事摂取基準と献立作成・食事バランスガイド</li> <li>5. 栄養に関する基礎的知識③ 食品衛生と食品の表示制度</li> <li>6. 栄養に関する基礎的知識④ 食べものの消化・吸収</li> <li>7. 子どもの発育・発達と食生活① 乳児期の授乳・離乳の意義と食生活</li> <li>8. 子どもの発育・発達と食生活② 離乳期の食生活と栄養</li> <li>9. 子どもの発育・発達と食生活③ 幼児期・学童期の食生活と栄養</li> <li>10. 子どもの発育・発達と食生活④ 思春期・成人期・妊娠期の食生活と栄養</li> <li>11. 食育の基本と内容① 食育基本法・食育における養護と教育の一体性</li> <li>12. 食育の基本と内容② 家庭・地域・職員との連携と保護者への支援</li> <li>13. 家庭や児童施設における食事と栄養</li> <li>14. 特別な配慮を要する子どもへの対応① 食物アレルギー・体調不良などへの対応</li> <li>15. 特別な配慮を要する子どもへの対応② 障害のある子どもへの対応</li> </ol> <p>試験</p>			
<p><b>【準備学習】</b>  講義のはじめには、復習をかね10問の小テストを実施します。課題は提出日に遅れないように準備してください。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>  (テキスト)  「発育期の子どもの食生活と栄養」学研書院  (参考文献)  「乳児期の食行動と食支援」医歯薬出版  「やさしい栄養学」女子栄養大学出版</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>  期末テスト：60%  小テスト：30%  平常点(出席状況・授業態度)：10%</p>	

**子育てと  
教育の原理**

<b>授業のタイトル（科目名）</b> <b>こどもの食と調理</b>	<b>授業の種類</b> <b>（ 講義・演習・実習 ）</b>	<b>授業担当者</b> <b>小川 朋子</b>	
<b>配当年次・時期</b> <b>3, 4 年次・後期</b>	<b>単位数</b> <b>1 単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>	<b>保育士選択</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>  「子どもの食と栄養」で修得した知識を基に、各発達段階・発育状況に相応した食事を実習します。調乳や調理（献立・盛付・配膳・食べ方・後片付けを含む）の実習を通して、子どもが楽しく安心して食べるような食支援ができるよう目指します。</p> <p><b>【授業全体の内容と概要】</b>  子どもの各発達段階の特徴と、それに相応する食生活の意義や栄養に関する基礎的知識を再確認します。安全・衛生に留意しながら、調乳・離乳食・幼児食・特別な配慮を要する食事を実習します。間食・弁当は調理保育への対応を念頭に実習します。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>  <b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生涯発達と食生活 食と栄養</li> <li>2. 栄養に関する基礎知識 食品衛生・食育推進を支える調理の基礎</li> <li>3. 乳汁期の栄養と食生活① 授乳期の食生活の特徴・調乳の準備</li> <li>4. 乳汁期の栄養と食生活② 調乳・調製粉乳の種類（実習）</li> <li>5. 離乳期の栄養と食生活① 離乳食の役割と与え方・ベビーフードの試食</li> <li>6. 離乳期の栄養と食生活② 離乳食（実習）</li> <li>7. 幼児期の栄養と食生活① 幼児食の献立作成</li> <li>8. 幼児期の栄養と食生活② お弁当（実習）</li> <li>9. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養</li> <li>10. 特別な配慮を要する子どもへの対応策① 卵や牛乳、小麦粉を使わない間食（実習）</li> <li>11. 特別な配慮を要する子どもへの対応策② 火を使わない料理（実習）</li> <li>12. 家庭の食事と栄養 特別な日の食事—行事食（実習）</li> <li>13. 児童福祉施設の食事と栄養 給食を通して食育を考える</li> <li>14. 食育の基本と内容 各自、「食育」に対する意見や考え方をまとめる</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>試験</p>			
<p><b>【準備学習】</b>  保育士として、調理時には身だしなみを整え、安全を心がける実習態度は学習の一環です。課題は提出日に遅れないように準備してください。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>  （テキスト）  「発育期の子どもの食生活と栄養」学研書院  （参考文献）  「じょうずに食べる・食べさせる」芽ばえ社  「保育所の給食を通して食育」学研書院</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>  期末テスト・レポート：70%  平常点（出席状況・授業態度）：30%</p>		

授業のタイトル (科目名) <b>保育内容総論</b>	授業の種類 ( 講義・ <b>演習</b> ・実習 )	授業担当者 <b>久富 陽子</b>	
配当年次・時期 <b>1年次・後期</b>	単位数 <b>2単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	<b>保育士必修 幼稚園教諭必修</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          幼稚園教育要領や保育所保育指針が示している保育の考え方や全体構造を理解し、保育の目標を達成するために必要な保育内容・保育者の指導・援助を理解する。また、保育内容の歴史的な変遷を踏まえ、現代の保育の課題を理解する。さらに子ども理解を深め、特別な支援を必要とする子どもへの保育や、連携、協働についても学ぶ。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          幼稚園教育要領や保育所保育指針に示されている、保育の目的、目標、ねらい、内容や領域の考え方について学び、子ども主体に根ざした保育の指導や援助を学ぶ。保育内容の歴史的変遷を理解することで保育内容と社会や時代との関係を知り、現代の保育課題についても学ぶ。さらに、保育の質や内容を高めていくために不可欠である子ども理解の大切さを理解し、さらに保護者や保育者同士の連携や協働、小学校との連携についても学ぶ。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>          コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本授業について 幼稚園教育要領、保育所保育指針</li> <li>2. 保育の基本、目的、目標の理解</li> <li>3. 保育における領域の考え方及び保育のねらい、内容についての理解</li> <li>4. 教育課程、保育課程と指導計画</li> <li>5. 子ども主体の保育、遊びを通しての総合的な指導・援助</li> <li>6. 園生活の流れと一人ひとりに即した保育内容</li> <li>7. 子ども理解と指導や援助の方法</li> <li>8. 保育内容の歴史的変遷① 明治～大正</li> <li>9. 保育内容の歴史的変遷② 昭和～平成</li> <li>10. 子どもを取り巻く社会情勢と現代の保育課題への理解</li> <li>11. 特別な支援を必要とする子どもの保育内容</li> <li>12. 家庭との連携と保育内容の展開</li> <li>13. 小学校の連携と保育内容の展開</li> <li>14. 学びあう保育者同士の協働</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>定期試験・レポート</p> <p style="text-align: right;">※テキストとして幼稚園教育要領を使用する。</p>			
<p><b>【準備学習】</b>          保育所保育指針・幼稚園教育要領、テキストを一読しておくこと。授業内で出された課題については、次の授業までに必ずやってくること。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          テキスト：幼稚園教育要領          保育所保育指針解説書          「保育内容総論」建帛社          参考書・参考資料等：未定</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          出席を含め授業への取り組み：20%          レポート(指導案作成)：30%          試験：50%</p>	

<b>授業のタイトル (科目名)</b> <b>保育内容 (人間関係)</b>	<b>授業の種類</b> <b>( 講義・<u>演習</u>・実習 )</b>	<b>授業担当者</b> <b>坪井 瞳</b>	
<b>配当年次・時期</b> <b>2年次・前期</b>	<b>単位数</b> <b>2単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>	<b>保育士必修</b> <b>幼稚園教諭必修</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          子どもは身近な人との温かな関係を通して、自立心をはぐくむと共に、多様な他者とのかかわっていく力を身に付けることを理解し、人とのかかわりの中で見られる子どもの育ちやその意味を学ぶ。また、子どもを取り巻いている現状について理解し、より豊かな人とのかかわりを育めるような保育者の援助や保育者のありかたについても学ぶ。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          人間関係は、乳幼児の育ちを捉える重要な視点の一つであるだけでなく、私たちにとってきわめて身近で関心の高い対象である。本演習では、参加者自身の人間関係に対する印象や考えから出発し、保育の対象となる各年齢の子どものおおよその姿や、気にかかる子どもへの援助、子どもの育ちに影響を与える大人同士の人間関係などについて学び、最後に再び参加者一人ひとりが自分の人間関係について、保育に携わるものとして向き合い直すというプロセスを踏む。レポートやグループディスカッションなどを通して、できるだけ学生自身の体験に基づいて考えることができるようにする。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>  <b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション：あなたにとっての人間関係を振り返る</li> <li>2. 私たちにとっての人間関係とは①：人間関係とは</li> <li>3. 私たちにとっての人間関係とは②：領域「人間関係」と保育</li> <li>4. 園生活の中での人間関係の育ち①：0歳児の人のかかわりと保育</li> <li>5. 園生活の中での人間関係の育ち②：1歳児の人のかかわりと保育</li> <li>6. 園生活の中での人間関係の育ち③：2歳児の人とかかわりと保育</li> <li>7. 園生活の中での人間関係の育ち④：3歳児の遊びと人間関係</li> <li>8. 園生活の中での人間関係の育ち⑤：4歳児の遊びと人間関係</li> <li>9. 園生活の中での人間関係の育ち⑥：5歳児の遊びと人間関係</li> <li>10. 園生活の中での人間関係の育ち⑦：気にかかる子どもへの援助</li> <li>11. 園生活の中での人間関係の育ち⑧：特別な支援を必要とする子どもへの援助</li> <li>12. 人間関係の育ちをはぐくむ環境①：育ちを支える保育者同士の人間関係</li> <li>13. 人間関係の育ちをはぐくむ環境②：育ちを支える保護者と保育者の人間関係</li> <li>14. 人間関係の育ちをはぐくむ環境③：育ちにかかわる「私たち」の人間関係</li> <li>15. まとめ：子どもとともに育っていきける保育者として</li> </ol> <p>試験・レポート等</p> <p style="text-align: right;">※テキストとして幼稚園教育要領を使用する。</p>			
<p><b>【準備学習】</b>          この演習の対象は子どもだけではありません。普段の私たち自身の人とかかわりを客観的に見つめ直す作業を日々行ってみてください。それを通じて、子どもたちの世界の人間関係に共感したり、興味深くまなざす視点が養われていくことと思います。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          (テキスト) 文部科学省「幼稚園教育要領」          厚生労働省「保育所保育指針」          文部科学省編『幼稚園教育要領解説』フレーベル館          厚生労働省編『保育所保育指針解説書』フレーベル館          田代和美・松村正幸 2009『演習 保育内容 人間関係』建帛社          (参考文献) 守永英子・保育を考える会 2001『保育の中の小さなこと・大切なこと』フレーベル館</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          出欠状況・講義への参加度：20%          各回終了時のレスポンスカード提出状況：10%          試験・レポート：70% (形式については未定、講義内で指示する)</p>		

<b>授業のタイトル (科目名)</b> <b>保育内容(環境)</b>	<b>授業の種類</b> <b>( 講義・演習・実習 )</b>	<b>授業担当者</b> <b>朝田 剛史</b>	
<b>配当年次・時期</b> <b>2年次・前期</b>	<b>単位数</b> <b>2単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>	<b>保育士必修</b> <b>幼稚園教諭必修</b>
<p><b>【授業科目の目的・ねらい】</b>  人間形成の基礎を築く幼児期において幼児がかかわる環境の意義を学ぶ。幼児が自ら周囲に関わりながら発達に必要な経験を獲得しようとする心情や、意欲や、態度を育む環境について学ぶ。さらに保育における環境への配慮や援助の在り方について学ぶ。幼児の活動を支え一人ひとりの望ましい発達を促す為の環境構成を考察する。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>  ・ 幼児が遊びを通して主体的に活動しながら、様々な力が育つ望ましい保育や環境構成の在り方の理解を深める為に保育の現場における具体的な幼児の活動事例を取り上げながら学習する。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>  <b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育の基本と保育内容 授業方針の説明等</li> <li>2. 保育内容の仕組みと幼稚園教育要領・保育所保育指針</li> <li>3. 領域「環境」の特徴と他の領域との関係</li> <li>4. 子どもの育ちと領域「環境」</li> <li>5. 自然を生かした環境(1) (自然・季節)</li> <li>6. 自然を生かした環境(2) (植物・生き物)</li> <li>7. 物や道具にかかわって遊ぶ環境(1) (道具・身近な物)</li> <li>8. 物や道具にかかわって遊ぶ環境(2) (物の性質・公共心)</li> <li>9. 文字や標識に親しみ触れる環境(1) (文字と数・標識)</li> <li>10. 文字や標識に親しみ触れる環境(2) (量・図形)</li> <li>11. 遊びや生活の情報に興味をもつ(1) (身近な情報と遊び)</li> <li>12. 遊びや生活の情報に興味をもつ(2) (遊びと日本の文化)</li> <li>13. 子どもと環境のかかわりをとらえる視点</li> <li>14. 現代社会における子どもと環境・幼児教育の現代的課題</li> <li>15. テキストの補足とまとめ</li> </ol> <p>試験</p> <p style="text-align: right;">※テキストとして幼稚園教育要領を使用する。</p>			
<p><b>【準備学習】</b>  自分の周囲にある自然をよく観察し、自然の変化に敏感になること。  環境に対する子どもの興味、関心がどのような点にあるのかを考えてみること。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>  無藤隆監修 福元真由美編者代表『事例で学ぶ保育内容 領域 環境』萌文書林  『幼稚園教育要領』フレーベル館  『幼稚園教育要領解説・保育所保育指針』フレーベル館  参考文献：その他参考書は随時紹介する。</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>  試験：40% 試験期間中に試験を実施  授業内レポート：20% 課題のまとめ等  授業態度：40% 出欠の状況や学習態度等</p>		

授業のタイトル (科目名) <b>保育内容(健康)</b>	授業の種類 ( 講義・ <b>演習</b> ・実習 )	授業担当者 <b>井狩 芳子</b>	
配当年次・時期 <b>1年次・後期</b>	単位数 <b>2単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	<b>保育士必修 幼稚園教諭必修</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          幼児の健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくりだす力を養う領域「健康」の意義・ねらい・内容および指導法を理解することを目標とする。健康にかかわる実態と発達を学び、生活習慣、食育、運動・遊び、安全、病気、保育者の役割などをテーマとする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          子どもの健康、実態と課題、領域「健康」を理解し、身体・運動、認知、情緒・社会性にかかわる発達を学ぶ。生活習慣、運動・遊び、食育にかかわる指導の展開、さらに安全、怪我・病気について学び、健康を指導する保育者の役割について考える。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>          コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康とは「子どもの健康」について</li> <li>2. 子どもの健康問題と課題</li> <li>3. 領域「健康」のねらいと内容</li> <li>4. 子どもの身体にかかわる発達</li> <li>5. 運動の発達と健康</li> <li>6. 認知・言葉の発達と健康</li> <li>7. 情緒・社会性の発達と健康</li> <li>8. 生活習慣の発達</li> <li>9. 生活習慣にかかわる指導の展開</li> <li>10. 運動・遊びの展開</li> <li>11. 食育の展開</li> <li>12. 安全指導と怪我</li> <li>13. 乳幼児の病気と留意点</li> <li>14. 保育者の役割</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>定期試験</p> <p style="text-align: center;">※テキストとして保育所保育指針と幼稚園教育要領を使用する。</p>			
<p><b>【準備学習】</b>          シラバスの次回の内容を教科書などで確認しておくこと</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          池田裕恵・高野陽編著『子どもの元気を育む保育内容研究』不昧堂出版          『保育所保育指針解説書』チャイルド本社          『幼稚園教育要領』チャイルド本社</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          出席・受講態度：20%          中間レポート：20%          試験：60%</p>	

授業のタイトル(科目名) <b>保育内容(ことば)</b>	授業の種類 ( 講義・ <b>演習</b> ・実習 )	授業担当者 <b>久富 陽子</b>	
配当年次・時期 <b>1年次・後期</b>	単位数 <b>2単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	<b>保育士必修 幼稚園教諭必修</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          幼稚園教育要領が示す領域「言葉」のねらい及び内容を理解し、一人一人の子どもが豊かな言葉や話を聞く態度を身につけるための具体的な保育内容の援助の方法を学ぶ。また、遊びや生活、人とのかかわりの基礎となる言葉や児童文化財についても学ぶ。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          幼稚園教育要領が示す領域の考え方を理解した上で、領域「言葉」のねらい及び内容について理解する。また、言葉の発達の筋道を理解し、「話す力」「聞く力」が育つ保育者の指導や援助の方法、さらに、豊かな遊びや人とかかわる力や思考力などの土台となる言葉の育ちについて具体的な事例や視聴覚教材などを通して学ぶ。更に、豊かな想像性や言葉への感覚を養えるために必要となる児童文化財について学び、それらを具体的な指導に活かせる方法についても学ぶ。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>          コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本授業の目的と概要 保育内容における領域の考え方を学ぶ</li> <li>2. 領域「言葉」の意義とねらいと内容を学び、理解</li> <li>3. 子どもの発達と言葉の獲得について学ぶ</li> <li>4. 子どもの言葉の育ちを支える保育者の指導・援助 (信頼関係から生まれる言葉)</li> <li>5. 子どもの言葉の育ちを支える保育者の指導・援助 (自分の思いや考えを伝える)</li> <li>6. 言葉の育ちと子どもの関係性の広がり</li> <li>7. 言葉の育ちと子どもの思考力の深まり</li> <li>8. 遊びや生活の中に見られる子どもの言葉</li> <li>9. 遊びや生活の中で出会う記号や文字とのかかわり</li> <li>10. 児童文化財の魅力や基礎的理解</li> <li>11. 児童文化財の活用法</li> <li>12. 児童文化財の実践方法</li> <li>13. 豊かな想像性や思考力を育む児童文化財</li> <li>14. 言葉の獲得に問題を持つ子どもへの指導・援助</li> <li>15. まとめや振り返り</li> </ol> <p>定期試験・レポート</p> <p style="text-align: right;">※テキストとして幼稚園教育要領を使用する。</p>			
<p><b>【準備学習】</b>          テキスト等を一読しておくとともに、絵本、童話、紙芝居など多くの子ども向けの良書にふれておくこと。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          テキスト：          幼稚園教育要領解説 その他          「事例で学ぶ保育内容 領域言葉」萌文書林          「幼稚園教育要領」          参考書・参考資料等：未定</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          授業への取り組みや実技の発表：20%          絵本ノートの作成：30%          試験：50%</p>		

授業のタイトル (科目名) <b>保育内容(表現)</b>	授業の種類 ( 講義・ <b>演習</b> ・実習 )	授業担当者 <b>浅賀ひろみ</b>	
配当年次・時期 <b>2年次・前期</b>	単位数 <b>2単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	<b>保育士必修 幼稚園教諭必修</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          渾然一体となって現われる子どもの表現を総合的にとらえる視点を身につけ、子どもの表現する意欲・感性を育む保育者の関わり方や保育計画について理解する。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          生活や遊びの中で子どもが表現する姿を事例等から検討するとともに、子どもの表現の発達過程や特徴および領域「表現」に関する理論を学ぶ。また、子どもの表現に共感し、意欲や感性を育むための実技や基礎的な援助法、教材研究を取り入れる。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>          コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 領域「表現」の変遷と現在の取り組み</li> <li>2. 子どもの表現行動の特質および領域「表現」のねらいと内容</li> <li>3. ことばと歌 (子どもの表現行動に関するビデオ事例および実技)</li> <li>4. 音楽表現と身体表現 (ビデオ事例および実技)</li> <li>5. 音楽表現と造形表現 (ビデオ事例および実技)</li> <li>6. 子どもの表現にかかわる保育者の援助 ①事例の検討</li> <li>7. 子どもの表現にかかわる保育者の援助 ②保育計画の例</li> <li>8. 保育における表現活動の実践例①</li> <li>9. 保育における表現活動の実践例②</li> <li>10. 「表現」にかかわる指導計画</li> <li>11. グループ活動①発表に向けた表現実践の準備</li> <li>12. グループ活動②発表に向けた表現実践の準備</li> <li>13. グループ活動③発表に向けた表現実践の準備</li> <li>14. 表現実践の発表</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>定期試験</p> <p style="text-align: right;">※テキストとして幼稚園教育要領を使用する。</p>			
<p><b>【準備学習】</b>          本授業を受けるにあたり、なるべく幼児や幼児の生活にふれあう機会をもうけておくこと</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          『幼稚園教育要領』          『幼稚園教育要領解説』          『保育所保育指針解説書』          岡健・金澤妙子『演習保育内容 表現』建帛社          参考文献：大場牧夫「表現原論」萌文書林          岡本拓子「実習に役立つ表現遊び」北大路書房</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          出席状況および授業への取り組み：10%          表現に関する発表と討論：30%          定期試験：60%</p>		

授業のタイトル(科目名) <b>乳児保育</b>	授業の種類 ( 講義・ <b>演習</b> ・実習 )	授業担当者 <b>藤井 和枝</b>	
配当年次・時期 <b>2年次・前期</b>	単位数 <b>2単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	<b>保育士必修</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 主に保育所における3歳未満児の保育、加えて乳児院や児童養護施設における3歳未満児の保育について、その意義と役割、制度と現状を理解する。さらに、乳児保育の基本的知識を理解し、実践的な技能の基礎を学習する。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 主に保育所における3歳未満児の保育、加えて乳児院や児童養護施設における3歳未満児の保育について、その意義、制度と現状を理解する。さらに、乳児保育の基本的知識を理解し、実践的な技能の基礎を演習を通して学習する。保育所保育指針に沿って、6ヶ月未満児、6ヶ月から1歳3ヶ月未満児、1歳3ヶ月から2歳未満児、2歳児と発達段階ごとに子どもの発達と保育内容、保育計画と指導計画、環境構成、職員のチームワーク、保護者との連携と子育て支援等について基礎的理解を促す。さらに、産休明け保育について、子どもの発達の様子と保育の実際や配慮事項について基礎的理解を促す。</p> <p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b> コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所、乳児院、児童養護施設における3歳未満児に対する保育の概要を理解する。</li> <li>2. 乳児保育の制度的変遷と共働き家庭や一人親家庭における意義と役割について理解する。</li> <li>3. 産前産後の休業、育児休業等の法律、母親・父親の育休取得の現状について理解する。</li> <li>4. 産休明け、3カ月～9カ月児の発達と保育のポイントについて理解する。</li> <li>5. 10カ月～1歳3カ月、1歳3カ月～2歳未満、2歳児の発達と保育のポイントを理解する。</li> <li>6. 3歳未満児保育における課題と配慮事項について理解する。</li> <li>7. 新入園児の受け入れとその際の配慮事項について理解する。</li> <li>8. 乳児の人形を使って、おしめ交換の手順と乳児の抱き方等について演習する。</li> <li>9. 乳児における遊びの意義、遊びを充実・発展させる人的・物的環境について理解する。</li> <li>10. 乳児の発達段階に適した絵本・紙芝居について理解し、選定や読み聞かせを演習する。</li> <li>11. 3歳未満児の保育計画と指導計画について理解する。</li> <li>12. 3歳未満児保育の特性をふまえ、各自で指導計画を作成する。</li> <li>13. 乳児保育における保育記録の意義、記録の様式と記録の仕方について理解する。</li> <li>14. 乳児保育における保育所と保護者との連携の重要性と連携のあり方について理解する。</li> <li>15. 乳児保育における連絡帳の意義、記録の様式と記録の仕方について理解する。</li> </ol> <p>試験</p> <p><b>【準備学習】</b> 授業時に次の学習内容とテストの箇所を示すので前もって学習しておく。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b> (テキスト) 松本園子編著『改訂新・乳児の生活と保育』 ななみ書房、2009 参考図書：厚生労働省編『保育所保育指針解説書』 フレーベル館、2008</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> (試験やレポートの評価基準など) 試験 60% 平常点(出席状況、授業態度) 20% 課題への取り組み 20%</p>	

授業のタイトル (科目名) <b>障害児保育</b>	授業の種類 ( 講義・ <b>演習</b> ・実習 )	授業担当者 <b>藤井 和枝</b>							
配当年次・時期 <b>2年次・後期</b>	単位数 <b>2単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	<b>保育士必修 幼稚園教諭必修</b>						
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          障害観の歴史的な変遷と望ましい観方について基本的な理解を得る。各障害について、その障害の定義、診断基準、原因、発達特性と発達援助、早期発見と早期対応等について基礎的な知識を得る。さらに、幼稚園や保育所で健常児とともに育つ障害乳幼児に対する発達支援について、その考え方、支援の内容と方法などを理解する。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          障害をどう捉えるかという障害観の歴史的な変遷と望ましい観方について基本的な理解を促す。各障害について、その障害の定義や診断基準、原因、発達特性、早期発見と早期対応などについて基礎知識を学習する。就学前の障害乳幼児を取りまく状況について、各種通園施設や療育・発達支援センター、特殊教育諸学校の幼稚部など、障害児専門機関での受け入れとその対応、幼稚園や保育所での統合保育の状況について理解する。統合保育については、その意義と受け入れ態勢、発達支援の方法と保育における配慮事項などについて基礎的理解を促し、事例を通して具体的対応についても理解を促す。</p>									
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>          コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の概要と進め方について理解する。障害観の歴史的変遷と望ましい障害観を理解する。</li> <li>2. 知的障害について、その用語、定義、分類、原因について理解する。</li> <li>3. 知的障害をもつ子どもの発達特性と発達支援、早期発見と早期対応について理解する。</li> <li>4. 肢体不自由について、その用語、定義、分類、原因について理解する。</li> <li>5. 脳性麻痺の定義、原因、発達特性、発達支援について理解する。</li> <li>6. 重度・重複障害児、重症心身障害児の定義、発達特性、発達支援について理解する。</li> <li>7. 自閉症、軽度発達障害について、原因、診断基準、発達特性について理解する。</li> <li>8. 自閉症、軽度発達障害の早期発見と早期対応、発達支援について理解する。</li> <li>9. 視覚障害の定義、分類、原因、発達特性と発達支援、早期発見と対応について理解する。</li> <li>10. 聴覚障害の定義、分類、原因、発達特性と発達支援、早期発見と対応について理解する。</li> <li>11. 視覚障害児・聴覚障害児に対する発達支援について理解する。</li> <li>12. 言語障害、病弱・身体虚弱について、定義、分類、原因、発達特性と発達支援を理解する。</li> <li>13. 統合保育の意義、障害乳幼児の受け入れに当たっての条件整備や配慮事項を理解する。</li> <li>14. 統合保育を実施している幼稚園や保育所の事例から統合保育に関する理解を深める(1)。</li> <li>15. 統合保育を実施している幼稚園や保育所の事例から統合保育に関する理解を深める(2)。</li> </ol> <p>試験</p> <p style="text-align: right;">※テキストとして幼稚園教育要領を使用する。</p>									
<p><b>【準備学習】</b>          毎回の授業で次回の学習内容とテキストの箇所を示すので、前もってテキストを読んでおく。</p>									
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          福永博文・藤井和枝編著『障害をもつ子どもの理解と援助』コレール社 2009          『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 2008          「保育所保育指針解説書」フレーベル館 2008</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>提出物</td> <td style="text-align: right;">10%</td> </tr> <tr> <td>テスト</td> <td style="text-align: right;">60%</td> </tr> <tr> <td>平常点(出席状況、授業態度)</td> <td style="text-align: right;">30%</td> </tr> </table>			提出物	10%	テスト	60%	平常点(出席状況、授業態度)	30%
提出物	10%								
テスト	60%								
平常点(出席状況、授業態度)	30%								

<b>授業のタイトル (科目名)</b> <b>障害児保育演習</b>	<b>授業の種類</b> <b>( 講義・演習・実習 )</b>	<b>授業担当者</b> <b>藤井 和枝</b>							
<b>配当年次・時期</b> <b>3, 4 年次・前期</b>	<b>単位数</b> <b>1 単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>	<b>保育士選択</b> <b>幼稚園教諭選択</b>						
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b>          発達障害 (広汎性発達障害、ADHD、LD) の定義、診断基準、発達特性、早期発見と早期対応について基礎的な知識を得る。保育所や幼稚園での保育者による気づきと支援の実際について事例を通して学習する。保護者支援、専門機関や小学校との連携についても理解する。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b>          ・発達障害 (ADHD, LD, PDD) の定義、診断基準、発達特性、早期発見と早期対応について理解する。保育の場での指導の実際について、指導計画の作成、記録及び評価、職員間の協働と保護者支援を理解する。</p>									
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b>  <b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の目的、概要、評価について。発達障害についての考え方と対応の歴史的変遷</li> <li>2. 広汎性発達障害(高機能自閉症とアスペルガー障害)の定義、診断基準、原因、特性</li> <li>3. 広汎性発達障害の発達特性、</li> <li>4. 広汎性発達障害のある子どもの発達支援と保育の場での対応</li> <li>5. 注意欠陥多動性障害 (ADHD) の定義、診断基準、原因、特性</li> <li>6. ADHD のある子どもの発達特性</li> <li>7. ADHD のある子どもの発達支援と保育の場での対応</li> <li>8. LD の定義、診断基準、原因、特性</li> <li>9. LD のある子どもの発達特性</li> <li>10. LD のある子どもの発達支援と保育の場での対応</li> <li>11. 発達障害の早期発見と早期対応 (乳幼児健診と 5 歳児健診、集団生活の場での気づき)</li> <li>12. 発達障害児の保護者対応についての理解と保護者支援</li> <li>13. 保育の場での受け入れと支援計画の作成</li> <li>14. 小学校との連携</li> <li>15. 保育所・幼稚園と専門機関との連携</li> </ol> <p>定期試験</p>									
<p><b>[準備学習]</b>          毎回の授業で次回の学習内容とテキストの箇所を示すので、前もってテキストを読んでおく</p>									
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b>          (テキスト)          中田洋二郎著「軽度発達障害の理解と対応」          大月書店 2006          (参考文献)          全国 LD 親の会編「LD・ADHD・高機能自閉症とは？」LD 親の会発行</p>		<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b></p> <table border="0"> <tr> <td>平常点(出席状況、授業態度)</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>提出物</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>試験</td> <td>60%</td> </tr> </table>		平常点(出席状況、授業態度)	20%	提出物	20%	試験	60%
平常点(出席状況、授業態度)	20%								
提出物	20%								
試験	60%								

授業のタイトル (科目名) <b>保育方法の研究</b>	授業の種類 ( 講義・ <b>演習</b> ・実習 )	授業担当者 <b>久富 陽子</b>	
配当年次・時期 <b>3, 4 年次・前期</b>	単位数 <b>2 単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	<b>保育士選択 幼稚園教諭選択</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          教育課程や保育課程について理解を深め、更に指導計画についての理解と実際の活用について学ぶ。また、豊かな保育を展開できるような子ども理解をめざした記録のあり方や保育形態など多様な保育方法についても学ぶ。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          教育課程や保育課程の意義について学び、その編成の方法について具体的に学ぶ。また、教育課程や保育課程を土台にした指導計画の考え方を学び、実際に指導計画を立案することで、それに基づいた保育の実践、反省・評価についても学ぶ。さらに、子どもへの理解が可能となる保育の記録の方法、保育形態や多様な保育方法についても理解を深める。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>          コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本授業のねらい 教育課程・保育課程の意義</li> <li>2. 教育課程・保育課程の編成及びその方法</li> <li>3. 教育課程・保育課程の実際</li> <li>4. 教育課程・保育課程と指導計画</li> <li>5. 子ども理解に根ざした保育とその記録</li> <li>6. 保育の記録の生かし方</li> <li>7. 指導計画と立案の方法</li> <li>8. 指導計画の具体的作成 (遊びに関する指導計画)</li> <li>9. 指導計画の具体的作成 (生活場面における指導計画)</li> <li>10. 指導計画の具体的作成 (一日を通した指導計画)</li> <li>11. 指導計画に基づく保育の実践</li> <li>12. 保育実践の評価・反省</li> <li>13. 反省・評価の活かし方</li> <li>14. 保育の形態と保育方法</li> <li>15. 多様な保育方法への理解 まとめ</li> </ol> <p>定期試験・レポート</p>			
<p><b>【準備学習】</b>          保育所保育指針、幼稚園教育要領について復習をしておくこと。テキストを一読しておくこと。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          テキスト：          「幼稚園教育要領」          「保育方法の実践的理解」萌文書林          参考書・参考資料等：          「指導計画の考え方・立て方」萌文書林</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          授業への参加：20%          レポート：40%          指導計画案提出：40%</p>		

授業のタイトル（科目名） <b>保育者論</b>	授業の種類 ( <b>講義</b> )・演習・実習 )	授業担当者	
配当年次・時期 <b>2年次・前期</b>	単位数 <b>2単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	<b>保育士必修</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          子どもの育ちや家族を支援する専門職である保育者の専門性とは何か、専門性を担保するものは何かについて考察し、理解することを目的とする。また、保育や家族の支援の質を向上させるために必要な保育者同士、保護者、地域社会、他の専門機関との協働についても学ぶとともに、生涯発達やキャリア形成についても学ぶ。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          保育者というのは子どもや家族のもっとも身近な存在であり、子どもの最善の利益を守る専門職である。保育者にはどのような専門性が求められているのかを、制度や法令、具体的な保育の実際から知るとともに、自分の個性を大切にしながら専門的技術や判断を身につけていけるために必要なことを学ぶ。それらを踏まえ、協働の重要性、生涯発達やキャリア形成にむけての学びを進めていく。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>          コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本授業のねらい 保育者を目指すということ</li> <li>2. 保育者の役割</li> <li>3. 保育者の倫理</li> <li>4. 保育士・幼稚園教諭の制度的な位置づけ（資格・要件）</li> <li>5. 保育士・幼稚園教諭の制度的な位置づけ（責務）</li> <li>6. 保育という特性を理解したうえで保育者の専門性を考える</li> <li>7. 保育者の資質</li> <li>8. 保育者の技術と判断</li> <li>9. 専門性向上のための省察①</li> <li>10. 専門性向上のための省察②</li> <li>11. 教育課程や保育課程における保育の展開と評価①</li> <li>12. 教育課程や保育課程における保育の展開後評価②</li> <li>13. 保育者の協働①保育者間の共同</li> <li>14. 保育者の協働②保護者・地域。専門機関との協働</li> <li>15. 生涯発達とキャリア形成</li> </ol> <p>試験</p>			
<p><b>【準備学習】</b>          保育所保育指針や幼稚園教育要領を復習しておくこと。自分が保育職を選んだ理由、理想とする保育者像について改めてまとめておくこと。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          未定</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          授業への取り組み：20%          試験：80%</p>		

授業のタイトル (科目名) <b>保育所の運営</b>	授業の種類 ( <b>講義</b> ) ・ 演習 ・ 実習 )	授業担当者 <b>中林 節子</b>	
配当年次・時期 <b>2, 3, 4 年次・前期</b>	単位数 <b>2 単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          保育所運営の現状把握と求められる地域の児童福祉施設としての今後の方向性及び課題を考える。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          児童福祉法改正、保育所保育指針改訂の流れの中で保育所の役割課題は急増し、今までの子育てと就労の両立支援にとどまらず、地域の中の最も身近な児童福祉施設として、地域の子育て支援の役割を担うことになった。</p> <p>社会の大きな変化の中で、地域の子育て支援と共に入所児童の多様な保育ニーズにも柔軟に対応することが求められている。障がいのある子どもの保育、延長保育、夜間保育、一時保育、被虐待児の発見と対応助言、関係機関との連携等々、保育所が今、現実にはどのような課題をかかえながら運営され、今後の向かうべき方向性はどこにあるのか、等々について、実際の運営事例に基づいて講義する。そして、現在直面している乗り越えるべき課題までを考察を進める。具体的事例をもとにその場に働く保育者の役割をも考える機会とする。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>          コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 授業ガイダンス</li> <li>2. 保育所の今 (入所児 0 才児～5 才児の保育内容) (その 1)</li> <li>3. 保育所の今 (入所児 0 才児～5 才児の保育内容) (その 2)</li> <li>4. 保育所の今 (統合保育、延長保育、緊急一時保育)</li> <li>5. 保育所の今 (特別保育事業、子育て支援事業、一時保育・病後児保育等)</li> <li>6. 保育所の今 地域・保護者とのかかわり (その 1)</li> <li>7. 保育所の今 地域・保護者とのかかわり (その 2)</li> <li>8. グループ討議 (その 1)</li> <li>9. グループ討議 (その 2)</li> <li>10. 求められる保育及び保育者の役割 (その 1)</li> <li>11. 求められる保育及び保育者の役割 (その 2)</li> <li>12. 求められる保育及び保育者の役割 (その 3)</li> <li>13. 上記テーマによるグループ討議</li> <li>14. グループ討議報告 (まとめ) (1)</li> <li>15. グループ討議報告 (まとめ) (2)</li> </ol> <p>試験</p>			
<p><b>【準備学習】</b>          配布資料による予習、要点のまとめ</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          (テキスト) その都度資料配布          (参考文献)          小出まみ著『保育園児はどう育つか』ひとなる書房          全国私立保育園連盟編          『保育園の安全配慮 チェックリスト』</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          (試験やレポートの評価基準など)          出席、授業に取り組む態度(30%)、レポート(20%)、          筆記試験(50%)により総合的に評価</p>	

<b>授業のタイトル (科目名)</b> <b>多文化と保育</b>	<b>授業の種類</b> <b>(講義・演習・実習)</b>	<b>授業担当者</b> <b>久富 陽子</b>	
<b>配当年次・時期</b> <b>3, 4 年次・後期</b>	<b>単位数</b> <b>2 単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          日本社会及び保育現場が多文化な状況になってきていることを理解した上で、さまざまな文化背景をもつ子どもや保護者と関わる時に必要な基本的な事柄を学ぶ。また、多文化共生を実現していくための保育・教育課題について文献や実践報告、体験学習などを通して考えていく。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          国際化の進展に伴い、保育の現場にも在日外国人の子どもなど、さまざまな文化背景を持つ子どもが入園してきているという現状を理解する。さらに、自分とは異なる文化背景を持つ子どもや保護者との信頼関係を築いていくためには、彼らが持つ母文化への理解及び日本の社会の中で抱えている困難への理解が重要であることに気づくと共に、具体的にどのような援助の方法が必要なのかを学びながら、多文化共生を目指す保育・教育の課題について考える力も養う。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>  <b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本の国際化・多文化化①</li> <li>2. 日本の国際化・多文化化②</li> <li>3. 保育現場の国際化・多文化化①</li> <li>4. 保育現場の国際化・多文化化②</li> <li>5. 在日外国人の保護者の声から日本の保育を考える①</li> <li>6. 在日外国人の保護者の声から日本の保育を考える②</li> <li>7. 体験学習「異文化インタビュー」を通して考える</li> <li>8. 多文化保育の実践①</li> <li>9. 多文化保育の実践②</li> <li>10. 多文化な子ども達が抱える問題①</li> <li>11. 多文化な子ども達が抱える問題②</li> <li>12. 多文化社会が抱える保育・教育課題①</li> <li>13. 多文化社会が抱える保育・教育課題②</li> <li>14. 多文化社会が抱える保育・教育課題③</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>試験・レポート等</p>			
<p><b>【準備学習】</b>          新聞などを読み、海外の事情に関心を持つておくこと。テキストや参考文献などを事前に読んでおくとともに、在日外国人についての歴史を振り返っておくこと。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          テキスト：「クラスメイトは外国人」明石書店          参考文献：          「外国人の子どもの保育」萌文書林          「日本で暮らす外国人の子どもたち」明石書店          「ダーリンは外国人」メディアファクトリー</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          (試験やレポートの評価基準など)          授業への取り組み(出欠席・発表などを含む) 40%          レポート・試験 60%</p>	

授業のタイトル（科目名） <b>教育社会学</b>	授業の種類 ( <b>講義</b> )・演習・実習 )	授業担当者 <b>奥村 育栄</b>	
配当年次・時期 <b>2, 3, 4 年次・後期</b>	単位数 <b>2 単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	幼稚園教諭選択
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          本講義では、教育にかかわる現象を社会的なものとしてとらえ、観察したり考察したりするための道具として、社会学の見方・考え方を学んでいく。その際、理解したことや考えたことを言葉で表現する力を鍛えていくために、学習活動の一環として読む・書くという活動を組み込んでいく。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          講義では、主にテキストを用いて、教育にかかわる現象の社会的な見方や考え方を学んでいく。各回の講義の終わりに、講義内容の理解や自分とのかかわりなどを各々の受講生が振り返り、文章化する時間をとっていきたい。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>          コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション——教育の社会的な見方・考え方とは</li> <li>2. 学校化社会</li> <li>3. 社会化とアイデンティティ</li> <li>4. 家族</li> <li>5. ジェンダー</li> <li>6. 中等教育</li> <li>7. 「教育困難」と教師の実践</li> <li>8. 高等教育</li> <li>9. 社会階層</li> <li>10. 選抜と学歴</li> <li>11. 就職</li> <li>12. 逸脱と少年非行</li> <li>13. 教育問題①</li> <li>14. 教育問題②</li> <li>15. 全体のまとめとふりかえり</li> </ol> <p>期末試験</p>			
<p><b>【準備学習】</b>          指定したテキストや配布された資料を、該当する講義の前に読んだうえで出席してください。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          テキスト：岩井八郎・近藤博之編（2010年）『現代教育社会学』有斐閣          この他に必要な資料等は、講義中に随時配布します。          参考文献：荻谷剛彦（2005年）『学校って何だろう——教育の社会学入門』ちくま文庫          若槻健・西田芳正編（2010年）『教育社会学への招待』大阪大学出版会</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          出席を含めた授業への取り組み：40%          期末試験：60%</p>		

授業のタイトル（科目名） <b>教育の制度と経営</b>	授業の種類 (講義)・演習・実習	授業担当者 <b>橋本由美子</b>	
配当年次・時期 <b>2, 3, 4 年次・前期</b>	単位数 <b>2 単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	幼稚園教諭選択
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          変化の激しい情報化・国際化社会の中で、社会のニーズに応える新しい学校経営をどう進めるべきか多様化する教育機能を関連させるためにどうするか。また生涯学習時代の教育にも目を向けさせる。広い視野でものごとを見る目を養う。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          教育制度と教育法規の知識・理解習得だけでなく、教育制度そのものが目まぐるしく変化している現状の中で、判断する能力を培う。制度の歴史的変遷・幼保一元化・小中高一貫教育、学校二期制など具体的な事例を挙げる。諸外国の教育制度、わが国の課題などについても考えさせる。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>          コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育制度とは</li> <li>2. 教育制度の歴史的変遷</li> <li>3. 諸外国と日本の教育制度・経営の今日的課題</li> <li>4. 現代の日本の教育制度・経営の今日的課題</li> <li>5. 生涯学習社会における教育</li> <li>6. 学級経営の基礎</li> <li>7. 学校経営の基礎</li> <li>8. 教育職員の制度</li> <li>9. 学校教育制度と改革</li> <li>10. 教育行政の制度</li> <li>11. 教育財政の制度</li> <li>12. 社会教育の制度</li> <li>13. 幼・保 総合施設と就学前教育</li> <li>14. 小中一貫教育・中高一貫教育 二期制</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>定期テスト・レポート等</p>			
<p><b>【準備学習】</b>          教育の制度について、日本のみならず、諸外国にも目を向け、ニュースや新聞等で、事前に課題を調べておくようにする。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          未定          (参考文献)          『教育原理 第9巻』全国社会福祉協議会</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          (試験やレポートの評価基準など)          平常点(出席状況・授業態度)(30%)、定期テスト(70%)を総合して評価する。</p>		

子育てと教育の原理

授業のタイトル（科目名） <b>カリキュラム論</b>	授業の種類 （ <b>講義</b> ）・演習・実習	授業担当者 <b>橋本由美子</b>	
配当年次・時期 <b>2年次・後期</b>	単位数 <b>2単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	<b>保育士必修 幼稚園教諭必修</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          学習指導要領・幼稚園教育要領・教育課程の編成・保育課程の編成カリキュラムの必要性・意義について基礎的事項の習得を目的とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          幼稚園教育要領や保育所保育指針のねらい、内容を理解させる。幼児の生きる力の基礎となる心情、意欲、態度を育てる保育課程カリキュラムについて具体的な例を示しながら講義する。幼児の自発的な活動としての遊びは心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であることを考慮し、遊びを通しての指導で子どもたちがどう学んでいくか、小学校への成長の連続性、系統性を踏まえたカリキュラム論を展開する。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>          コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・教育の目的</li> <li>2. 幼稚園・小学校教育の目的（学校教育法）・保育所の指針</li> <li>3. 教育課程に関する法規</li> <li>4. 幼児期・児童期の発達の特性</li> <li>5. 幼児期・児童期における教育（西洋）</li> <li>6. 幼児期・児童期における教育（日本）</li> <li>7. 小学校学習指導要領の変遷</li> <li>8. 小学校学習指導要領（現行）</li> <li>9. 幼稚園教育要領のねらい（総則）・保育所保育指針のねらい</li> <li>10. 幼稚園教育要領の内容 「健康」「人間関係」</li> <li>11. 幼稚園教育要領の内容 「環境」「ことば」「表現」</li> <li>12. 保育所保育指針のねらい</li> <li>13. 幼稚園における指導計画の作成とカリキュラム</li> <li>14. 保育所における指導計画の作成とカリキュラム</li> <li>15. 小学校教育と幼稚園教育カリキュラム保育所保育内容の連続性</li> </ol> <p>定期テスト・レポート等</p>			
<p><b>【準備学習】</b>          事前に小学校学習指導要領、幼稚園教育要領解説書、保育所保育指針解説書等に目を通し、相違点を把握しておくこと。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          『小学校学習指導要領』平成20年          『幼稚園教育要領解説書』平成20年          「保育所保育指針解説書」</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          （試験やレポートの評価基準など）          平常点（出席状況・授業への取り組み・小レポート）（30%）、定期試験（70%）の結果を総括して評価する。</p>	

<b>授業のタイトル (科目名)</b> <b>こどもと学習活動</b>	<b>授業の種類</b> <b>(講義)・演習・実習</b>	<b>授業担当者</b> <b>橋本由美子</b>	
<b>配当年次・時期</b> <b>3, 4 年次・前期</b>	<b>単位数</b> <b>2 単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>	<b>幼稚園教諭必修</b>
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b>  幼稚園教育要領、各領域の内容を具体的事例から理解させる。幼児期の学習は遊びそのものであり、ねらいに基づいて指導していることを捉えることができる。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b>  幼稚園教育要領に基づき、学習活動の具体的な内容及び幼児理解に関する理論と方法を学ばせ、幼児指導の具体的な方法を身に付けさせる講義内容を行う。学習活動が成立するための幼児の発達の側面から見た各領域、「健康」、「人間関係」、「環境」、「言語」、「表現」のねらい、内容について教授する。また、幼児を取り巻く社会的状況、今日的な課題にも触れる。小学校との成長の接続を視野に入れ、具体的な事例をもとに教授内容を展開する。</p>			
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b>  <b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 幼児教育を取りまく現代社会の課題(1)</li> <li>3. 幼児教育を取りまく現代社会の課題(2)</li> <li>4. 「健康」と学習活動</li> <li>5. 「人間関係」と学習活動</li> <li>6. 「環境」と学習活動</li> <li>7. 「言語」と学習活動</li> <li>8. 「表現」と学習活動</li> <li>9. 子どもの発達段階に応じた学習活動 (3才)</li> <li>10. 子どもの発達段階に応じた学習活動 (4才)</li> <li>11. 子どもの発達段階に応じた学習活動 (5才)</li> <li>12. 指導計画の作成 (年間指導計画)</li> <li>13. 指導計画の作成 (月間指導計画)</li> <li>14. 幼稚園と小学校を接続した学習活動例</li> <li>15. 幼稚園と小学校を接続した学習活動例</li> </ol> <p>レポート・試験等</p>			
<p><b>[準備学習]</b>  授業が円滑に進むように、事前に、絵本・手遊びなどを調べておく。</p>			
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b>  「幼稚園・保育所実習指導計画の考え方立て方」  萌文書林</p>		<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b>  (試験やレポートの評価基準など)  平常点 (出席状況、授業への取り組み) (30%)、  全体のレポート (70%) を総合して評価する。</p>	

授業のタイトル (科目名) <b>教育の方法と技術</b>	授業の種類 ( <b>講義</b> )・演習・実習 )	授業担当者 <b>巨理 史子</b>	
配当年次・時期 <b>2, 3, 4 年次・後期</b>	単位数 <b>2 単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	幼稚園教諭選択
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          情報活用能力を養うために、情報機器及び視聴覚教材の意義活用について、総合的、実践的に理解する。授業改善のための教育方法と技術の動向を知り、実践者として必要な能力を身に付けさせる。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          学習者が自ら学ぶ力を高められるような教育方法や技術について、その意義と動向について、基本的な理解を促す講義を行う。機器や教材の活用の必要性や、教材の果たす役割について、教育現場における展開事例を用いて理解させる。視聴覚教材（読み聞かせ、紙芝居、ペープサート、エプロンシアター）がどのような場面でどのように効果的に活用されているか、実践事例に基づき、学生が体験を基にイメージできるように配慮し、身に付くように教授する。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>          コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育方法の理論</li> <li>2. 情報化社会における課題</li> <li>3. 情報改善のための教育方法と技術</li> <li>4. 幼児教育で果たす情報教育と視聴覚教育の役割</li> <li>5. 情報機器及び視聴覚教育の歴史的変遷</li> <li>6. 学ぶために有効な教育の方法</li> <li>7. 学ぶために有効な教育の技術</li> <li>8. 教育技術（グループワーク）視聴覚教材・機器活用の作品の完成（その1）</li> <li>9. 教育技術（グループワーク）視聴覚教材・機器活用の作品の完成（その2）</li> <li>10. 教育技術（グループワーク）視聴覚教材・機器活用の作品の完成（その3）</li> <li>11. 教育技術（作品の発表・鑑賞・討議）</li> <li>12. 学習指導案の作成（幼稚園生活における豊かな視聴覚教材の環境作り）（その1）</li> <li>13. 学習指導案の作成（幼稚園生活における豊かな視聴覚教材の環境作り）（その2）</li> <li>14. 学習指導案の作成（幼稚園生活における豊かな視聴覚教材の環境作り）（その3）</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>レポート・テスト等</p>			
<p><b>【準備学習】</b>          ICT 機器や視聴覚教材などの活用が主なねらいとなっている。幼稚園生活のどのような場面でそれが有効であるか予習し、そのいくつかの事例を説明できるようにしておくこと。また、次回のテーマについて予習をしておくこと。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          テキスト：          『遊び・生活・学びを培う教育保育の方法と技術』          北大路書房</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          平常点(出席状況・授業態度・提出物)：20%          レポート・作品・テスト：80%</p>		

授業のタイトル（科目名） <b>教職概論</b>	授業の種類 ( <b>講義</b> )・演習・実習 )	授業担当者 <b>橋本由美子</b>	
配当年次・時期 <b>3, 4 年次・後期</b>	単位数 <b>2 単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	<b>幼稚園教諭必修</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          教師・教員・教職についての基本的事項を理解させる。なぜ教職につくことが意義あることなのか根拠に基づきわかるようにする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          幼稚園の教員養成における教職の意義や教員の果たす役割、サービスの厳正、身分保障、職務内容等に関する知識を習得させる。幼児教育の持つ重要な役割を知らせ、研修することの大切さを理解させる。将来教職に就くことについて意欲を図り、具体的な実践事例を挙げ、望ましい子ども観、教材観が身につくように講義する。また、教職ということに関していろいろな視点から多面的に考察できるように、動機付けを図る。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>          コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 教育の目的</li> <li>3. 教師として必要な資質・条件</li> <li>4. 教員の種類・配置</li> <li>5. 教員養成の歴史・免許状</li> <li>6. 教員の任用・身分・服務</li> <li>7. 教員の職務内容</li> <li>8. 教員の研修</li> <li>9. 教員の処分・勤務条件</li> <li>10. 教育行政・教育委員会</li> <li>11. 現代社会における教師の役割</li> <li>12. 好まれる教師、嫌われる教師</li> <li>13. 親からみた望ましい教師像</li> <li>14. 良い学級経営とは</li> <li>15. よい教師とは（子ども観）</li> </ol> <p>定期テスト・レポート等</p>			
<p><b>【準備学習】</b>          幼児教育に将来携わるものとして、今の教員の実態や課題について事前に文献や新聞等で調べ、授業に臨む。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          (テキスト)          石村卓也『教職論』昭和堂</p> <p>(参考文献)          『教育法規集』</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          (試験やレポートの評価基準など)          平常点(出席状況・授業態度)(30%)、定期テスト(70%)を総合して評価する。</p>		

<b>授業のタイトル (科目名)</b> <b>保育・教職実践演習(幼稚園)</b>	<b>授業の種類</b> ( 講義・ <b>演習</b> ・実習 )	<b>授業担当者</b> <b>橋本由美子</b>	
<b>配当年次・時期</b> <b>4年次・後期</b>	<b>単位数</b> <b>2単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>	<b>保育士必修</b> <b>幼稚園教諭必修</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          大学4年間で学んだ知識と、幼稚園教育実習や保育実習で得た指導力・幼児理解力等実践力との統合を図り、幼稚園教諭や保育士としての資質を身に付けることを目的とする。また、子どもや保護者への理解、学級経営、教育的環境構成や、年間を通しての児童の動きなどを、事例研究、グループディスカッション、フィールドワーク、指導案検討、模擬保育、ロールプレイなどを通して身に付ける。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          子どもとのコミュニケーション、保護者との信頼関係、遊びや環境の構成、学級経営、特別支援、障害のある子への配慮や個への援助、教科や発達の連続性を考えた幼稚園と小学校との連携、など幼稚園としての実践に必要な資質を身に付けるために事例研究、グループディスカッション、フィールドワーク、指導案検討、模擬保育、ロールプレイ等を行う。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>  <b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 授業目的 概要、評価について、保育・幼稚園実習振り返り</li> <li>2. 新入園児に対して(楽しい保育室環境構成、入園準備、年間保育・教育課程計画)</li> <li>3. 外部講師講演(合同授業 学級経営) その後ゼミごとに分かれて協議</li> <li>4. 子ども理解(対人コミュニケーションへの基礎知識とスキルアップ)</li> <li>5. 保護者対応(信頼関係づくり、モンスターペアレントへの対応)          ロールプレイ(保護者・保育者)</li> <li>6. フィールドワークの事前準備、見学時の視点決め</li> <li>7. フィールドワーク(幼稚園見学) 実際に見学し、実習時に気付かなかった幼児理解の深化</li> <li>8. 外部講師講演(合同授業 特別支援教育) その後ゼミごとに分かれて協議</li> <li>9. 環境づくり(学内子育て支援広場「ほっけ」にある道具、教材から豊かな教育環境づくり)</li> <li>10. 遊びを通して育つ数量への興味(遊びの中にある、数量への意欲の持たせ方)</li> <li>11. 行事を通しての個・集団への援助(劇ごっこの実際、グループ活動)</li> <li>12. 表現の指導・援助(いろいろな形の美しさに関する豊かな感性) 指導案作成</li> <li>13. 表現の指導・援助(いろいろな形の美しさに関する豊かな感性) 模擬保育</li> <li>14. 幼・保・小連携のあり方(小1プロブレムを含め発達の連続性)</li> <li>15. 幼児教育に携わるものとしての心構えと指導力と使命(グループディスカッション)</li> </ol> <p>テスト・レポート等</p>			
<p><b>【準備学習】</b>          事前に次回のテーマの文献・ニュースを調べ、教育要領の関連箇所を予習しておく。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          テキスト：          幼稚園教育要領解説書、保育所保育指導解説書</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          平常点(出席状況・授業への取り組み)：40%          課題レポート・発表：60%</p>		

<b>授業のタイトル(科目名)</b> <b>保育・教職実践演習(幼稚園)</b>	<b>授業の種類</b> <b>( 講義・演習・実習 )</b>	<b>授業担当者</b> <b>久富 陽子</b>	
<b>配当年次・時期</b> <b>4年次・後期</b>	<b>単位数</b> <b>2単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>	<b>保育士必修</b> <b>幼稚園教諭必修</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>  4年間で学んだ知識、及び幼稚園教育実習・保育実習で得られた実践的な学びの統合を図り、幼児の生きる力の基礎を育むために必要となる実践的な指導・援助を身につけることを目標にする。子どもや保護者への理解、遊びを通しての総合的指導、クラス運営、職員間の協働、教育的環境の構成などを事例研究、ディスカッション、ロールプレイなどによって身につける。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>  子どもや保護者との信頼関係作り、遊びを通しての総合的指導、個及び集団への援助、クラス運営、職員間の協働、環境構成、教育・保育課程や指導計画、小学校との連携など、保育者としての実践的な力を身につけるために、事例研究、ディスカッション、指導案作成、模擬保育、見学などを行う。自分が保育者になり、クラスを担当するというを前提にしながら、保育の場における子どもと保育者の生活をイメージさせながら授業を進める。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>  <b>コマ数</b>  <b>授業計画(前期3回 後期12回)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション(授業の概要、評価について) 保育・教育実習の振り返り①</li> <li>2. 保育・教育実習の振り返り②(遊びを通しての総合的な指導に必要な力の確認)</li> <li>3. 新しい子どもを迎えるために 新入、進級する子どもを迎える準備</li> <li>4. 子ども理解(子どもの立場になって幼稚園・保育所という場を考える)</li> <li>5. 保護者理解(保護者にとっての保育者) ロールプレイ</li> <li>6. フィールド見学事前準備(自己課題の設定)</li> <li>7. フィールド見学(幼稚園・保育所)</li> <li>8. フィールド見学事後指導(討議と課題のまとめ、発表)</li> <li>9. 行事がもつ教育的意義 園での様子を保護者に伝える(園だより、クラス便りなど)</li> <li>10. 特別な配慮を必要とする子どもと保育 指導案作成 模擬保育</li> <li>11. 秋の保育環境づくり 子育てひろば「ぼっけ」での環境づくり</li> <li>12. 個と集団(さまざまな記録、記録の活用)</li> <li>13. 集団遊びへの援助(ごっこ遊び、鬼遊びへの援助 指導)</li> <li>14. 小学校との連携 保育者同士の協働(幼児指導要録 保育所児童指導要録)</li> <li>15. 外部講師講演(保育者として生きること。責務、使命など) 討議</li> </ol> <p>定期試験</p>			
<p><b>【準備学習】</b>  今まで学習したことを復習しておくとともに、実習記録を読み返し自分の実習の振り返りを行っておくこと。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>  テキスト：  「保育方法の実践的理解」萌文書林  参考書・参考資料等：  幼稚園教育要領 幼稚園教育要領解説  保育所保育指針 保育所保育指針解説書</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>  平常点(出席状況・授業への取り組み)：40%  課題レポート・発表：60%</p>		

<b>授業のタイトル(科目名)</b> <b>保育・教職実践演習(幼稚園)</b>	<b>授業の種類</b> ( 講義・ <b>演習</b> ・実習 )	<b>授業担当者</b> <b>田中 泉</b>	
<b>配当年次・時期</b> <b>4年次・後期</b>	<b>単位数</b> <b>2単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>	<b>保育士必修</b> <b>幼稚園教諭必修</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          大学4年間で学んだ幼稚園教諭としての知識、および幼稚園教育実習や保育実習で得られた実践的な学びの統合を図り、幼稚園教諭としての資質を身に付けることを目的とする。また、子どもや保護者とのコミュニケーション、クラス運営、教育的環境構成や、年間を通しての幼児の動きなどに対応しうる実践的な力を、事例研究、グループディスカッション、フィールドワーク、指導案検討、模擬保育、ロールプレイなどを通して身につける。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          子どもや保護者との信頼関係を築くコミュニケーション、子どもの表現の読み取りや援助、環境構成、行事のあり方やクラス運営、小学校との連携特別支援、障害のある子への配慮や個への援助、教科や発達連続性を考えた幼稚園と小学校との連携、など幼稚園教諭としての実践に必要な資質を身に付けるために事例研究、グループディスカッション、フィールドワーク、指導案検討、模擬保育、ロールプレイなどを行う。保育者としてクラスを担当し、運営していくうえではどのようなことが必要なのか、具体的に考えていけるように授業を進める。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>  <b>コマ数</b>          授業計画(前期3回 後期12回)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション(授業の概要、評価について) 保育・教育実習の振り返り①</li> <li>2. 保育教育実習の振り返り②(遊びを通しての総合的な指導に必要な力の確認)</li> <li>3. 幼稚園・保育所の1年間</li> <li>4. コミュニケーションの基礎(非言語的側面の役割、対人場面での自己分析)</li> <li>5. コミュニケーションの実際(保護者対応などに関する事例検討、ロールプレイ)</li> <li>6. フィールド見学事前準備(自己課題の設定)</li> <li>7. フィールド見学(幼稚園・保育所)</li> <li>8. フィールド見学事後指導(討議と課題のまとめ、発表)</li> <li>9. 幼稚園や保育所での音楽的な発表①(遊びとの関係、準備、保護者への連絡などを含めた行事のあり方)</li> <li>10. 幼稚園や保育所での音楽的な発表②(発表会の実際)</li> <li>11. 秋の保育環境づくり ぼっけ見学 自然物を解して生まれる音を意識した環境構成</li> <li>12. 音楽的表現の読み取り・援助・環境構成① 指導案作成</li> <li>13. 音楽的表現の読み取り・援助・環境構成② 模擬保育</li> <li>14. 音楽を通しての療育活動(特別な支援が必要な子ども)</li> <li>15. 外部講師講演(保育者として生きること。責務、使命など) グループディスカッション</li> </ol> <p>定期試験</p>			
<p><b>【準備学習】</b>          指導案や環境構成案の作成、模擬保育の準備など、幼稚園教諭としての実践を意識して具体的に進めること。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          (テキスト)          未定          (参考文献)          幼稚園教育要領          幼稚園教育要領解説書</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          平常点(出席状況・授業への取り組み):40%          課題レポート・発表:60%</p>		

# こども専門科目

## (こどもの文化と環境)

<b>授業のタイトル (科目名)</b> こどもと音楽A(理論・ピアノ・こどもの歌)	<b>授業の種類</b> ( 講義・ <b>演習</b> ・実習 )	<b>授業担当者</b> 田中泉・浦啓子・金淵洋子・清水京子・高牧恵理	
<b>配当年次・時期</b> 1年次・前期	<b>単位数</b> 1単位	<b>必修・選択</b> 選択	<b>保育士必修</b> 幼稚園教諭選択
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          保育者における音楽活動に必要な音楽的知識や技術（歌唱やピアノ実技など）の基礎を習得するとともに、子どもの音楽的発達過程を理解し、それを踏まえた音楽活動の内容や教材の活用、遊びの展開について学ぶ。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          歌唱やピアノ演奏に必要な音楽理論の基礎について、テキストやビデオおよび実技を通して学び、ピアノ演奏や弾き歌いについては個人レッスンも受講する。また、子どもの音楽的発達過程への理解や教材研究も踏まえ、歌遊びなど保育に取り入れられている音楽活動を実践する。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>  <b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーションおよびグループ分けのためのアンケート・個人面談</li> <li>2. 保育におけるピアノ、ピアノの仕組みを理解する／ピアノグループレッスン</li> <li>3. 歌唱および音楽理論 ①拍とリズム／ピアノ個人レッスン①</li> <li>4. 歌唱および音楽理論 ②拍と拍子／ピアノ個人レッスン②</li> <li>5. 歌唱および音楽理論 ③さまざまな楽譜／ピアノ個人レッスン③</li> <li>6. 歌唱および音楽理論 ④ト音記号とヘ音記号／ピアノ個人レッスン④</li> <li>7. 歌唱および音楽理論 ⑤音符・休符の長さ／ピアノ個人レッスン⑤</li> <li>8. 歌唱および音楽理論 ⑥さまざまなリズムを読む／ピアノ個人レッスン⑥</li> <li>9. 子どもの歌唱行動の発達① および音楽理論の復習／ピアノ個人レッスン⑦</li> <li>10. 子どもの歌唱行動の発達② および音楽理論の復習・小テスト／ピアノ個人レッスン⑧</li> <li>11. 歌唱および音楽理論 ⑦音階・調性／ピアノ個人レッスン⑨</li> <li>12. 歌唱および音楽理論 ⑧コードネーム／ピアノ個人レッスン⑩</li> <li>13. 歌唱および音楽理論 ⑨コードネーム／ピアノ個人レッスン⑪</li> <li>14. 歌唱および音楽理論 ⑩コードネーム／ピアノ個人レッスン⑫</li> <li>15. コードネームによる伴奏のテスト／ピアノ実技試験リハーサル試験</li> </ol>			
<p><b>【準備学習】</b>          ピアノのレッスンを受けるにあたり、毎回課される課題曲（ピアノ曲もしくは弾き歌い）の練習を行うこと。音楽理論については、特に読譜が困難な受講生は楽譜に慣れるよう、配布した課題やテキストの指摘箇所の予習復習を行うこと。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          テキスト：          東京福祉保育専門学校編『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』          参考文献：          大畑祥子編著『音楽表現』</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          定期試験およびピアノ課題の到達状況：60%          平常点(出席状況・課題への取り組み)：10%          小テストおよびピアノ課題の進捗：30%</p>		

<b>授業のタイトル（科目名）</b> <b>こどもと音楽B(理論・ピアノ・簡易楽器)</b>	<b>授業の種類</b> <b>( 講義・<u>演習</u>・実習 )</b>	<b>授業担当者</b> <b>田中泉・浦啓子・金淵洋子・清水京子・高牧恵理</b>	
<b>配当年次・時期</b> <b>1年次・後期</b>	<b>単位数</b> <b>1単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>	<b>保育士必修</b> <b>幼稚園教諭選択</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          保育者における音楽活動に必要な音楽的知識や技術（簡易楽器の奏法やピアノ実技など）の基礎を習得するとともに、子どもの音楽的表現の特性を理解し、それを踏まえた音楽活動の内容や教材の活用、遊びの展開について学ぶ。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          合奏やピアノ演奏に必要な音楽理論の基礎について、テキストやビデオおよび実技を通して学び、ピアノ演奏や弾き歌いについては個人レッスンも受講する。また、子どもの音楽的表現の特性への理解や教材研究も踏まえ、楽器遊びや楽器合奏など保育に取り入れられている音楽活動を実践する。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>  <b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーションおよびピアノ練習状況の確認</li> <li>2. 保育における楽器・合奏／ピアノ個人レッスン①</li> <li>3. 子どもの音楽的表現の特質／ピアノ個人レッスン②</li> <li>4. 音楽理論問題演習およびリズムパターンを用いた音楽遊び／ピアノ個人レッスン③</li> <li>5. 音楽理論問題演習および簡易楽器の奏法／ピアノ個人レッスン④</li> <li>6. 音楽理論問題演習および楽器遊びの導入法／ピアノ個人レッスン⑤</li> <li>7. 保育における音楽発表会の構成／ピアノ個人レッスン⑥</li> <li>8. 合奏曲の編曲および合奏練習①／ピアノ個人レッスン・歌⑦</li> <li>9. 合奏曲の編曲および合奏練習②／ピアノ個人レッスン・歌⑧</li> <li>10. 合奏曲の編曲および合奏練習③／ピアノ個人レッスン⑨</li> <li>11. 合奏曲の練習①／ピアノ個人レッスン・歌⑩</li> <li>12. 合奏曲の練習②／ピアノ個人レッスン・歌⑪</li> <li>13. 合奏曲の練習③／ピアノ個人レッスン・歌⑫</li> <li>14. 音楽発表会</li> <li>15. 音楽発表会のふりかえり／ピアノ実技試験リハーサル 試験およびレポート</li> </ol>			
<p><b>【準備学習】</b>          ピアノのレッスンを受けるにあたり、毎回課される課題曲（ピアノ曲もしくは弾き歌い）の練習を行うこと。発表会の企画・準備にあたり、役割分担の課題等は期日までに完成するように進め、グループでの合奏練習も行う。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          テキスト：          東京福祉保育専門学校編『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』          参考文献：          大畑祥子編著『音楽表現』</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          発表会企画・準備・参加・レポート、定期試験およびピアノ課題の到達状況：60%          平常点(出席状況・課題への取り組み)：10%          発表会への取り組みおよびピアノ課題の進捗：30%</p>		

授業のタイトル(科目名) <b>造形表現(図画工作)</b>	授業の種類 ( 講義・ <b>演習</b> ・実習 )	授業担当者 <b>船木 美佳</b>	
配当年次・時期 <b>1年次・後期</b>	単位数 <b>1単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	<b>保育士必修 幼稚園教諭選択</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 材料・道具についての基礎的な知識と絵画や彫塑に関する基礎技能を習得する。また作品の講評会において他者と自分の作品を並列させることは、客観性を養う訓練にもなり、他者の作品についても興味を抱くきっかけとなる。それがひいては幼児の作品を観察する力になることが望ましい。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 造形活動を行う上で必要となる材料や道具類に関する基本的な知識と、絵画や彫塑に関する基礎技能の習得をする。本演習では、基礎力として、“もの(事象)を丁寧に観察する力”を挙げる。人物や静物モチーフを対象に、木炭または鉛筆デッサン、水彩、粘土による彫塑によるベーシックなトレーニングの後、自分でテーマを見つけ制作する自由課題に入っていく。また課題ごとに講評会形式を取り入れ、各自自らの作品についてプレゼンテーションを行い、総合的な表現力を養う。このような過程において、表現する喜びを経験しつつ、客観性を養うとともに、他人の作品の良さも発見する事ができ、ひいては、こどもから表現力を引き出せる力を養う。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b> コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ・授業の概要説明 ・鉛筆デッサン／講評会</li> <li>2. コラージュ／講評会</li> <li>3. 紙粘土</li> <li>4. 紙粘土 彩色／講評会</li> <li>5. 人物デッサン</li> <li>6. グループワーク こどものおもちゃ 話し合い</li> <li>7. グループワーク こどものおもちゃ 制作／発表</li> <li>8. イメージ水彩画</li> <li>9. 環境を考える グループワーク(1)</li> <li>10. 環境を考える グループワーク(2)</li> <li>11. 環境を考える グループワーク(3)</li> <li>12. 古着を転換し〇〇をつくる</li> <li>13. 古着を転換し〇〇をつくる</li> <li>14. 古着を転換し〇〇をつくる</li> <li>15. 古着を転換し〇〇をつくる 発表会</li> </ol> <p>レポート</p>			
<p><b>【準備学習】</b> スケッチブック 水彩筆は個人で必要です。*購入については授業で説明。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b> 参考文献： 『マチスの切り絵』 『ニキ・ド・サンファル』 『エドヴァルト・ムンク』</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> (試験やレポートの評価基準など) 制作態度：30% 作品提出など：70%</p>	

授業のタイトル (科目名) <b>児童文化</b>	授業の種類 ( 講義・ <b>演習</b> ・実習 )	授業担当者 <b>中川理恵子</b>							
配当年次・時期 <b>2, 3, 4 年次・後期</b>	単位数 <b>1 単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>							
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          絵本・紙芝居・ストーリーテリングのそれぞれの特徴を学び、基礎的理解をはかる。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          「子ども」とは誰をさすのかということを入りに児童文化について考える。具体的には、絵本、紙芝居、ストーリーテリング、手遊びについて学ぶ。絵本については、絵本の中にもさまざまなタイプのものがあることを学び、それぞれの特徴をつかみながら、絵本と子どもの関係について考える。さらに、紙芝居と絵本の違いを学びそれぞれの持つ可能性について考える。また、紙芝居、ストーリーテリング、手遊びについては、実演方法も含めて学ぶ。</p>									
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>          コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「子ども」と「大人」について考える。</li> <li>2. 〈児童文化〉とは何か。</li> <li>3. 自らの〈児童文化〉体験を振り返る。</li> <li>4. 紙芝居(1)</li> <li>5. 紙芝居(2)</li> <li>6. 紙芝居(3)</li> <li>7. 紙芝居(4)</li> <li>8. 紙芝居(5)</li> <li>9. 紙芝居(6)</li> <li>10. 紙芝居(7)</li> <li>11. 絵本(1)</li> <li>12. 絵本(2)</li> <li>13. 絵本(3)</li> <li>14. わらべうた(1)</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>試験</p> <p>※履修者の人数により授業計画が一部変更になることがあります。</p>									
<p><b>【準備学習】</b>          地域の図書館等で紙芝居・絵本を手に取り、数多く読むこと。</p>									
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          授業内にプリントを配布する。          (参考文献)          まついのりこ『紙芝居 共感のよろこび』童心社          近藤信子 柳生弦一郎          『にほんのわらべうた 全四巻』福音館書店</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          (試験やレポートの評価基準など)</p> <table border="0"> <tr> <td>①出席、授業に取り組む態度</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>②課題提出</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>③期末試験</td> <td>50%</td> </tr> </table> <p>(単位取得に③は不可欠)</p>			①出席、授業に取り組む態度	25%	②課題提出	25%	③期末試験	50%
①出席、授業に取り組む態度	25%								
②課題提出	25%								
③期末試験	50%								

<b>授業のタイトル（科目名）</b> <b>ピアノ応用</b>	<b>授業の種類</b> <b>（ 講義・演習・実習 ）</b>	<b>授業担当者</b> 浦啓子・金淵洋子・清水京子・高牧恵理・杉森のりこ	
<b>配当年次・時期</b> <b>2, 3, 4 年次・前期, 後期</b>	<b>単位数</b> <b>1 単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>	<b>保育士選択</b> <b>幼稚園教諭選択</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          ピアノ演奏の基本的なテクニックを学び、表現力を高めるとともに、子どもの歌の伴奏や弾き歌いなど、保育実践において役立つレパートリーを身につける。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          保育者として子どもと音楽を楽しむために必要なピアノ演奏や弾き歌いの技術、ならびに音楽的感性を養うことを目的とする。練習曲やさまざまな様式のピアノ曲の他、子どもの歌の伴奏や弾き歌いなど、保育実践において役立つ課題に取り組み、レパートリーを広げる。受講者は各自のレベルに応じた課題曲を練習し、主に個人指導を受ける。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>  <b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーションおよびレベルチェックのための試験</li> <li>2. 各自のレベルに応じた課題曲に取り組む（個人レッスン①）</li> <li>3. 各自のレベルに応じた課題曲に取り組む（個人レッスン②）</li> <li>4. 各自のレベルに応じた課題曲に取り組む（個人レッスン③）</li> <li>5. 各自のレベルに応じた課題曲に取り組む（個人レッスン④）</li> <li>6. 各自のレベルに応じた課題曲に取り組む（個人レッスン⑤）</li> <li>7. 各自のレベルに応じた課題曲に取り組む（個人レッスン⑥）</li> <li>8. 各自のレベルに応じた課題曲に取り組む（個人レッスン⑦）</li> <li>9. 各自のレベルに応じた課題曲に取り組む（個人レッスン⑧）</li> <li>10. 各自のレベルに応じた課題曲に取り組む（個人レッスン⑨）</li> <li>11. 各自のレベルに応じた課題曲に取り組む（個人レッスン⑩）</li> <li>12. 各自のレベルに応じた課題曲に取り組む（個人レッスン⑪）</li> <li>13. 各自のレベルに応じた課題曲に取り組む（個人レッスン⑫）</li> <li>14. 各自のレベルに応じた課題曲に取り組む（個人レッスン⑬）</li> <li>15. 実技試験のためのリハーサル</li> </ol> <p>実技試験</p>			
<p><b>【準備学習】</b>          ピアノのレッスンを受けるにあたり、毎回課される課題曲（ピアノ曲もしくは弾き歌い）の練習を行うこと。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          テキスト：東京福祉保育専門学校編『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』</p> <p>参考文献：『動きのイメージが広がる保育音楽のためのマーチ&amp;リズム』他</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          定期試験およびピアノ課題の到達状況：60%          平常点(出席状況・課題への取り組み)：10%          課題の進捗：30%</p>		

授業のタイトル (科目名) <b>ピアノ実践</b>	授業の種類 ( 講義・ <b>演習</b> ・実習 )	授業担当者 浦啓子・金淵洋子・清水京子・高牧恵理・杉森のりこ	
配当年次・時期 <b>2, 3, 4 年次・前期, 後期</b>	単位数 <b>1 単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	<b>保育士選択 幼稚園教諭選択</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          ピアノ曲や子どもの歌の伴奏など、さまざまな曲の演奏に取り組みとともに、簡単な伴奏付けなどの課題を通して、保育現場で活用できる力を養う。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          「ピアノ応用」修了以上のピアノ経験がある者を対象とする。さまざまなピアノ曲の演奏に取り組み、演奏技術や表現力を高めることに加え、子どもの歌や弾き歌いなどのレパートリーを広げる。また、受講生のレベルに応じて、簡単な伴奏付けや即興演奏などの課題も導入し、保育実践における音楽活動により柔軟に対応できる演奏技術を習得することを目指す。受講者は各自のレベルに応じた課題曲を練習し、主に個人指導を受ける。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>          コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーションおよびレベルチェックのための試験</li> <li>2. 各自のレベルに応じた課題曲に取り組む (個人レッスン①)</li> <li>3. 各自のレベルに応じた課題曲に取り組む (個人レッスン②)</li> <li>4. 各自のレベルに応じた課題曲に取り組む (個人レッスン③)</li> <li>5. 各自のレベルに応じた課題曲に取り組む (個人レッスン④)</li> <li>6. 各自のレベルに応じた課題曲に取り組む (個人レッスン⑤)</li> <li>7. 各自のレベルに応じた課題曲に取り組む (個人レッスン⑥)</li> <li>8. 各自のレベルに応じた課題曲に取り組む (個人レッスン⑦)</li> <li>9. 各自のレベルに応じた課題曲に取り組む (個人レッスン⑧)</li> <li>10. 各自のレベルに応じた課題曲に取り組む (個人レッスン⑨)</li> <li>11. 各自のレベルに応じた課題曲に取り組む (個人レッスン⑩)</li> <li>12. 各自のレベルに応じた課題曲に取り組む (個人レッスン⑪)</li> <li>13. 各自のレベルに応じた課題曲に取り組む (個人レッスン⑫)</li> <li>14. 各自のレベルに応じた課題曲に取り組む (個人レッスン⑬)</li> <li>15. 実技試験のためのリハーサル</li> </ol> <p>実技試験</p>			
<p><b>【準備学習】</b>          ピアノのレッスンを受けるにあたり、毎回課される課題曲 (ピアノ曲もしくは弾き歌い) の練習を行うこと。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          テキスト：東京福祉保育専門学校編『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』          参考文献：『幼稚園教諭、保育士、小学校教員をめざす人のためのピアノテキスト 歌おう弾こうこどもとともに』他</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          定期試験およびピアノ課題の到達状況：60%          平常点 (出席状況・課題への取り組み)：10%          課題の進度：30%</p>		

<b>授業のタイトル (科目名)</b> <b>声とからだ</b>	<b>授業の種類</b> <b>( 講義・演習・実習 )</b>	<b>授業担当者</b> <b>杉森のりこ</b>	
<b>配当年次・時期</b> <b>1, 2, 3, 4 年次・前期, 後期</b>	<b>単位数</b> <b>1 単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>	<b>保育士選択</b> <b>幼稚園教諭選択</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>  からだと声の繋がりを体感することで、姿勢・呼吸は自分でコントロールできることを理解する。また、音楽的・身体的教養を身につけ、それを伝える保育者としての身体・心構えをサポートする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>  身体の構造・動く仕組みを学び、それを効率よく使う事を試し、歌うことで確認していく。保育現場で活用できる教材を実践することにより、「声」「音楽」を通してこどもと関わる保育者としての基礎を養う。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>  <b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 姿勢について自分と向き合う</li> <li>3. 前回の復習と実践</li> <li>4. 「身体を支える」脚から考える</li> <li>5. 前回までの復習と実践</li> <li>6. 「腰を自由にする」腰のロックを外し、大腰筋を使ってみる</li> <li>7. 前回までの復習と実践</li> <li>8. 音の高低を身体で表現しながらドレミで歌う</li> <li>9. 前回の小テスト (暗譜)</li> <li>10. 「呼吸のグレードを上げる」背中を意識して、肋骨全体で呼吸してみる</li> <li>11. 前回までの復習と実践</li> <li>12. 全身の繋がりを感じて歌う</li> <li>13. 前回までの復習と実践</li> <li>14. 音楽鑑賞</li> <li>15. 今期の振り返り・まとめ</li> </ol> <p>定期試験</p>			
<p><b>【準備学習】</b>  前回に行ったストレッチやトレーニングを、できるだけ毎日、自分のペースで続けること。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>  不要 (プリントなどで用意)</p> <p>(参考文献)  「ふるさとの四季」 源田俊一郎編曲  カワイ出版 ほか</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>  平常点(出席状況・授業態度)：40%  試験：50%  小テスト：10%</p>		

授業のタイトル (科目名) <b>器楽・合奏</b>	授業の種類 ( 講義・ <b>演習</b> ・実習 )	授業担当者 <b>梅本 由紀</b>	
配当年次・時期 <b>2, 3, 4 年次・前期, 後期</b>	単位数 <b>1 単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	保育士選択
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          器楽を通して合奏を作り上げてゆくことを学ぶ。          こどもに関わる現場で必要とされることや想定されること（職員＝大人同士の合奏など）に対応できるような知識を習得し経験をする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          合奏に必要なことを体得するために、個々の技術を磨くことから始める。CM 等で使用されているクラシック曲の原曲を鑑賞し、簡単な楽譜を使って実際にキーボードで演奏することにより、鍵盤楽器に慣れ親しめるようにする。音楽室で用意できる楽器を使用して合奏の仕方を学んだり、実際に合わせた時の全体の音を味わって内容を発展できるようにする。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>          コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 楽譜の読み方、書き方について</li> <li>3. 拍子について</li> <li>4. リズム練習・手拍子の音楽</li> <li>5. 元の曲を知って、弾いてみよう！(1)</li> <li>6. 元の曲を知って、弾いてみよう！(2)</li> <li>7. 元の曲を知って、弾いてみよう！(3)</li> <li>8. 元の曲を知って、弾いてみよう！(4)</li> <li>9. 元の曲を知って、弾いてみよう！(5)</li> <li>10. 打楽器実習</li> <li>11. 図形楽譜について</li> <li>12. 管楽器体験</li> <li>13. 季節の曲を弾いてみよう</li> <li>14. 簡単な旋律の創作</li> <li>15. 即興的演奏</li> </ol> <p>上記のシラバスを基本とするが、履修者の状況により順序を入れ替えたり内容を変更することがある。</p> <p>試験</p>			
<p><b>【準備学習】</b>          五線の楽譜が読めることが望ましい</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          (テキスト)          必要に応じてプリントを配布する          (参考文献)          汐巻公子著『大人の音楽ドリル 入門編』          ヤマハミュージックメディア</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          (試験やレポートの評価基準など)          出席を含めた授業への取り組み：40%          試験：60%</p>		

<b>授業のタイトル (科目名)</b> <b>絵画制作</b>	<b>授業の種類</b> <b>( 講義・演習・実習 )</b>	<b>授業担当者</b> <b>船木 美佳</b>	
<b>配当年次・時期</b> <b>2, 3, 4 年次・前期</b>	<b>単位数</b> <b>1 単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>	<b>保育士選択</b> <b>幼稚園教諭選択</b>
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b>  与えられたテーマではなく、自らでテーマを探りプランをたてるようになる。したいことと表現がすぐに結びつかなくとも、その経験を経ることでより自分の方向性を掴んでいく事ができるようになる。またそれがオリジナリティへと発展することが望ましい。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b>  主に造形表現を履修した学生を対象に、油画技法を中心とした作品制作の実習をする。油画の基礎技法の習得はもとより、“自分にとって表現とは何か？”という問いのもとで作品のアプローチを試みる。本演習のゼミでは個別対応形式をとりつつ、各学生の個性やオリジナリティを発見していく方法をともに検討していく。その過程で、保育者を志す学生自身が、個性やオリジナリティを発見することで、こどものそれを大切に育み認める感性を磨いていく。</p>			
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b>  <b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 コースの説明 水彩クロッキー 互いがモデルになり短時間で、水彩画材でスケッチ対象物の動きを瞬時に捉える。スピードをもって制作にあたることで考えてから制作にすすむというより、手を動かしながら考えるトレーニングにする。</li> <li>2. 油画 室内空間 人物10号 油画の基礎技法と、材料についての説明5コマで制作。支持体であるキャンバスに向かって描いたり消したりを繰り返しながら対象である人物にアプローチする。またここでは“観る”ことを重点におく。</li> <li>3. 油画 室内空間 人物 自分で記録していき、ポートフォリオをつくることを推奨する。ポートフォリオの作成についても、その都度指導。</li> <li>4. 油画 室内空間 人物</li> <li>5. 油画 室内空間 人物 (4の続き)</li> <li>6. 油画 室内空間 人物 (5の続き)</li> <li>7. 油画 室内空間 人物 仕上げ 講評会 作品撮影 (データで記録) 参考例として室内空間をあつかった作家の作品もスライド講義で紹介</li> <li>8. 自由課題スタート サイズ自由 7コマで1つの作品を各自 自分のテーマをリサーチする。日常生活のなかから取材し、それを作品にしていく。そのためのプランやアイデアスケッチなどを提出→面接のかたちで個別対応 *この作品は最終的に講評会で並列することを前提とする。 *参考例 (お手本) としてでなく、作家が作品を結実していく過程での、解釈の自由さを理解するため現代作家の絵画を中心に紹介。</li> <li>9. 油画 自由課題→個別対応①</li> <li>10. 油画 自由課題→個別対応②</li> <li>11. 油画 自由課題→個別対応③</li> <li>12. 油画 自由課題→個別対応④</li> <li>13. 油画 自由課題→個別対応⑤</li> <li>14. 油画 自由課題→個別対応⑥</li> <li>15. 展示場所整備 講評会 作品撮影 レポート等</li> </ol>			
<p><b>[準備学習]</b>  個人でキャンバス・油画セットの準備が必要になります。*詳細は授業時に説明</p>			
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b>  (使用教材)  ※以下が必要となります。購入については授業で説明します。  ・油画絵の具セット その他  (参考文献)  『絵画の新しい視点』 PHAIDON  地足伸行監修『西洋美術史』西村書店  アンドレ・ブルトン『魔術的芸術』河出書房新社</p>	<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b>  (試験やレポートの評価基準など)  制作態度：40%  課題作品：60%</p>		

授業のタイトル(科目名) <b>イノセンスアート</b>	授業の種類 ( 講義・ <b>演習</b> ・実習 )	授業担当者 <b>船木 美佳</b>	
配当年次・時期 <b>2, 3, 4 年次・前期</b>	単位数 <b>1 単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	<b>保育士選択</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          保育者が日常生活の中で日頃から、心を動かすことに気を留め、それをいかなるメディアでもよいので、自由に表現することに慣れていく。保育者になる以前のベーシックな目標として、毎日の生活の中で発見する美や遊び、情緒などを(美術の世界に限定せずに)感じる力こそが、いつの時代でも誰にでも共通する大切な感性でありそれをイノセンスアートと、仮定する。          その力を養っていくことは、自己の豊かさやこどもの心にとっても重要である。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          いつの時代の美術にも存在する“イノセンスな感性”で表現されてきた作品例をはじめに、その傾向がより増してきた現代美術を、文学、映画など他のジャンルへと拡げて、参照しつつ、その創造性の豊かな拡がり方や魅力についてディスカッションを交えながら多角的に考察し学ぶ。それにより“イノセンスな感性”に対して自らが鋭敏になり、それが日常生活において活かされ、こどもの作品だけでなくその関わりのなかにも発見できることに繋がるのが望ましい。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>          コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本授業の概要説明 イノセントとは? 大人とこどものはざま 少年と少女のはざま</li> <li>2. こども概念の発生—ブリューゲルその他の作品より</li> <li>3. 少女概念の発生と大衆が求める少女像の変遷—明治からのこども雑誌の表紙より</li> <li>4. 大人になったら嫌われる べとべと・ぼうぼうの感覚</li> <li>5. 物語における「病める子・夭折の子」の存在—「星の王子さま」その他より</li> <li>6. 物語の「不思議な子」の存在—バルテュスその他の作品より</li> <li>7. 物語の「不思議な子」の存在—「ピーターパン」その他より</li> <li>8. イメージとしての「永遠の子」—野中ユリその他作品より</li> <li>9. 精神のエッジでふく風—ウニカ・チュルン その他の作品より</li> <li>10. シュルリアリズムについて(1)</li> <li>11. シュルリアリズムについて(2)</li> <li>12. アールビュルット作品の紹介とどのように発見されたのか?(1)</li> <li>13. アールビュルット作品の紹介とどのように発見されたのか?(2)</li> <li>14. アールビュルット作品の紹介とどのように発見されたのか?(3)</li> <li>15. 自分にとってイノセントとは? 考察 レポート</li> </ol>			
<p><b>【準備学習】</b>          日常生活の中で、または観た映画や読んだ本のなかで、自分にとって気になる事項を考えること。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          参考文献:          『子どもたちの100の言葉』学習研究社          アンドレ・ブルトン『魔術的芸術』河出書房新社          はたよしこ著『アウトサイダーアートの世界』          紀伊國屋書店          本田和子著『異文化としてのこども』筑摩書房</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          (試験やレポートの評価基準など)          受講態度:40%          レポートなど提出物:60%</p>	

こどもの文化と環境

<b>授業のタイトル (科目名)</b> <b>絵本と児童文学</b>	<b>授業の種類</b> <b>(講義)・演習・実習</b>	<b>授業担当者</b> <b>中川理恵子</b>							
<b>配当年次・時期</b> <b>2, 3, 4 年次・前期, 後期</b>	<b>単位数</b> <b>2 単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>	<b>幼稚園教諭選択</b>						
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          絵本・児童文学を歴史的に概観し基礎的理解をはかる。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          児童文学は子どもを読者とする特徴を持っている。日本の近現代の代表的な作家の作品を、歴史をたどりながら講読する。特にそれぞれの作品において、子どもがどのように描かれているかという点に注目し、時代の特徴を捉えていく。また、幼い子は、誰かに本を読んでもらうことで物語を享受する。耳で聞く文芸である「昔ばなし」の語法を学び、耳で聞くことの多い幼年文学の特性についても考える。それとあわせて、数多く出版されている昔ばなし絵本のありようについて考える</p>									
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>  <b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童文学とは何か。(1) 「大人」と「子ども」について考える。</li> <li>2. 児童文学とは何か。(2) 近代以前の子どもの読み物～子ども読者の登場</li> <li>3. 児童文学と昔ばなし(1) 耳で聞く文芸と幼年文学について</li> <li>4. 児童文学と昔ばなし(2) 昔ばなしの語法について</li> <li>5. 児童文学と昔ばなし(3) 昔ばなしの語法について</li> <li>6. 児童文学と昔ばなし(4) 昔ばなしの語法</li> <li>7. 児童文学と昔ばなし(5) 昔ばなし絵本について</li> <li>8. 児童文学と昔ばなし(6) 昔ばなし絵本について</li> <li>9. &lt;お伽噺&gt;の誕生(1) 巖谷小波の登場</li> <li>10. &lt;お伽噺&gt;の誕生(2) 小波&lt;お伽噺&gt;の特徴</li> <li>11. &lt;お伽噺&gt;から&lt;童話&gt;へ</li> <li>12. 小川未明(1)</li> <li>13. 小川未明(2)</li> <li>14. 小川未明(3)</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>試験          ※履修者の人数により授業計画が一部変更になることがあります。</p>									
<p><b>【準備学習】</b>          授業時に紹介した児童文学作品を多く読むこと。</p>									
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          桑原三郎・千葉俊二編          『日本児童文学名作集』上・下 岩波文庫</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          (試験やレポートの評価基準など)</p> <table border="0"> <tr> <td>①出席、授業に取り組む態度</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>②課題提出</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>③期末試験</td> <td>60%</td> </tr> </table> <p>(単位取得に③は不可欠)</p>		①出席、授業に取り組む態度	20%	②課題提出	20%	③期末試験	60%
①出席、授業に取り組む態度	20%								
②課題提出	20%								
③期末試験	60%								

授業のタイトル（科目名） <b>おもちゃ論</b>	授業の種類 ( <b>講義</b> )・演習・実習 )	授業担当者 <b>浅岡 靖央</b>	
配当年次・時期 <b>2, 3, 4 年次・前期, 後期</b>	単位数 <b>2 単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          おもちゃは子どもの遊びとは切っても切れない“もの”であり、楽しさとともに子どもの育ちに大きな役割を果たしている。この講義は、現代の子どもとおもちゃの関係について考察するとともに、おもちゃを通して子どもへの理解を深めることを目標とする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          多種多様なおもちゃについて考えるための基本的な整理をふまえ、商品玩具の歴史とその現状を把握した上で、定番おもちゃ・キャラクター玩具・テレビゲームなどを具体的に取り上げて、おもちゃの意味や役割を明らかにしながら、子どもの心象風景にふれていく。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>          コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. おもちゃとは何か？</li> <li>2. おもちゃの種類とその分類</li> <li>3. 商品玩具の歴史 1</li> <li>4. 商品玩具の歴史 2</li> <li>5. 玩具ビジネスの現状</li> <li>6. 定番おもちゃⅠ. 積木</li> <li>7. 教育思想とおもちゃ</li> <li>8. 定番おもちゃⅡ. 人形</li> <li>9. 子どもの精神発達とおもちゃ</li> <li>10. キャラクターとおもちゃ 1</li> <li>11. キャラクターとおもちゃ 2</li> <li>12. キャラクターとおもちゃ 3</li> <li>13. 子どもとテレビゲーム 1</li> <li>14. 子どもとテレビゲーム 2</li> <li>15. おもちゃの本質</li> </ol> <p>レポート</p>			
<p><b>【準備学習】</b>          子ども時代に手にしたおもちゃの記憶と、最近の子どもが手にしているおもちゃに関する認識</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          テキスト：          使用しない。          参考文献：          松田恵示『おもちゃと遊びのリアル』          世界思想社、2003年</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          平常点(出席状況・授業態度)：20%          授業時の提出物：20%          レポート：60%</p>	

<b>授業のタイトル（科目名）</b> <b>保育教材演習</b>	<b>授業の種類</b> （ 講義・ <b>演習</b> ・実習 ）	<b>授業担当者</b> <b>五十嵐裕子・市川美恵子</b>	
<b>配当年次・時期</b> <b>1年次・前期，後期</b>	<b>単位数</b> <b>1単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>	<b>保育士必修</b> <b>幼稚園教諭選択</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育活動に欠かすことのできない保育教材の意義、ねらいについて知る。</li> <li>・基本的な保育教材の制作、実演を経験し、将来の保育者としての技能を高める。</li> </ul> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b></p> <p>保育教材・教具には目的、ねらいがあることを知り、保育現場で活用されている保育教材をいくつか取り上げ、それぞれの教材のねらいや子どもとともに楽しむ際の配慮等への理解を図るとともに、実際の制作、実演などを経験する。また毎回の授業において折り紙など身近な保育教材を紹介する。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b></p> <p><b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本授業のねらい</li> <li>2. 保育教材について学ぶ(1) モンテッソーリ教具</li> <li>3. 保育教材について学ぶ(2) フレーベルの恩物</li> <li>4. 保育教材について学ぶ(3) レッジョエミリア市の実践</li> <li>5. フェルトその他の素材を使つての名札づくり</li> <li>6. 春の行事と保育教材</li> <li>7. 夏の行事と保育教材</li> <li>8. 秋の行事と保育教材</li> <li>9. 冬の行事と保育教材</li> <li>10. パネルシアター、エプロンシアター、ペープサートの紹介</li> <li>11. パネルシアターの制作(1)</li> <li>12. パネルシアターの制作(2)</li> <li>13. パネルシアターの実演</li> <li>14. 紙コップ、ビニール袋を使った制作と遊び</li> <li>15. 自然素材を生かした制作と遊び</li> </ol> <p>試験・レポート等</p>			
<p><b>【準備学習】</b></p> <p>毎回の授業で、次回の授業内容とその準備について指示するので、指示に従うこと。各自が保育教材を楽しむこと、保育教材に関する知識・技能を豊かにするよう積極的、自主的に取り組むことを期待する。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b></p> <p>テキスト：指定しない。授業時にプリントを配布する。</p> <p>参考文献：</p> <p>『子どもと楽しむ行事とあそびの絵本』のら書店</p> <p>『実習に役立つ保育技術』創成社</p> <p>その他授業時に随時紹介する。</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b></p> <p>作品：50%</p> <p>試験：30%</p> <p>授業への取り組み：20%</p>		

授業のタイトル（科目名） <b>あそびと科学</b>	授業の種類 （ <b>講義</b> ）・演習・実習	授業担当者 <b>鶴ヶ谷 柊子</b>	
配当年次・時期 <b>2, 3, 4 年次・前期</b>	単位数 <b>2 単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	幼稚園教諭選択
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の活動を通して生活科の特徴を学び、教師としてどう関わるべきなのか考える。</li> <li>・幼児のあそびの中や身の回りにある科学現象を、実際の体験を通して理解する。</li> <li>・理解した科学現象について説明することができる。</li> </ul> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b></p> <p>こどもたちにとってあそびは自然なものであり、自ら発見し工夫が重ねられていくものである。そのあそびの中には多くの科学現象がつまっている。子どものあそびのなかにある科学現象について理解し、こどもの自然な学びをサポートできることを目指す。また、こどもの自然な興味・関心を伸ばす科目である生活科の特色を実際の活動から学ぶ。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b></p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. シーソー（てこの原理）</li> <li>2. 紙飛行機（揚力）</li> <li>3. 楽器づくり（音の伝搬）</li> <li>4. 折り紙（立体）</li> <li>5. スライムづくり（化学変化）</li> <li>6. ホバークラフト（空気のちから）</li> <li>7. いろ水（酸性とアルカリ性）</li> <li>8. 草花や木の観察（植物の体のつくりと環境）</li> <li>9. 身の回りの生き物の観察（昆虫の体のつくりと環境）</li> <li>10. 身の回りの生き物の観察（魚、鳥の体のつくりと環境）</li> <li>11. 水辺の生き物の観察（水辺の環境と生物の関係）</li> <li>12. 土と石（土壌の形成）</li> <li>13. 天気（天気の移り変わりと気圧）</li> <li>14. 太陽や星（天体の動きと季節）</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>試験・レポート等</p>			
<p><b>【準備学習】</b></p> <p>講義で取り扱った内容に関する科学現象を復習し、説明できるようにしておく。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b></p> <p>テキスト： 随時、資料を配布します。</p> <p>参考文献： 小学校学習指導要領解説 生活編（日本文教出版）</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b></p> <p>（試験やレポートの評価基準など）</p> <p>出席を含めた平常点：20%</p> <p>試験：40%</p> <p>レポート：40%</p>		

授業のタイトル (科目名) <b>国語</b>	授業の種類 ( <b>講義</b> )・演習・実習 )	授業担当者 <b>高野実貴雄</b>	
配当年次・時期 <b>3, 4 年次・前期, 後期</b>	単位数 <b>2 単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	幼稚園教諭選択
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          幼稚園教諭として心得ておくべき国語（国語学・国文学）の基礎的な事柄を項目別に理解し、現場で役立つ国語の知識を身に付けさせる。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          幼稚園教諭が現場ですぐに使うことを想定した国語（国語学・国文学）の基礎知識、もしくは早期教育での文字教育等の可能性をも勘案しての国語の講義とする。具体的には乳幼児の言葉に対する感覚から始めて漢字の話（六書等）、日本の文字（ひらがな等）、敬語、そして言葉遊び、昔話の構成、童謡、絵本の視点や語り手の問題、俳句の作り方、百人一首とカルタ遊びなどについて取り上げ、この講義の国語の基礎知識を幼児教育の中でどのように生かしていったらよいかを考えつつ講義を進める。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>          コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもと言葉の発達Ⅰ（0歳から3歳）</li> <li>2. 子どもと言葉の発達Ⅱ（4歳から6歳）</li> <li>3. 漢字の話（六書・漢字音・書体・常用漢字・教育漢字）</li> <li>4. ひらがな・カタカナ・送り仮名・仮名遣い・ローマ字</li> <li>5. 助数字（一本・一枚・一個）</li> <li>6. 敬語（尊敬語・謙譲語・丁寧語・美化語）</li> <li>7. 言葉遊び（なぞなぞとことわざ）</li> <li>8. 昔話とは</li> <li>9. 昔話の構成</li> <li>10. 唱歌と童謡</li> <li>11. 絵本の表現Ⅰ（視点）</li> <li>12. 絵本の表現Ⅱ（場面の連続性と語り手）</li> <li>13. 俳句の作り方（季語・取り合わせ・写生）</li> <li>14. 小倉百人一首と遊び方</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>試験</p>			
<p><b>【準備学習】</b>          予習は不要。復習は板書したノートに必ず目を通し、書き直すような形ですること。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          (テキスト)          授業で指示。</p> <p>(参考文献)          『新しい国語表記ハンドブック』三省堂</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>試験 90%</p> <p>平常点(出席状況・授業態度) 10%</p>		

授業のタイトル (科目名) <b>算数</b>	授業の種類 ( <b>講義</b> )・演習・実習 )	授業担当者 <b>橋本由美子</b>	
配当年次・時期 <b>3, 4 年次・前期, 後期</b>	単位数 <b>2 単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	幼稚園教諭選択
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          小学校算数の目標、4 領域「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の内容を具体的に見ていくことで、幼児期にも共通する数感覚・量感覚等を養う。          学生自身が算数に興味、関心を持てるようにする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          幼児教育で数についての感覚、量についての感覚、図形についての感覚を重視することにより、小学校における算数教育への滑らかな接続を図る。小学校・中学校の算数・数学教育の系統性を見通した幼児期における数・量・形について基本的な事柄を理解させる。数と計算、量と測定、図形領域において発達段階に応じた興味や関心、感覚が養われるように学生自身が先ず、自力解決する達成感を味わい、算数の楽しさを感得できるよう算数的な活動を取り入れるなど作業・体験を重視した指導法を考究する。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>  <b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 算数科学習指導要領の要点</li> <li>2. 算数科の目標と歴史的変遷</li> <li>3. 数学的な思考力・表現力とは</li> <li>4. 「数と計算」領域の内容</li> <li>5. 「量と測定」領域の内容</li> <li>6. 「図形」領域の内容</li> <li>7. 第 1 学年の内容</li> <li>8. 第 2 学年の内容</li> <li>9. 第 3 学年の内容</li> <li>10. 第 4 学年の内容</li> <li>11. 第 5 学年の内容</li> <li>12. 第 6 学年の内容</li> <li>13. 幼児期の数感覚・量感覚を豊かにするには</li> <li>14. 幼児期の図形感覚を豊かにするには</li> <li>15. 幼稚園・小学校を接続した算数的活動</li> </ol> <p>テスト</p>			
<p><b>【準備学習】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で使う教具を前もって準備しておく</li> <li>・算数に関する文献から教材研究をして授業に臨む</li> </ul>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          テキスト：          『小学校学習指導要領解説（算数編）』平成20年          参考文献：          「算数教育原論」東洋館出版社</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          (試験やレポートの評価基準など)          平常点(出席状況、授業への取り組み、レポート)          (30%)、定期試験(70%)の結果を総括して評価する。</p>		

授業のタイトル (科目名) <b>幼児体育</b>	授業の種類 ( 講義・ <b>演習</b> ・実習 )	授業担当者 <b>北原 澄高</b>	
配当年次・時期 <b>2年次・前期</b>	単位数 <b>1単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	<b>保育士必修 幼稚園教諭選択</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          多様な運動パターンの体験から運動を構成している要素を意識し、また様々な運動遊びに含まれる楽しさの質について実践を通しての考察を重ねながら、幼児への運動指導の基本的技能の獲得を図る。特別な運動技能を身に付ける過程ではなく、基本的な動きを獲得する過程において、特に必要とされる事柄を中心に学習する。</p> <p>また、運動を単に筋肉の動きのみでなく、心の動き、脳の動きを伴うものとして認識し、その視点から保育現場における子どもの見方、援助の方法について実践的に学習する。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          多様な運動パターンの体験から運動を構成する要素を意識し、また様々な運動遊びに含まれる楽しさの質について、実践を通しての考察を重ねながら幼児への運動指導の基本的技能の獲得を図ると共に、運動を単に筋肉の動きのみでなく、心の動きを伴うものとして捉え、運動指導の意義について実践的に学習する。また、運動を単に筋肉の動きのみでなく、心の動き、脳の動きを伴うものとして認識し、その視点から保育現場に於ける子どもの見方、援助の方法について実践的に学習する。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>  <b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス 授業の進め方や注意点等の確認</li> <li>2. 表現遊び ダンス「ディン・ドン・ダディ」を中心に行います</li> <li>3. 集団ゲーム遊び 鬼ごっこなどの多人数でできるゲームや遊び</li> <li>4. マット① 基礎的なマット運動</li> <li>5. マット② マットを利用した遊び</li> <li>6. ボール① 基礎的なボール運動</li> <li>7. ボール② ボールを利用した遊び</li> <li>8. 平均台 基礎的な平均台運動</li> <li>9. プレイバルーン プレイバルーンを使用した表現</li> <li>10. 鉄棒 簡単な鉄棒遊び</li> <li>11. 表現① オーレチャンプの練習①</li> <li>12. 表現② オーレチャンプの練習②</li> <li>13. 総合① 創作表現の発表会</li> <li>14. 総合② 運動会</li> <li>15. まとめ VTR鑑賞、前期の振り返り</li> </ol> <p>レポート提出</p>			
<p><b>【準備学習】</b></p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          参考書：保育と幼児期と運動あそび 岩崎洋子編</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          レポート：60%          出席を含めた授業への取り組み：40%</p>	

# こども専門科目

## (保育・福祉・教育の現場に学ぶ)

<b>授業のタイトル (科目名)</b> <b>保育実習指導 I A</b>	<b>授業の種類</b> <b>( 講義・演習・実習 )</b>	<b>授業担当者</b> 久富陽子・五十嵐裕子・菅野陽子・坪井瞳・朝田剛史	
<b>配当年次・時期</b> <b>2年次・前期</b>	<b>単位数</b> <b>1 単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>	<b>保育士必修</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          保育実習の意義・目的、保育実習 I A の内容を理解し、実習の計画を立てると共に自らの実習課題を明確にする。また、実習園における子どもの人権、最善の利益、プライバシーの保護、守秘義務の重要性を理解する。さらに、観察、実践、記録、評価の方法や内容を学び、実習後は、実習の総括と自己評価を行い、課題や学習の目標が明確にする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          保育士資格取得を目指す学生として、保育実習の意義や目的を理解し、保育実習 I A に必要な基本的な知識・態度、専門的な知識・技術を学ぶ。具体的には、実習に必要な書類についての知識、専門的な立場からの講和や視覚教材を用いた演習、倫理綱領や保育所保育指針、記録、指導案についての学習、実技の演習、オリエンテーションや実習での指導の受け方などについて学ぶ。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>  <b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 浦和大学が目指す保育者養成 保育実習の意義と目的 履修方法と条件 実習のスケジュールについて</li> <li>2. 保育実習 I A の目的と内容</li> <li>3. 保育所の役割と責任についての理解</li> <li>4. 保育士の業務・役割などについての理解</li> <li>5. 先輩から学ぶ</li> <li>6. 実習配属及び実習園についての理解</li> <li>7. 実習への準備① 実習の目的から実習課題を考える</li> <li>8. 実習への準備② 実習に必要な書類について知る</li> <li>9. 実習への準備③ 実習生としての姿勢を学ぶ(オリエンテーション、実習前、中、後)</li> <li>10. 実習記録について学ぶ</li> <li>11. 指導計画について学ぶ</li> <li>12. 保育技術の実践</li> <li>13. 事後指導 実習の振り返り</li> <li>14. 事後指導 実習報告会</li> <li>15. 事後指導 評価票面談 レポート</li> </ol>			
<p><b>【準備学習】</b>          保育所保育指針を熟読するとともに、自分がなぜ保育士を目指すのかを考えるとともに、保育士の役割と責任について調べておくこと。また、自分の長所や短所など、自己理解をしておくこと。また、他の教科の教科書などにある保育事例を読み、保育所や子どもについての具体的なイメージをもっておくこと。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          保育所保育指針          保育所保育指針解説書          「保育所職員ハンドブック」埼玉県社会福祉協議会</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          授業への取り組み：50%          レポート：50%          原則として、特別な理由以外での欠席は認めない。          課題や書類の提出期限は遵守すること。</p>	

<b>授業のタイトル (科目名)</b> <b>保育実習指導 I B</b>	<b>授業の種類</b> <b>( 講義・演習・実習 )</b>	<b>授業担当者</b> 大久保秀子・藤井和枝・ 五十嵐裕子・瓜巢由紀子・ 柴田崇浩・坪井瞳・朝田剛史	
<b>配当年次・時期</b> <b>2 年次・後期</b>	<b>単位数</b> <b>1 単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>	<b>保育士必修</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育所以外の児童福祉施設における実習の意義を理解し、利用児・者、施設への理解を図る。</li> <li>・ 実習計画、記録、評価について理解するとともに、利用児・者の人権擁護や守秘義務について確認する。</li> </ul> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b></p> <p>保育所以外の児童福祉施設（一部成人施設を含む）における実習の意義を理解し、実習施設の目的、利用児・者への理解、養護実践、生活支援・自立支援について学習し、自身の実習計画を立案する。また利用児・者の人権擁護や守秘義務への理解を図る。実習後は実習を総括し、今後の課題を明確にする。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b></p> <p><b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実習 I B の意義、目的、概要の説明</li> <li>2. 実習施設の種別についての説明と、配属希望調査について</li> <li>3. 配属先の発表、配属面談</li> <li>4. 実習施設についての理解(1)</li> <li>5. 実習施設についての理解(2)</li> <li>6. 施設の利用児・者への理解(1)</li> <li>7. 施設の利用児・者への理解(2)</li> <li>8. 実習計画、実習課題等の立案</li> <li>9. 実習書類（実習生カード等）の作成</li> <li>10. 実習における観察、記録及び評価</li> <li>11. 施設における人権擁護、子どもの最善の利益、プライバシー保護、守秘義務等</li> <li>12. 実習にあたっての諸注意</li> <li>13. 実習の総括と自己評価、評価票面談</li> <li>14. 実習での学びの共有(1)</li> <li>15. 実習での学びの共有(2) 自分の今後の課題や学習目標の明確化 試験・レポート等</li> </ol>			
<p><b>【準備学習】</b></p> <p>指示されたテキスト、『実習の手引き』の箇所を読んで授業に臨むこと。また実習に関する書類や、事前学習のためのレポート等は期日を守って提出すること。実習指導の授業に5分の4以上出席していない、また事前学習が十分になされていない場合は実習中止となる。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b></p> <p>テキスト：          浦和大学こども学部『実習の手引き』          その他未定</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b></p> <p>レポート等提出物：50%          授業への取り組み：50%</p>	

の保育  
 現場に  
 福祉学  
 教育  
 学ぶ

<b>授業のタイトル（科目名）</b> <b>保育実習 I A(保育所)</b>	<b>授業の種類</b> <b>( 講義・演習・(実習) )</b>	<b>授業担当者</b> 大久保・菅野・藤井・橋本・久富・船木・五十嵐・朝田・瓜巢・柴田・坪井							
<b>配当年次・時期</b> <b>2年次・集中</b>	<b>単位数</b> <b>2単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>	<b>保育士必修</b>						
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b></p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          保育士資格取得のために、見学実習、参加実習に加え、部分実習を含めた12日間の保育所実習を行う。実習を通じて保育の場に参加しながら、保育所の役割や機能について学び、乳幼児についての理解を深める。実習中のこどもとのふれあいを通じ、乳幼児の発達の実際について理解する。保育所の生活と保育士の役割、実習記録の書き方についても学習し、保育士としての基本的な態度を学ぶ。</p>									
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b></p> <p><b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所での見学実習のオリエンテーション：見学実習の目的と概要</li> <li>2. 保育所での見学実習と見学実習報告書の提出</li> <li>3. 保育所実習のオリエンテーション：保育実習 I A（保育所）の目的と概要</li> <li>4. 保育所実習</li> <li>5. 保育所実習</li> <li>6. 保育所実習</li> <li>7. 保育所実習（授業担当者が実習園を訪問し学生の指導を行う）</li> <li>8. 保育所実習</li> <li>9. 保育所実習（部分実習について、実習園の実習担当保育者より指導案等の指導を受ける）</li> <li>10. 保育所実習</li> <li>11. 保育所実習</li> <li>12. 保育所実習</li> <li>13. 保育所実習（実習園において部分実習を行う）</li> <li>14. 保育所実習</li> <li>15. 保育所実習（実習園における保育実習の反省会において、指導していただく）</li> </ol>									
<p><b>【準備学習】</b>          1年次に学んだこと、事前指導の内容を十分に理解してから実習に臨むこと。</p>									
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          『最新保育講座13 保育実習』 ミネルヴァ書房          『最新保育資料集2010』 ミネルヴァ書房          厚生労働省編『保育所保育指針解説書』          フレーベル館、2008</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          （試験やレポートの評価基準など）</p> <table border="0"> <tr> <td>実習記録</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>実習評価票</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>平常点(出席と取組の姿勢など)</td> <td>10%</td> </tr> </table>		実習記録	50%	実習評価票	40%	平常点(出席と取組の姿勢など)	10%
実習記録	50%								
実習評価票	40%								
平常点(出席と取組の姿勢など)	10%								

<b>授業のタイトル (科目名)</b> <b>保育実習 I B (福祉施設)</b>	<b>授業の種類</b> <b>( 講義・演習・(実習) )</b>	<b>授業担当者</b> <b>大久保・菅野・藤井・船木・五十嵐・朝田・瓜巢・柴田・坪井</b>	
<b>配当年次・時期</b> <b>2年次・集中</b>	<b>単位数</b> <b>2単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>	<b>保育士必修</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育所以外の児童福祉施設の役割や機能を具体的に理解する。</li> <li>・ 観察やかかわりを通して子どもへの理解を図る。</li> <li>・ 児童福祉施設で展開されている保育、養護及び保護者への支援について学ぶ。</li> <li>・ 保育、養護の計画、観察、記録、自己評価等について理解を図る。</li> <li>・ 児童福祉施設で働く保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ。</li> </ul> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原則として12日間、90時間以上の実習を行う。実習中は施設の実習担当職員の指導、また大学の巡回指導教員の指導を受ける。また日々の実習内容を記録して翌朝提出し、指導を受ける。</li> </ul>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b></p> <p><b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設実習のオリエンテーション：保育実習 I B (施設) の目的と概要</li> <li>2. 施設実習</li> <li>3. 施設実習</li> <li>4. 施設実習</li> <li>5. 施設実習</li> <li>6. 施設実習</li> <li>7. 施設実習 (授業担当者が実習施設を訪問し学生の指導を行う)</li> <li>8. 施設実習 (実習施設における施設実習の中間反省会において、指導していただく)</li> <li>9. 施設実習</li> <li>10. 施設実習</li> <li>11. 施設実習</li> <li>12. 施設実習</li> <li>13. 施設実習</li> <li>14. 施設実習</li> <li>15. 施設実習 (実習施設における施設実習の全体反省会において、指導していただく)</li> </ol> <p>試験・レポート等</p>			
<p><b>【準備学習】</b></p> <p>保育実習 I B の該当期に「保育実習指導 I B」を並行して履修し、事前学習を完了していることが実習の条件となる。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b></p> <p>テキスト： 浦和大学こども学部『実習の手引き』</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b></p> <p>実習記録：50%  実習評価票：40%  平常点(出席と取組の姿勢など)：10%</p>		

の保育・福祉教育現場に学ぶ

<b>授業のタイトル (科目名)</b> <b>保育実習指導Ⅱ</b>	<b>授業の種類</b> <b>( 講義・演習・実習 )</b>	<b>授業担当者</b> <b>藤井和枝・五十嵐裕子・坪井瞳・朝田剛史</b>	
<b>配当年次・時期</b> <b>3年次・後期</b>	<b>単位数</b> <b>1単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>	<b>保育士選択</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>  「保育実習Ⅱ」は、「保育実習ⅠA」及び「保育実習ⅠB」を履修した学生が、さらに保育所保育について学習するための科目である。「保育実習指導Ⅱ」では、「保育実習Ⅱ」の事前事後指導を行う。「保育実習Ⅱ」の意義と目的を理解し、自分の実習課題をもって実習に臨めるよう指導する。子どもの発達段階に適した部分実習の内容や環境構成について理解し、教材研究を行い、部分・責任実習の指導計画を作成する。保育所と家庭や地域との連携、保護者支援や子育て支援についても理解を深める。実習後は、実習の総括と自己評価を行い、今後の各自の課題を明確にする。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>  「保育実習Ⅱ」のための事前・事後指導を行う。事前指導では、「保育実習Ⅱ」の目的と意義を理解する。「保育実習ⅠA」では、保育所実習を行うにあたっての心構えや保育への参加の仕方についての基本を学習しており、「保育実習Ⅱ」では、「保育実習ⅠA」をふり返って明らかになった自己課題について再学習し、さらに深く学ぼう促す。実習記録においては、日々の実習のねらいと合致したエピソード記録と考察の書き方を学習する。また、子どもの発達段階に相応しい部分実習、責任実習の内容、環境構成、進め方、指導計画の立案について学習する。さらに、保育所と家庭や地域との連携、保護者支援や子育て支援などの保育所の社会的な役割についても事前に理解する。事後指導では、各自が実習をふり返り、実習の総括と自己評価を行い、今後の各自の課題を明確にする。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>  <b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「保育実習Ⅱ」の目的と概要、実習指導の進め方と日程</li> <li>2. 「保育実習ⅠA」のふり返りと実習課題</li> <li>3. 実習生カードの記入</li> <li>4. 保育所保育指針の解説1</li> <li>5. 保育所保育指針の解説2</li> <li>6. 部分実習の内容と教材研究、環境構成、進め方について</li> <li>7. 部分実習の指導計画の立案</li> <li>8. グループ学習—模擬保育—</li> <li>9. 責任実習の指導計画の立案—3歳未満児—</li> <li>10. 責任実習の指導計画の立案—3, 4, 5歳児—</li> <li>11. 実習記録の書き方—日々の実習のねらいとエピソード記録・考察との関連性—</li> <li>12. 直前指導—オリエンテーションを経ての指導—</li> <li>13. 「保育実習Ⅱ」のまとめと実習のふり返り</li> <li>14. 「保育実習Ⅱ」の報告会—グループディスカッション—</li> <li>15. 評価票面談</li> </ol>			
<p><b>【準備学習】</b>  毎回の授業で、次回の学習内容や次回までに行う課題について説明するので、予習を行い、課題に取り組む。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>  テキスト：  「保育所職員ハンドブック」埼玉県社会福祉協議会  保育所職員ハンドブック作成委員会 2009  参考文献：  厚生労働省編「保育所保育指針解説書」  フレーベル館 2008  その他の参考文献については、授業で適宜説明する。</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>  (試験やレポートの評価基準など)  平常点(出席状況、授業態度)：50%  レポートなどの課題の提出(期限・内容)：50%</p>		

<b>授業のタイトル (科目名)</b> <b>保育実習Ⅱ (保育所)</b>	<b>授業の種類</b> <b>( 講義・演習・(実習) )</b>	<b>授業担当者</b> <b>藤井和枝・橋本由美子・久富陽子・五十嵐裕子・坪井瞳・朝田剛史</b>							
<b>配当年次・時期</b> <b>3年次・集中</b>	<b>単位数</b> <b>2単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>	<b>保育士選択</b>						
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>  「保育実習Ⅱ」では、以下の4点について学ぶことを目的とする。①1週間ないしは2週間同じクラスで実習することにより、遊びや生活の中で、発達や個に応じた乳幼児理解とその援助方法を学ぶ。②集団の中での一人ひとりの乳幼児へのかかわりやクラス運営などにおけるきめ細かい保育士の役割を学ぶ。③実際に指導計画を立てて乳幼児とかかわる中で、教材研究や環境構成のあり方、計画と実践の関係について学ぶ。④保育所と家庭や地域との連携、子育て支援などの保育所の社会的な役割について学ぶ。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>  「保育実習Ⅱ」は、保育士資格のための選択必修科目である。「保育実習ⅠA」(保育所での実習)及び「保育実習ⅠB」(保育所以外の福祉施設での実習)を履修した者が履修し、保育所で12日間の実習を行う。「保育実習ⅠA」の学習内容をもとにして、責任実習の指導計画の立案や実施等を含む、さらにステップアップした保育実習である。</p>									
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>  <b>コマ数</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所実習のオリエンテーション：保育実習Ⅱ（保育所）の目的と概要</li> <li>2. 保育所実習</li> <li>3. 保育所実習</li> <li>4. 保育所実習</li> <li>5. 保育所実習</li> <li>6. 保育所実習</li> <li>7. 保育所実習（授業担当者が実習園を訪問し学生の指導を行う）</li> <li>8. 保育所実習（責任実習について、実習園の実習担当保育者より指導案等の指導を受ける）</li> <li>9. 保育所実習</li> <li>10. 保育所実習</li> <li>11. 保育所実習</li> <li>12. 保育所実習（実習園において責任実習を行う）</li> <li>13. 保育所実習</li> <li>14. 保育所実習</li> <li>15. 保育所実習（実習園における保育実習の反省会において、指導していただく）</li> </ol>									
<p><b>【準備学習】</b>  その日の実習をふり返り、次の日の実習のねらいを考え、そのねらいに添って準備をする。</p>									
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>  テキスト：  「最新保育講座13 保育実習」ミネルヴァ書房 2009  厚生労働省編「保育所保育指針解説書」フレーベル館 2008  「最新保育資料集2011」ミネルヴァ書房 2011  参考文献：  「保育所職員ハンドブック」埼玉県社会福祉協議会  保育所職員ハンドブック作成委員会 2009  その他の参考文献については、授業で適宜説明する。</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>  （試験やレポートの評価基準など）</p> <table border="0"> <tr> <td>実習記録</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>実習評価票</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>平常点(出席と取組の姿勢など)</td> <td>10%</td> </tr> </table>		実習記録	50%	実習評価票	40%	平常点(出席と取組の姿勢など)	10%
実習記録	50%								
実習評価票	40%								
平常点(出席と取組の姿勢など)	10%								

の保育・福祉教育現場に学ぶ

授業のタイトル (科目名) <b>保育実習指導Ⅲ</b>	授業の種類 ( 講義・ <b>演習</b> ・実習 )	授業担当者 大久保秀子・菅野陽子・ 瓜巢由紀子・柴田崇浩	
配当年次・時期 <b>3年次・後期</b>	単位数 <b>1単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	<b>保育士選択</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          社会福祉施設の実習を通じて、利用児・者とのかかわりを深め、施設の機能と課題について十分に理解するとともに、福祉施設における保育士の役割、他職種との連携、チームワークについて学ぶ。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          保育実習ⅠA、ⅠBの修了者が選択する12日間の社会福祉施設実習である。居住型または通所型の施設における養護的側面、個々の利用者理解と支援、施設における職員の職務、チームワークの重要性などについて体験を通じて理解を深める。保育実習の総括的な実習となることから、3回の実習をふり返って学び得たことを実習報告書として執筆し、学生自身の実習全体への省察と今後の学習課題を明らかにする。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>          コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業オリエンテーション、施設実習配属調査アンケート</li> <li>2. 配属面談</li> <li>3. 実習目標と実習課題</li> <li>4. 実習施設の理解1</li> <li>5. 実習施設の理解2</li> <li>6. 利用児・者、職員とのコミュニケーション</li> <li>7. 実習記録と評価の観点</li> <li>8. 実習に必要な事務手続き</li> <li>9. 施設でのオリエンテーション</li> <li>10. 実習中の諸注意</li> <li>11. 実習報告会</li> <li>12. 実習評価票面談</li> <li>13. 実習後ふり返り面談、報告書執筆指導</li> <li>14. 実習報告書執筆指導</li> <li>15. 実習報告書執筆指導</li> </ol>			
<p><b>【準備学習】</b>          毎日の実習に先立って翌日の実習目標を立ててから臨む。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          テキスト：          浦和大学こども学部『保育実習の手引き』</p> <p>参考文献：          『最新保育講座13 保育実習』（ミネルヴァ書房）</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          報告書：40%          提出物：30%          平常点：30%</p>		

授業のタイトル（科目名） <b>保育実習Ⅲ（福祉施設）</b>	授業の種類 （ 講義・演習・ <b>実習</b> ）	授業担当者 大久保秀子・菅野陽子・船木美佳・ 瓜巢由紀子・柴田崇浩・田中泉	
配当年次・時期 <b>3年次・集中</b>	単位数 <b>2単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	<b>保育士選択</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          社会福祉施設の実習を通じて、利用児・者とのかかわりを深め、施設の機能と課題について十分に理解するとともに、福祉施設における保育士の役割、他職種との連携、チームワークについて学ぶ。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          保育実習ⅠA、ⅠBの修了者が選択する12日間の社会福祉施設実習である。居住型または通所型の施設における養護的側面、個々の利用者理解と支援、施設における職員の職務、チームワークの重要性などについて体験を通じて理解を深める。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>          コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設実習</li> <li>2. 施設実習</li> <li>3. 施設実習</li> <li>4. 施設実習</li> <li>5. 施設実習</li> <li>6. 施設実習</li> <li>7. 施設実習（実習指導教員の巡回指導）</li> <li>8. 施設実習（実習施設における中間反省会）</li> <li>9. 施設実習</li> <li>10. 施設実習</li> <li>11. 施設実習</li> <li>12. 施設実習</li> <li>13. 施設実習</li> <li>14. 施設実習</li> <li>15. 施設実習</li> </ol>			
<p><b>【準備学習】</b>          毎日の実習に先立って翌日の実習目標を立ててから臨む。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>          テキスト：          浦和大学こども学部『保育実習の手引き』</p> <p>参考文献：          『最新保育講座13 保育実習』（ミネルヴァ書房）</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>          実習記録：50%          実習評価票：40%          平常点（出席と取組の姿勢など）：10%</p>	

の保育現場に学ぶ

授業のタイトル(科目名) <b>幼稚園教育実習指導</b>	授業の種類 ( 講義・演習・ <b>実習</b> )	授業担当者 橋本由美子・久富陽子・坪井瞳	
配当年次・時期 <b>3, 4 年次・開講日指定</b>	単位数 <b>1 単位</b>	必修・選択 <b>選択</b>	<b>幼稚園教諭必修</b>
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b> 幼稚園教育実習に向けての事前指導を通して、幼稚園の機能と役割、実習の基本的な知識、技術を習得する。 幼稚園教育実習後には自らの実習を振り返ることで自分の課題を明らかにするとともに、幼稚園教育の意味・方法を再認識する。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b> 教育実習前には、幼稚園の機能と役割、実習の目的、実習のテーマ、観察や記録の仕方、実習日誌の書き方、部分・責任実習の進め方など、実習の基本的な知識、技術を習得する。実習後は、実習体験の報告と検討、レポートの作成等を行い、実習で学んだことの意味を改めて問い直し自分の課題を明らかにするとともに、幼稚園教育の意味、方法について再認識する。</p>			
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b> コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼稚園教育実習Ⅰ及びⅡの概要・意義・目的</li> <li>2. 幼稚園教育実習Ⅰの目標と課題</li> <li>3. 幼稚園教育実習Ⅰの内容と進め方</li> <li>4. 特別講義</li> <li>5. 幼稚園教育実習Ⅰの直前指導</li> <li>6. 幼稚園教育実習Ⅰの振り返りとまとめ</li> <li>7. 幼稚園教育実習Ⅱの課題と目標</li> <li>8. 幼稚園教育実習Ⅱの内容と進め方</li> <li>9. 幼稚園教育実習準備1</li> <li>10. 幼稚園教育実習準備2</li> <li>11. 指導案準備1</li> <li>12. 指導案準備2</li> <li>13. 幼稚園教育実習Ⅱの直前指導</li> <li>14. 幼稚園教育実習Ⅱの振り返りとまとめ</li> <li>15. 幼稚園教育実習Ⅰ及びⅡの振り返りとまとめ 報告書作成</li> </ol>			
<p><b>【準備学習】</b> ・幼稚園教育要領を復習しておく。 ・ピアノ、手遊び、パープサートなど各自事前に準備しておく。</p>			
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b> 『幼稚園教育要領解説』フレーベル館</p>		<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b> (試験やレポートの評価基準など) 評価の視点 平常点(出席状況・授業及び課題への取りくみ):30% 保育実践への取り組み(ピアノ等):20% 指導案、提出物、レポート等:50%</p>	

<b>授業のタイトル（科目名）</b> <b>幼稚園教育実習 I（基礎）</b>	<b>授業の種類</b> <b>（ 講義・演習・<u>実習</u>）</b>	<b>授業担当者</b> <b>藤井和枝・橋本由美子・久富陽子・田中泉・坪井瞳</b>							
<b>配当年次・時期</b> <b>3年次・集中</b>	<b>単位数</b> <b>2単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>	<b>幼稚園教諭必修</b>						
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>  幼稚園教諭に求められる基礎的な技能を実際の現場で学び、学内授業で身につけた理論的予習の成果と結びつけながら理解を深める。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>  観察実習、参加実習を中心に、幼稚園という教育機関の具体的な環境、幼稚園教諭の仕事の実際、具体的な子どもの姿について学ぶ。また、実習指導担当教諭のもとで部分実習を行い幼児理解に基づく指導・援助の方法についても学ぶ。</p>									
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>  <b>コマ数</b>  年少から年長までの各発達段階における幼児教育のあり方について幼稚園において学ぶ2週間の現場実習である。  事前訪問による学習、見学・観察実習、参加実習、部分実習、放課後における実習指導並びに学級や園の運営に関する学習並びに、基礎的な技能を実際の現場で学ぶ。</p>									
<p><b>【準備学習】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習園について調べる。</li> <li>・課題で出されたピアノ、手遊び、ペープサートなどができるようにしておく。</li> </ul>									
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>  『幼稚園教育要領解説』フレーベル館</p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>  （試験やレポートの評価基準など）</p> <table border="0"> <tr> <td>実習記録</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>実習評価票</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>平常点(出席と取組の姿勢など)</td> <td>10%</td> </tr> </table>			実習記録	50%	実習評価票	40%	平常点(出席と取組の姿勢など)	10%
実習記録	50%								
実習評価票	40%								
平常点(出席と取組の姿勢など)	10%								

<b>授業のタイトル（科目名）</b> <b>幼稚園教育実習Ⅱ（応用）</b>	<b>授業の種類</b> <b>（ 講義・演習・<u>実習</u>）</b>	<b>授業担当者</b> <b>藤井和枝・橋本由美子・久富陽子・田中泉・坪井瞳</b>							
<b>配当年次・時期</b> <b>4年次・集中</b>	<b>単位数</b> <b>2単位</b>	<b>必修・選択</b> <b>選択</b>	<b>幼稚園教諭必修</b>						
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>          幼稚園教育実習Ⅰ（基礎）をふまえて、指導案を立案して責任実習を行うことにより、幼稚園での実践的な能力をより高める。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b>          幼稚園教育実習Ⅰ（基礎）から得た各自の実習課題をもとに実習に臨む。参加実習を経た後に、実習指導担当教諭のもとで指導案を立案し部分・責任実習を行う。それらを通して子どもたちの園生活の実態、環境構成、保育者の援助、指導などについての理解をさらに深め、保育者になるにあたっての各自の課題を自覚する。</p>									
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b>  <b>コマ数</b></p> <p>幼稚園教育実習Ⅰでの学習をふまえ、年少から年長までの各発達段階における幼児教育のあり方について学び、部分実習を中心として実施し、総まとめとして責任実習を行う2週間の現場実習である。</p> <p>事前訪問による学習、見学・観察実習、参加実習、部分実習、責任実習、放課後における実習指導並びに学級や園の運営に関する学習を行う。</p>									
<p><b>【準備学習】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピアノ、手遊び、ペープサートができるようにしておく。（各自、数を増やしておく）</li> <li>・園のオリエンテーションに基づき、園の教育方針等について、事前に調べておく。</li> </ul>									
<p><b>【使用テキスト・参考文献】</b>  <b>『幼稚園教育要領解説』フレーベル館</b></p>	<p><b>【単位認定の方法及び基準】</b>  <b>（試験やレポートの評価基準など）</b></p> <table border="0"> <tr> <td>実習記録</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>実習評価票</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>平常点(出席と取組の姿勢など)</td> <td>10%</td> </tr> </table>			実習記録	50%	実習評価票	40%	平常点(出席と取組の姿勢など)	10%
実習記録	50%								
実習評価票	40%								
平常点(出席と取組の姿勢など)	10%								

# 索 引

[あ]		[く]	
アジアの社会と文化	16	グループダイナミクス	65
あそびと科学	126	[け]	
アメリカの生活と文化	17	健康とスポーツ	26
[い]		現代人と宗教	9
生き物の科学	25	[こ]	
生きる心理学	23	声とからだ	119
イノセンスアート	122	国語	127
インターンシップ	42	国際こども福祉	52
[え]		子育てと父親	77
英語コミュニケーションA		こどもと音楽A	
（こどもの文化）	35	（理論・ピアノ・こどもの歌）	113
英語コミュニケーションB		こどもと音楽B	
（日常会話）	36	（理論・ピアノ・簡易楽器）	114
絵本と児童文学	123	こどもと学習活動	104
[お]		こどもと福祉社会	46
おもちゃ論	124	こどもの食と栄養	86
[か]		こどもの食と調理	87
海外セミナー	54	こどもの人権	47
絵画制作	121	こどもの心理療法	75
家族支援の展開	49	こどもの保健Ⅰ	83
家族の心理学	74	こどもの保健Ⅱ	84
家庭支援論	66	こどもの保健演習	85
歌舞伎入門	14	こども理解と観察	45
カリキュラム論	103	コミュニケーションスキル	32
韓国語コミュニケーション	38	コミュニティの社会学	7
[き]		コミュニティの心理学	78
器楽・合奏	120	コンピュータリテラシⅠ（基礎）	33
キャリアデザインA（就職基礎）	39	コンピュータリテラシⅡ（応用）	34
キャリアデザインB（就職研究）	40	[さ]	
キャリアデザインC（就職実践）	41	算数	128
教育学概論	10	[し]	
教育原理	82	ジェンダーと家族	48
教育社会学	101	自然科学の成立と発展	21
教育心理学	73	児童家庭福祉論	60
教育の制度と経営	102	児童文化	116
教育の方法と技術	105	社会的養護内容	62
教職概論	106	社会的養護論	61
		社会福祉概論	59
		障害児保育	95

障害児保育演習	96	保育実習ⅠB（福祉施設）	136
[す]		保育実習Ⅱ（保育所）	138
スタディスキル	31	保育実習Ⅲ（福祉施設）	140
[せ]		保育実習指導ⅠA	133
生活と環境	24	保育実習指導ⅠB	134
生命の倫理	22	保育実習指導Ⅱ	137
[そ]		保育実習指導Ⅲ	139
造形表現（図画工作）	115	保育者論	98
相談援助演習	63	保育所の運営	99
卒業研究	55	保育相談支援	64
[た]		保育内容（環境）	90
体育実技	27	保育内容（健康）	91
多文化と保育	100	保育内容（ことば）	92
[ち]		保育内容（人間関係）	89
地域支援の展開	50	保育内容（表現）	93
地域資源とネットワーク	51	保育内容総論	88
中国語コミュニケーション	37	保育の心理学演習	72
[に]		保育方法の研究	97
日本文化	15	法学（日本国憲法を含む）	8
乳児保育	94	ボランティア・NPO論	67
[は]		[や]	
発達心理学	71	やさしい経済学	11
[ひ]		[よ]	
ピアノ応用	117	幼児体育	129
ピアノ実践	118	幼稚園教育実習Ⅰ（基礎）	142
美と表現	13	幼稚園教育実習Ⅱ（応用）	143
[ふ]		幼稚園教育実習指導	141
フィールド演習	53	[れ]	
[ほ]		歴史入門	12
保育カウンセリング	76		
保育教材演習	125		
保育・教職実践演習（幼稚園）	107		
保育原理	81		
保育実習ⅠA（保育所）	135		